

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第 12 集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 11

NAGAMIYA SITE

長宮遺跡第34・36地点

MATSUYAMA SITE

松山遺跡第 56 地点

NISHINOHARA SITE

西ノ原遺跡第 150 地点

2014 年 3 月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第12集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 11

NAGAMIYA SITE

長宮遺跡第34・36地点

MATSUYAMA SITE

松山遺跡第56地点

NISHINOHARA SITE

西ノ原遺跡第150地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることが出来ます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めてこの地域の繋がりや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、民間の開発業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会

教育長職務代理者 高山 稔

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、発掘調査4件の報告書である。
2. 民間開発を原因として行なった4ヶ所の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行なった。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行なった。

遺跡名・地点名	委託者	協定期間
長宮遺跡第34地点	宮寺 聖治	平成23年11月2日～平成26年3月31日
長宮遺跡第36地点	横山 公一	平成23年10月21日～平成26年3月31日
松山遺跡第56地点	木崎 長子	平成23年4月11日～平成26年3月31日
西ノ原遺跡第150地点	株式会社 住協	平成24年2月20日～平成26年3月31日

3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係調査担当者	高崎直成
担当課	生涯学習課文化財保護係	調査担当者	鍋島直久
教育長	矢島秀一 (2010.3.19～2014.3.18)	庶務担当	橋本鶴人
教育長職務代理者	高山 稔 (2014.3.19～2014.3.31)		国分英良
生涯学習部長	高梨真太郎 (2010.4.1～2012.3.31)		柳澤健司
	綾部 誠 (2012.4.1～2013.3.31)		岡 健二
	高山 稔 (2013.4.1～2014.3.31)	発掘調査員補	越村 篤
生涯学習課長兼参事	綾部 誠 (2010.4.1～2012.3.31)	嘱託員	藤牧守絵(2003.4～2012.3.31)
生涯学習課長兼副参事	桜井信枝 (2012.4.1～)		配島結華(2012.4.1～2013.3.31)
文化財保護係長	坪田幹男 (2007.4.1～2011.3.31)	臨時的任用職員	高橋京子
	橋本鶴人 (2011.4.1～)		

4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本文・遺構執筆：鍋島直久、遺物観察表：越村篤、第2・3章出土遺物：笹森健一、文字データ入力：大久保明子
図版作成の一部を(株)東京航業研究所に委託した。

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)

会田明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井潔、酒井智晴、佐藤啓子、佐藤良博、塩野敏和、鈴木清、高木文夫、田中信、丹治剛、角田史雄、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、和田晋治

埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館、(有)文化財COM、(有)アルケーリサーチ、(株)東京航業研究所

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略) 明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、壹岐久子、井上晴江、井上麻美子、白井孝、金子君子、川中ひろみ、菊口繁子、小林こずい、西城満期子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、篠崎忠三、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、山内康代、米田昇三、若林紀美代
〈整理作業参加者〉(敬称略) 青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平静

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3 銭 1:1

- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

- (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土  朱  土器 ● 石器 ★

黒曜石・チャート ▲ 礫 ○

- (4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わす。

- (5) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 11 目次

はじめに	i
例 言	ii
凡 例	ii
目 次	iii
挿図目次	iv
表 目 次	iv
写真図版目次	iv
第 1 章 ふじみ野市の遺跡	1
I ふじみ野市の立地と環境	1
II 市内の遺跡	2
第 2 章 長宮遺跡第 34 地点の本調査	5
I 遺跡の立地と環境	5
II 本調査に至る経過と調査の概要	5
III 遺構と遺物	7
第 3 章 長宮遺跡第 36 地点の本調査	21
I 本調査に至る経過と調査の概要	21
II 遺構と遺物	21
第 4 章 松山遺跡第 56 地点の本調査	34
I 遺跡の立地と環境	34
II 本調査に至る経過と調査の概要	36
III 遺構と遺物	36
第 5 章 西ノ原遺跡第 150 地点の本調査	40
I 遺跡の立地と環境	40
II 本調査に至る経過と調査の概要	40
III 遺構と遺物	44
第 6 章 まとめ	52
写真図版	53
抄 録	73

挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	1	第22図	長宮遺跡第36地点溝②(1/100)	28
第2図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	3	第23図	長宮遺跡第36地点出土遺物①(1/4)	30
第3図	長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)	5	第24図	長宮遺跡第36地点出土遺物②(1/4・2/3・1/1)	31
第4図	長宮遺跡第34地点遺構配置図(1/300)	7	第25図	長宮遺跡第36地点出土遺物③(1/6)	32
第5図	長宮遺跡第34地点J9号住居跡(1/60)	8	第26図	長宮遺跡第36地点出土遺物④(1/6)	33
第6図	長宮遺跡第34地点J9号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)	9	第27図	松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)	34
第7図	長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物①(1/4)	11	第28図	松山遺跡第56・57地点遺構配置図(1/300)	37
第8図	長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物②(1/4)	12	第29図	松山遺跡第56地点土坑1遺物出土状況図(1/60)	37
第9図	長宮遺跡第34地点炉穴①・土坑①(1/60)	14	第30図	松山遺跡第56地点掘立柱建物跡・ピット・溝(1/60)	38
第10図	長宮遺跡第34地点炉穴②・井戸①・落とし穴(1/60)	15	第31図	松山遺跡第56地点出土遺物(1/4・1/2)	39
第11図	長宮遺跡第34地点井戸②・土坑②・ピット①(1/60)	16	第32図	西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)	40
第12図	長宮遺跡第34地点土坑③・ピット②(1/60)	17	第33図	西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000)	42
第13図	長宮遺跡第34地点溝(1/80)	18	第34図	西ノ原遺跡第150地点遺構配置図(1/300)、189号住居跡(1/60)、炉(1/30)	46
第14図	長宮遺跡第34地点出土遺物①(1/4)	19	第35図	西ノ原遺跡第150地点190号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)	47
第15図	長宮遺跡第34地点出土遺物②(1/4・2/3)	20	第36図	西ノ原遺跡第150地点191号住居跡・ピット(1/60)、埋甕(1/30)	48
第16図	長宮遺跡第36地点遺構配置図(1/300)	21	第37図	西ノ原遺跡第150地点炉穴・集石土坑1・2(1/30)	49
第17図	長宮遺跡第36地点焼土(1/30)、井戸①(1/60)	23	第38図	西ノ原遺跡第150地点189・190号住居跡出土遺物①(1/4)	50
第18図	長宮遺跡第36地点井戸②(1/60)	24	第39図	西ノ原遺跡第150地点191号住居跡集石土坑・遺構外出土遺物②(1/4)	51
第19図	長宮遺跡第36地点土坑(1/60)	25			
第20図	長宮遺跡第36地点ピット(1/60)	26			
第21図	長宮遺跡第36地点溝①(1/100)	27			

表 目 次

第1表	ふじみ野市遺跡一覧表	2	第9表	長宮遺跡第36地点溝一覧表	22
第2表	長宮遺跡調査一覧表	6	第10表	長宮遺跡第36地点出土遺物観察表	29
第3表	長宮遺跡第34地点J9号住居跡ピット一覧表	12	第11表	長宮遺跡第36地点出土石板観察表	33
第4表	長宮遺跡第34地点炉穴一覧表	13	第12表	松山遺跡調査一覧表	35
第5表	長宮遺跡第34地点井戸・土坑・ピット一覧表	13	第13表	松山遺跡第56地点土坑・ピット一覧表	39
第6表	長宮遺跡第34地点溝一覧表	18	第14表	西ノ原遺跡調査一覧表	41
第7表	長宮遺跡第34地点出土遺物観察表	20	第15表	西ノ原遺跡住居跡一覧表	43
第8表	長宮遺跡第36地点井戸・土坑・ピット一覧表	22	第16表	西ノ原遺跡189～191号住居跡ピット一覧表	48
			第17表	西ノ原遺跡第150地点集石土坑出土礫観察表	48

写真図版目次

写真図版1	長宮遺跡第34地点(1)	53	写真図版11	長宮遺跡第36地点(4)	63
写真図版2	長宮遺跡第34地点(2)	54	写真図版12	長宮遺跡第36地点(5)	64
写真図版3	長宮遺跡第34地点(3)	55	写真図版13	松山遺跡第56地点(1)	65
写真図版4	長宮遺跡第34地点(4)	56	写真図版14	松山遺跡第56地点(2)	66
写真図版5	長宮遺跡第34地点(5)	57	写真図版15	西ノ原遺跡第150地点(1)	67
写真図版6	長宮遺跡第34地点(6)	58	写真図版16	西ノ原遺跡第150地点(2)	68
写真図版7	長宮遺跡第34地点(7)	59	写真図版17	西ノ原遺跡第150地点(3)	69
写真図版8	長宮遺跡第36地点(1)	60	写真図版18	西ノ原遺跡第150地点(4)	70
写真図版9	長宮遺跡第36地点(2)	61	写真図版19	長宮遺跡第34・36地点試掘調査	71
写真図版10	長宮遺跡第36地点(3)	62	写真図版20	松山遺跡第56地点・西ノ原遺跡第150地点試掘調査	72

第1章 ふじみ野市の遺跡

I ふじみ野市の立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地

（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



(原図 堀口1980に一部加筆)

第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が

丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1 km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷲森遺跡が存在する。

福岡江川の900 m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3 km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の堀跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷲森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	浄禅寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027



ふじみ野市全図

第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

第2章 長宮遺跡第34地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる

m遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2013年12月現在46ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年6月2日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年6月27日から7月16日まで行った。幅約1.5mのトレンチ5本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代早期の炉穴や前期の住居跡、土坑、ピット、近世以降の井戸や溝等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは、近



第3図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第2表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	長宮2-1-23	1977.10.3～30	1,000	保育園	溝3、土坑48、柱穴	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
2次	長宮2-1-27	1978.4.25～5.15	235	民間宅地	溝2、土坑1、石臼、板碑、磁石、古銭、陶器、馬骨	埋(1)
3次	長宮2-5-11	1978.7.24～30	111	民間宅地	土坑1	埋(1)
4次	長宮1-1-14	1978.10.6～9	37		住居跡1、土師器、須恵器、鉄製品	埋(1)
5次	長宮2-5-2	1979.4.16～20	110		縄文前期住居跡1、縄文土器片	埋(II)(IV)
6次	中丸1-4-13	1980.4.21～30	515		遺構なし、中世以降陶器片	埋(III)
7次	中丸1-3-6	1980.5.13～31	869		溝、井戸跡、縄文土器、中世以降陶器片	埋(III)
8次	長宮2-1-10～13	1980.9.8～10.8	1,900	宅地造成	中世溝、井戸、土坑、板碑、磁石、陶磁器、古銭、馬歯	遺調1集
9次	長宮1-4-10	1980.9.21～30	200		遺構なし、中世以降陶器片	埋(III)
10次	長宮2-3-4	1980.12.5～15	485		溝、土坑他、縄文前期土器・石器、中世以降古銭・陶器	埋(III)
11次	長宮2-2-10	1980.12.16～22	117		溝、縄文土器片、中世以降陶器	埋(III)
12次	長宮1-2-7	1981.5.26～30	160	個人住宅	溝1、中世陶器片、縄文土器片	埋(IV)
13次	長宮1-2-13	1981.6.3～11	251	個人住宅	遺構なし、中世陶器片	埋(IV)
82試	長宮1-2-12		1,000	歴史民俗資料館	溝2	57年教委
14次	長宮2-2-1	1985.9.24～27	156	個人住宅	溝1	埋(III)
15次	西原2-5-8	1985.10.22～31	116	個人住宅	なし	埋(III)
85試	長宮1-2-11	(1986.3.6～15)	400	学童保育	溝2	60年教委
16次	長宮1-4-7	1986.6.9～17	173	個人住宅	縄文土器片	埋(IX)
17次	中丸1-3-11	1987.6.19～30	504	個人住宅	縄文前期土器散布	埋(X)
88試	長宮1-3-8	(1988.9.13～16)	657	住宅建設	なし	埋(11)
89試(1)	長宮1-3-9	(1989.9.20～30)	448	住宅建設	なし	埋(12)
89試(2)	長宮2-5-19	(1989.11.14～24)	1,778	住宅建設	なし	埋(12)
90試	長宮2-5-4	(1990.11.27～30)	919	共同住宅	なし	埋(13)
18次	長宮2-5-3	1992.10.6～12.2	925	共同住宅	縄文住居跡1、中近世土坑2、溝5	埋(15)
19次	長宮1-2-21,35	1993.12.17～1994.1.22	467	駐車場	古墳末期住居跡1	埋(15)
93試	長宮2-4-2の一部	(1994.2.10～28)	1,502	共同住宅	溝2、土坑1、中世後期板碑	5年教委
94試	西原2-5-1	(1994.7.25～8.2)	314	心身障害者デイケア施設	断面函形溝1	埋(17)
20次	長宮2-1-22の一部	1995.4.10～5.9	170	個人住宅	中近世溝4	埋(18)
21次	長宮2-1-63,65	(1995.6.19～8.8)	361	個人住宅	中近世溝1、井戸7	埋(18)
95試(1)	長宮2-1-20外	(1995.8.9～28)	421	市道敷設	なし	埋(18)
95試(2)	上/原3-1-6外4棟	(1995.10.4～12)	1,528	共同住宅	溝1	埋(18)
95試(3)	長宮2-1-60	(1995.10.23～25)	269	駐車場	中近世溝1、井戸4	埋(18)
22次	長宮2-1-60	1995.10.27～11.9	269	駐車場	中近世井戸跡4、溝1、陶器、板碑破片、かわらけ、	遺調6集
95試(4)	長宮1-3-13	(1995.12.12～25)	120	駐車場	なし	埋(18)
96試(1)	長宮1-2-16	(1996.7.12～18)	349	宅地造成	なし	埋(19)
96試(2)	中丸2-2-9他3棟	(1996.11.7)	568	宅地造成	なし	埋(19)
96試(3)	長宮1-2-4	(1997.1.14～21)	794	共同住宅	古墳～奈良住居跡1	埋(19)
96試(4)	長宮2-2-4	(1997.2.24)	205	社務所改築	なし	8年教委
97試(1)	長宮2-3-3	(1997.4.8～9)	611	農地天地返し	溝1(時期不明)	埋(20)
97試(2)	長宮2-1-2	(1997.4.9～11)	289	個人住宅	土坑1(時期不明)	埋(20)
97試(3)	長宮1-2-36,37	(1997.6.4～5)	423	駐車場	溝1	埋(20)
97試(4)	西原2-5-6	(1997.8.15～21)	753	駐車場	中近世堅穴状遺構1	埋(20)
98試	中丸1-2-4	(1998.11.24～27)	1,014	宅地造成	なし	埋(21)
99試	中丸1-3-12	(1999.11.8～16)	98	個人住宅	溝1、縄文前期集石2	埋(22)
00試(1)	中丸1-4-7	(2000.7.4～11)	932	宅地造成(土地分譲)	縄文前期(関山期)住居跡5、土坑13	埋(23)
00試(2)	西原2-4-8,10	(2000.7.17～24)	1,081	宅地造成(土地分譲)	なし	埋(23)
00試(3)	長宮2-1-17	(2000.8.21～23)	687	共同住宅	なし	埋(23)
00試(4)	長宮1-3-3A,4A	(2001.1.17～23)	1,119	宅地造成(土地分譲)	近世以降土坑1	埋(23)
23次	中丸1-4-7	2001.7.18～26	137	個人住宅	土坑6(縄文早期後葉1、前期4、近世以降1)	埋(24)
01試(1)	長宮2-1-3	(2001.4.20～24)	330	個人住宅	なし	埋(24)
01試(2)	西原2-4-7	(2001.5.25)	634	共同住宅	なし	埋(24)
01試(3)	中丸1-1-3	(2001.8.7～24)	513	共同住宅	道路状遺構1、縄文前期土坑1	埋(24)
01試(4)	長宮2-8-6	(2001.11.6)	130	個人住宅	なし	13年教委
02試(1)	長宮1-3-2～5	(2002.6.5～11)	3,536	宅地造成(土地分譲)	住居跡2【盛土保存】	埋(25)
02試(2)	長宮1-4-3	(2002.6.20～7.2)	575	確認調査	住居跡2、溝2	埋(25)
02試(3)	中丸1-1-5	(2002.9.3～11)	622	宅地造成(土地分譲)	道路状遺構1	埋(25)
02試(4)	長宮1-3-31	(2002.9.20～25)	362	地区計画道路	溝1	埋(25)
24次	長宮1-4-3	2003.1.30～2.14	72	個人住宅	住居跡2	14年教委
02試(5)	長宮2-5-6	(2003.3.10～12)	827	宅地造成	住居跡1【盛土保存】	14年教委
03試(1)	長宮2-5-30,32	(2003.9.16)	197	区画道路	なし	埋(26)
03試(2)	長宮2-4-7	(2003.12.16～18)	1,123	宅地造成	井戸跡1	埋(26)
04試(1)	中丸1-1-11	(2004.11.26)	488	宅地造成	なし	埋(27)
04試(2)	長宮1-2-15	(2004.12.7～9)	466	農地改良	なし	埋(27)
25	中丸1-4-8	(2007.2.15～16)	1,161	個人住宅	ピット3、縄文土器・石器他	市内3
26	西原2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30～31)	175	個人住宅	溝、保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31～6.5) 2007.6.6～22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ピット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
工事立会	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20～12.3) 12.4～5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ピット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28～11.2) 11.4～12.8	1,362.1	老人福祉施設	中近世土坑、井戸、ピット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7、8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15～25) 2011.2.4～26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ピット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7、8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19～5.31)	534	分譲住宅	堀跡1	未報告
34	中丸2-2-2,46	(2011.6.27～7.16) 2011.11.2～12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期炉穴、前期(関山期)住居跡1、近世溝、縄文土器他	市内11
35	上/原3-1-4	(2011.9.9～27)	1,157.88	共同住宅	縄文時代焼土跡1	未報告
36	長宮2-4-3	(2011.10.4～17) 10.21～11.14	981	個人住宅	中近世井戸15、土坑5、溝15、ピット多数、板碑他	市内11
37	上/原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	未報告
38	長宮1-4-27	(2011.11.24～25)	101	分譲住宅	なし	未報告
39	長宮2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	なし	未報告
40	西原2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	未報告
41	福岡字丸橋 988-1～3、989-2～5、990-3	(2012.4.17～5.31) 6.11～7.23	1,152.62	分譲住宅	炉穴1、焼土面1、落とし穴1、土坑12、ピット33、溝1、縄文前期土器片・石器、近世陶磁器等	市内12

※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教委：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

世以降の時期で約 80 cm、縄文時代では約 120 cmである。しかし造成のため表土層の削平が約 60 cm行われ、遺跡への影響が避けられないことから原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。ただし南東と北西隅の二区画と通路（駐車場部分）については、雨水等の浸透トレンチの設計変更などにより工事立会とし、本調査の対象区域から除外した。

本調査は遺跡の確認された区画を、2011年11月2日から12月1日まで、重機により除去し人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代早期炉穴7基、前期住居跡1軒、落とし穴1基、土坑11基、ピット25基、近世以降の井戸9基、溝3本などある。遺物は縄文時代早期から前期の土器、石器、近世以降の陶磁器などである。

III 遺構と遺物

(1) J9号住居跡

【位置】長宮遺跡の縄文時代前期の集落配置でみると、北側に位置する。今回の調査区では中央部の南端に位置する。

【形状】住居跡の北西隅の約 1/4 を検出したため、全体の形状は不明である。

検出部の平面形態は隅丸方形を呈し、長軸（3.95

m、短軸（3.3）m、確認面からの深さ 0.92 mである。

住居跡の床面直上には炭化材・炭化物層が広範囲に広がり、上層には焼土層が堆積する。消失竪穴建物の可能性も考えられる。

【炉】住居の北側に2ヶ所の炉が位置する。平面形態は不整楕円形で一部が重複している。北側の炉は南北（52）cm、東西 68 cm、深さ 8.6cmである。南側の炉は南北 70 cm、東西 51 cm、深さ 9.6cmである。

【床・壁】床面は平坦で上屋消失時に被熱した焼土面が広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

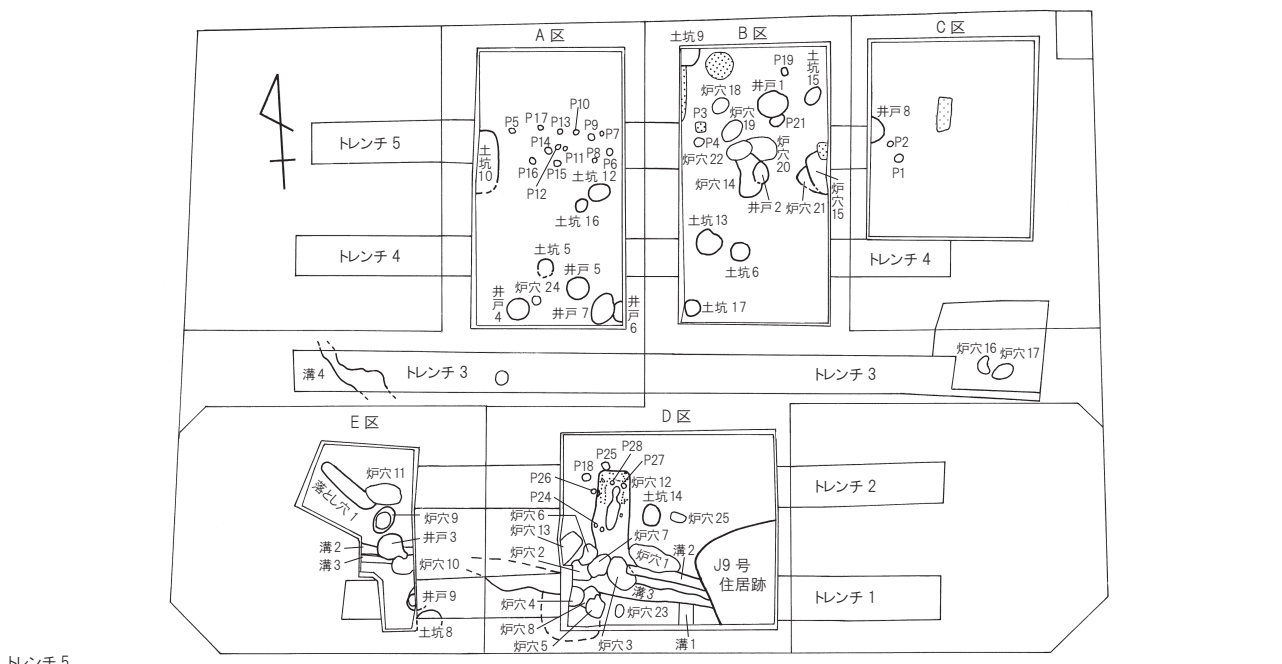
【ピット】支柱穴は P11・13・14・16・17 である。壁際の壁柱穴は 23 基検出した。P12・15・24・25 は支柱穴か壁柱穴か不明である。P1・26、P5・30、P10・22、P11・16 は住居の拡張や建て替えに伴う新旧の柱穴とみられる。

【遺物出土状況】出土遺物は床面直上の炭化物層と焼土層のさらに上層の覆土層から集中して出土する。

【時期】時期は出土土器から関山 I 期である。

【出土遺物】（第 7 図・8 図）

1 は、二股波頂部の土器。風化が激しいが、口縁部文様は、鋸歯状に平行に沈線を描き、沈線間を梯子状に埋めている。鋸歯状文間は、沈線で渦巻きと半円を

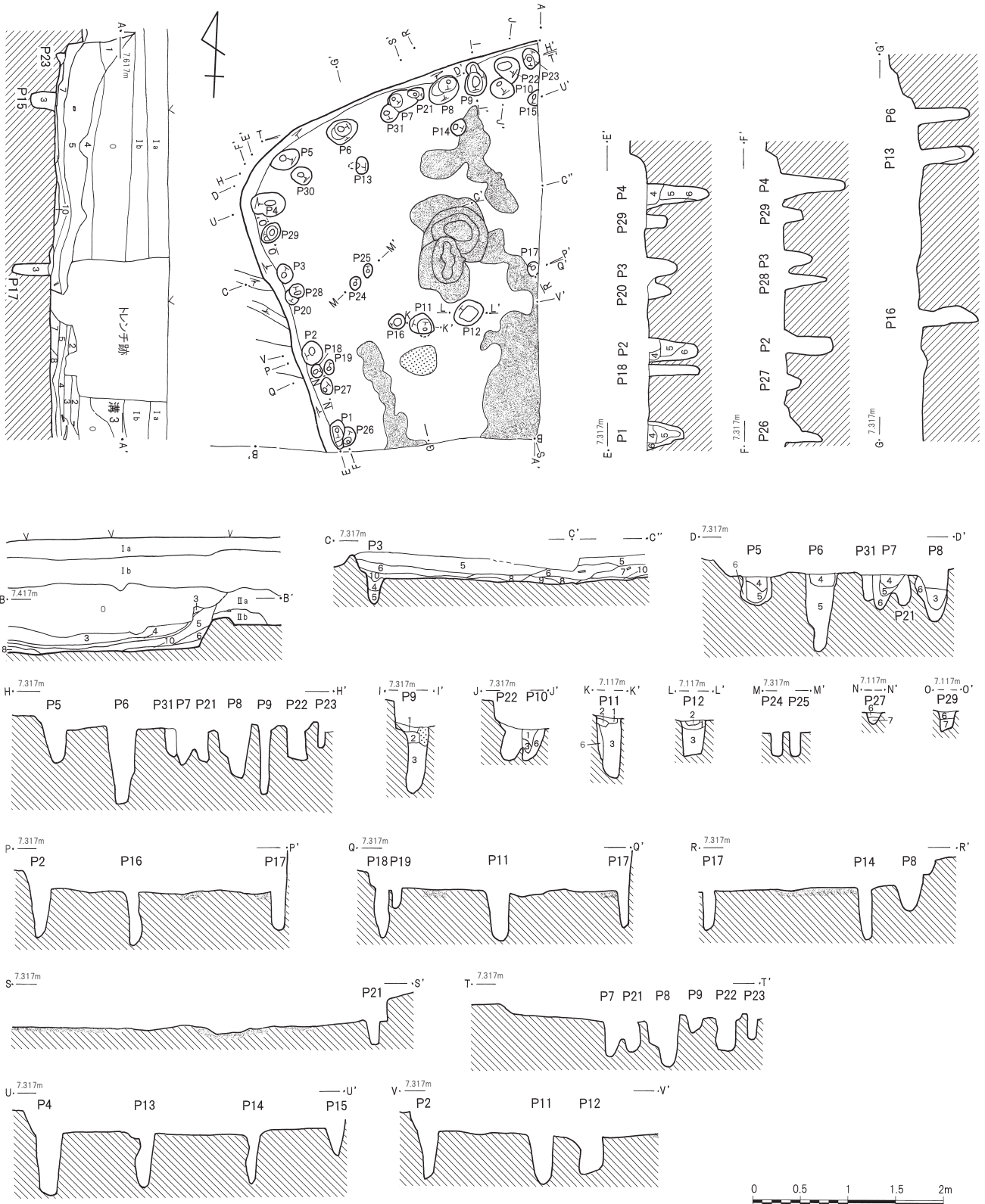


- トレンチ 5
- I. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム主体に 5mm 以下白色粒含む、耕作土・表土
- I'. 褐色土 締り有、粘性有、ローム主体に黒褐色土極少し含む、ビニール袋含む、盛土・表土
- II. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に赤褐色の酸化鉄を多量に含む、見た目には灰色であるが土色帖では黒褐色である
- II'. 暗褐色土 締り強、粘性有、II 層主体に 1cm 以下シミ状・ブロック状ロームやや多く含む、同灰白粘土（III 層も少し含む）
- III. 灰黄褐色土 白く見えるが黄褐色～褐色を呈する
- IV. 暗褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下赤褐色酸化鉄シミ状に多く含む、土器含む

第 4 図 長宮遺跡第 34 地点遺構配置図 (1/300)

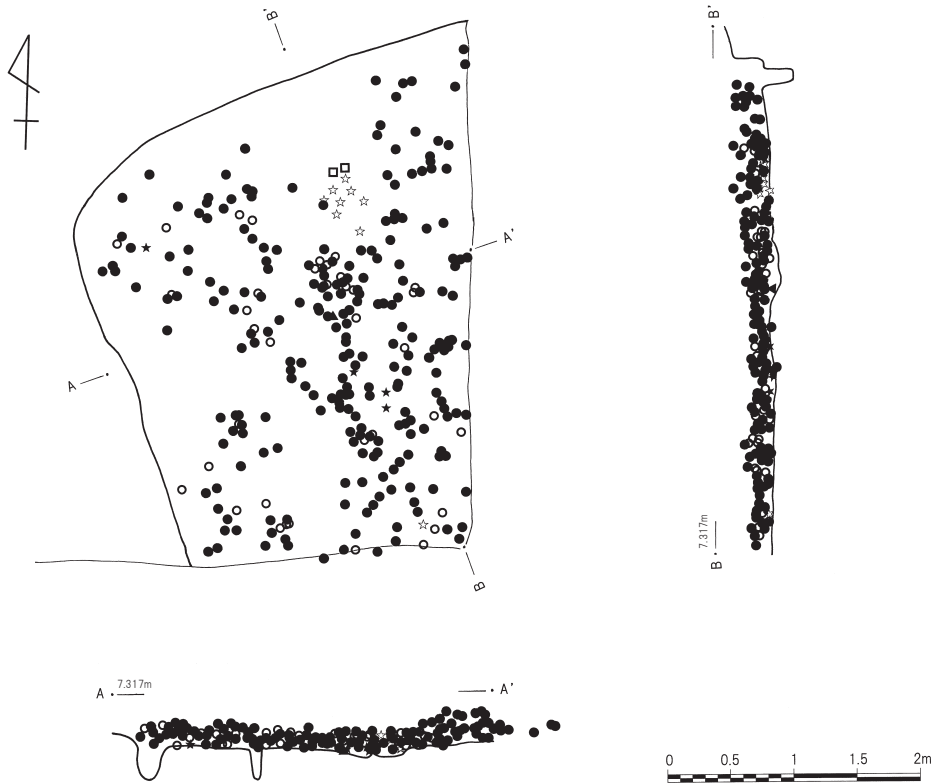
加飾。口縁部文様帯と胴部文様帯の境には、梯子状沈線で区画している。胴部文様は末端還付を多段に施す。2は、1/4程現存。波状口縁の土器。波頂部破片とそれ以下の破片は接合しないので、復元図に示した器形は実際は口縁部文様帯が短くなるかもしれない。口唇部には三角形の粘土の貼付、波頂部に刻みを入

れた楕円形の貼付文を付ける。口縁部文様は幅7~8mmの半截竹管による平行沈線で、始点や交叉点に円形貼付文が付く。胴部縄文はLRの末端還付(以下ループ文という)文を4段施し(多段ループ文)、その下にはループの0段3条のLRとRLの斜縄文で羽状縄文帯、その下にはループの0段3条のLRとRLを多

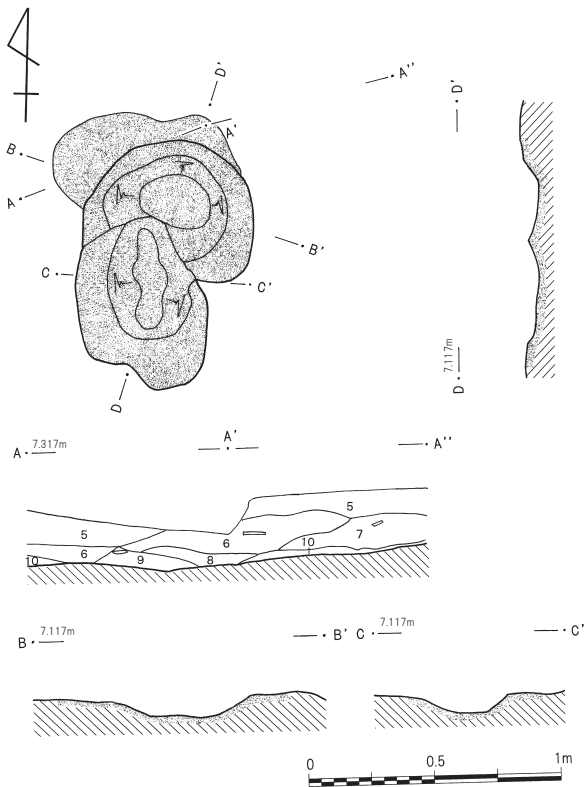


第5図 長宮遺跡第34地点 J9号住居跡 (1/60)

J9 号住居跡遺物出土状況図



炉



J9 号住居跡

I a. ローム主体の盛土

I b. 灰色土

II a. 灰色土混じりの黒褐色土

II b. ローム混じりの黒褐色土

0. 住居覆土

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、II a と比べ色調に褐色味が有り、やや明るめ、シミ状の灰色粘土と褐色の 3mm 以下ローム粒をやや多く含む
 2. 黒灰色土 締り強、粘性強、4 層に似て、5mm 以下白色粘土・炭化物・焼土を多く含む、灰色粘土を含む点で上層の影響を受けている
 3. 灰黒色土 締り強、粘性強、シミ状に灰色粘土を多く含む、2mm 以下ローム粒やや多く、5mm 以下焼土・炭化物少し含む
 4. 白色粘土 締り強、粘性強、3cm 以下炭化物を多く含む 2 ~ 3cm 厚黒褐色土を挟む、橙褐色の酸化土が目立つ
 5. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒を多く、5 ~ 20mm ロームブロック・5mm 以下炭化物少し含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性強、上層より黒色味強い、3mm 以下ローム粒やや多く (3 層より少ない)、5 ~ 10mm ロームブロック・5 ~ 20mm 炭化物少し含む
 7. 黒褐色土 締り強、粘性強、主体の土は 6 層に似る、大きめの 5mm 以下ローム粒多く、5 ~ 40mm ロームブロック・5mm 以下焼土・5 ~ 20mm 炭化物少し含む
 8. 暗褐色土 締り強、粘性強、シルト質の暗褐色焼土主体、シミ状に黒褐色土を含む、炉の覆土ではない
 9. 黒褐色土 締り強、粘性強、5 ~ 10mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒を多く、3 ~ 10mm 焼土をやや多く含む、炉の覆土、小さなロームブロックを多く含むのは、ピットの覆土と類似
 10. 黒色土 締り強、粘性強、炭化物を多く含む、炭化物由来と思われる黒色土主体、5mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む
 11. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm 以下ローム粒・焼土少し含む
 12. 黒色土 締り強、粘性強、10 層に似る、シミ状に 2mm 以下ローム粒・焼土少し含む
 13. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒多く含む
- ピット
1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下焼土・炭化物多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、やや灰色味が有り、粘性強い
 3. 黒褐色土 締り強、粘性強、黒色味強い、5mm 以下ローム粒やや多く含む
 4. 黄灰色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒を多く、5mm 大炭化物少し
 5. 黄灰色土 締り強、粘性強、シミ状に 5mm 以下ローム粒少し含む
 6. 黄灰色土 締り強、粘性強、2cm 以下ロームブロック・粒多く含む
 7. 黄灰色土 締り有、粘性強、締り弱め、シミ状に 5mm 以下ローム粒少し~やや多く含む

第 6 図 長宮遺跡第 34 地点 J9 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、炉 (1/30)

段化して施す。上からほぼ等間隔で、多段ループ文帯＋羽状縄文帯＋多段ループ文帯を構成している。

3は、1/4現存。4単位波状で、頂点直下に楕円形の貼付文が付く。口唇部には波頂部両脇に3個の粘土粒を加え、口縁部文様は幅6mmの半截竹管による平行沈線で鋸歯文様をつけられ、その直下に5～6段の多段ループ文と、先端ループにしたLRとRLの斜縄文による羽状縄文帯、幅6mmのコンパス文、上段と対になるようにRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、上段と連続的に対応した先端ループのRLとLRの羽状縄文帯が施される。およそループ文で区画された等間隔の文様帯からなる。

4は、約1/4現存。平縁の土器。口唇部には4個の小突起、その直下には円形の貼付。上から順に、先端をループのRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、4から5段の多段ループ文帯、先端ループのRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、8から9段の多段ループ文帯で構成される。上半は区画された各文様帯は等間隔で、図示した最下段の文様帯が他の文様帯の倍の間隔である。

5は、1/5現存。口縁部文様帯には、幅6mmの肉厚の半截竹管による平行線で集合沈線の鋸歯文を構成し円形の貼付文を付ける。その下、縄文帯はいずれも端末ループを上にして斜縄文で羽状縄文帯で構成する。上下の羽状縄文帯が対応する菱形縄文帯になるのは、図示した最下段のみである。菱形縄文帯になるのを避けているようにも思われる。3・4もそうなのだが、縄文帯がループ文やコンパス文で区画され、または多段ループ文帯によって、菱形縄文帯となるのを回避しているのではないか。

6は幅4mmの半截竹管で平行線を引き、梯子状に沈線を描き、その間を鋭いヘラで細かい刻み状に加えたもの。7も円形添付文を加え、半截竹管で平行線の文様を加えたもの。8は、比較的大きい円形の添付文、9は口縁部をループ文を施し、円形の添付文を付けたもの。10は半截竹管により鋸歯文に鋸歯状の起点に先端の尖る円形貼付。正反の合の縄文を施す。11は半截竹管によるかまぼこ状の爪形で鋸歯文を描いたもの。

12は、半截竹管の工具による集合沈線で鋸歯文を描き、鋸歯文の間を半円形の文様を交互に充填したものの。胴部文様帯の境には波状の文様。13は半截竹管による集合沈線を鋸歯文とし、その間を半截竹管を器

面に垂直に押したもの。14は、端末ループを上にして0段3条のLRとRLで羽状縄文。直下に多段ループ文を施す。補修孔が器面表面よりあけられている。

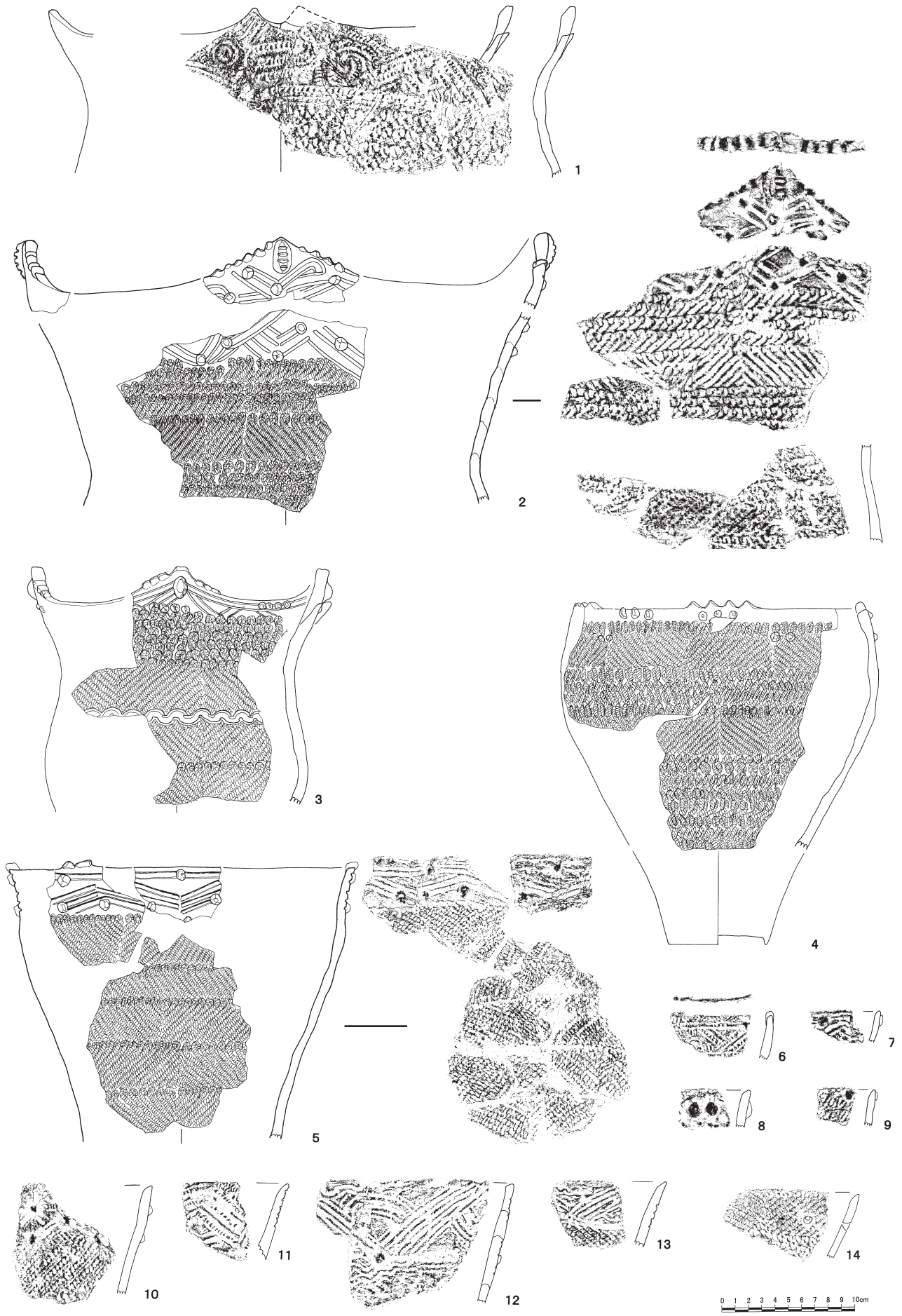
15は、胴部下半の破片で風化が激しい。胴下半部に端末ループを上にして1段ずつ施文して7～8段の多段化したものである。コンパス文を加えさらに0段3条のRLの端末ループを多段化したもの。その下にはコンパス文がある。16は15の同一破片か。図示した左側に補修孔がある。コンパス文の間に多段化したループ文で最下段にRLとLRの結節第1種の羽状縄文が施される。17は、器厚が5mm程度で薄い。4mm程度の白色の小砂利（石英）を含み、白色の砂を多量に含む。図示上半部は、細いRLとLRの縦回転による羽状縄文が施され、下半部には太いRLの端末ループの多段化がうかがわれる。

18は、LRとRLによる結節第1種の羽状縄文。19は、Lの無節の斜縄文で半截竹管によるコンパス文を施文。20～23は0段3条で菱形縄文になるもので、いずれも0段3条のうち1本は細い。同一個体ではない。20・21は第1種結末、くびれ部に端末ループ文を施文。23には結末部の反対の原体端末を1mmの紐で縛った回転痕跡がある。

24と25は、正反の合による異条斜縄文。26と27は0段による組紐。28は、土器破片を利用した円形土製品で、文様はみられない。

29～33は底部の破片。29は、0段3条のRLと0段2条LRを図示のように交互に羽状縄文としたもので、端末ループ文で区画している。30は風化が著しいがループ文を多段化して底部端まで施したものの。31は、正反の合の縄を菱形文として底部端まで施したものの。32は0段3条のLRとRLで羽状縄文。33は、0段3条の原体で羽状縄文を造るが、細い紐で結末部が横位に付いているものと思われる。胎土には白色の砂が混じり内面と底部底は良好に研磨されている。34～38はループ文やコンパス文がみられないもの。34は、無節RLと単節RLによる菱形縄文で、RLは縦回転、RLは横回転により菱形縄文を構成する。補修孔がつく。35は単節RLと無節Lrによる結末第1種による羽状縄文である。36・37は単節LRとRLによる羽状縄文で36は接合箇所が下半に上半の粘土が重なり段をなす。38には胎土に白色の砂が多量に混じる。

J9号住居跡出土土器は、全て胎土に繊維を含む。

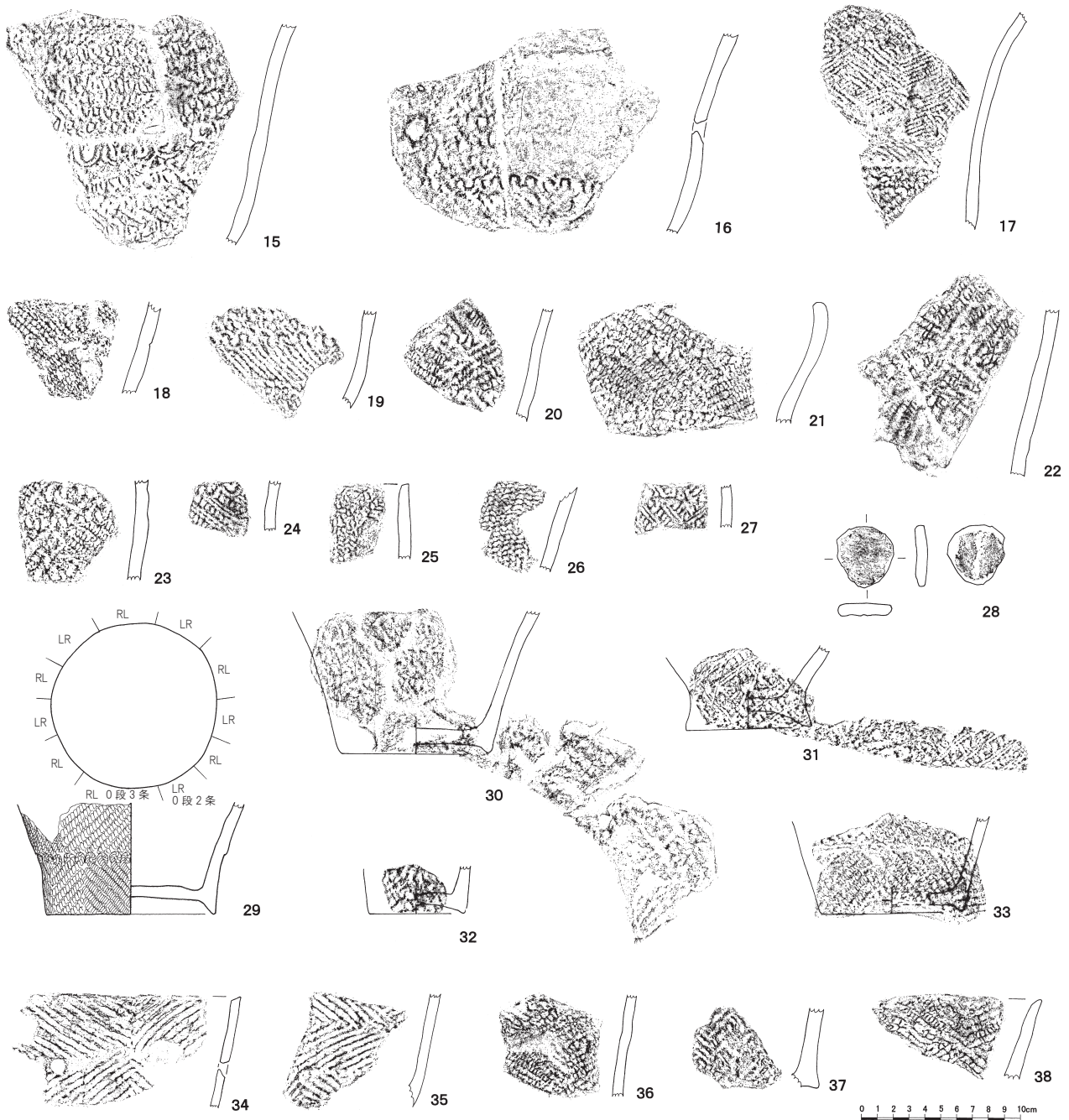


第7図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物① (1/4)

第3表 長宮遺跡第34地点J9号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	楕円形	26 × 15	4 × 3	36.4	
P2	円形	23 × 22	7 × 6	50.5	
P3	円形	19 × 15	5 × 4	30.0	
P4	楕円形	36 × 24	11 × 4	66.4	
P5	不明	30 × 21	7 × 6	34.6	
P6	円形	33 × 25	6 × 5	81.3	
P7	不明	(23) × 21	4 × 3	41.2	
P8	楕円形	35 × 25	3 × 3	51.2	
P9	ひょうたん形	35 × 22	12 × 9	75.0	
P10	円形	25 × 21	6 × 3	34.4	
P11	円形	26 × 20	4 × 2	70.6	
P12	円形	28 × 24	16 × 14	33.9	
P13	円形	17 × 12	11 × 6	57.8	
P14	円形	16 × 14	5 × 5	53.3	
P15	不明	18 × (10)	6 × 3	26.3	
P16	円形	16 × 15	8 × 8	58.3	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P17	不明	15 × 10	5 × 4	40.8	
P18	円形	12 × 11	5 × 3	53.1	
P19	円形	15 × 10	5 × 3	20.2	
P20	不明	16 × (8)	-	40.0	
P21	不明	(16) × 13	3 × 3	30.0	
P22	円形	27 × 24	14 × 9	38.9	
P23	円形	20 × 17	5 × 5	30.3	
P24	円形	12 × 11	3 × 3	24.2	
P25	円形	13 × 10	3 × 2	26.0	
P26	不明	20 × (13)	9 × 7	35.4	
P27	楕円形	16 × 11	4 × 2	17.8	
P28	円形	14 × 13	6 × 2	43.1	
P29	円形	24 × 16	9 × 4	21.7	
P30	円形	21 × 18	6 × 5	20.1	
P31	不明	(16) × 15	5 × 4	24.0	



第8図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物②(1/4)

遺物の時期については1～33は関山式Ⅰ、34～38は関山式から黒浜式のものと思われる。(笹森健一)

(2) 炉穴

炉穴は、C区を除く各調査区とトレンチ3から15基検出した。特にB・D・E区に集中する。燃焼部の焼土範囲の他に、通称「足場」と呼ばれる窪み等のあるものや、炉穴12では周囲に小ピットを巡らせる。詳細は第4表のとおりである。

(3) 落とし穴

落とし穴はE区で検出した。炉穴11と重複し、落とし穴が古い。平面形態は長楕円形を呈し、確認面径250×50cm、底径266×22cm、深さ89cmである。

(4) 井戸

井戸は9基検出した。平面形態はほぼ円形で素掘りである。覆土層の観察から中近世以降のものと思われる。詳細は第5表のとおりである。

(5) 土坑

土坑は11基検出した。土坑1・2は炉穴14・15に、土坑3・7は井戸8・9に変更し、土坑4・11は欠番である。詳細は、第5表のとおりである。

(6) ピット

ピットは31基検出した。ピット20は土坑15にピット22は土坑16、ピット17は土坑23に変更した。時期については縄文時代以降とみられるが不明である。詳細は第5表のとおりである。

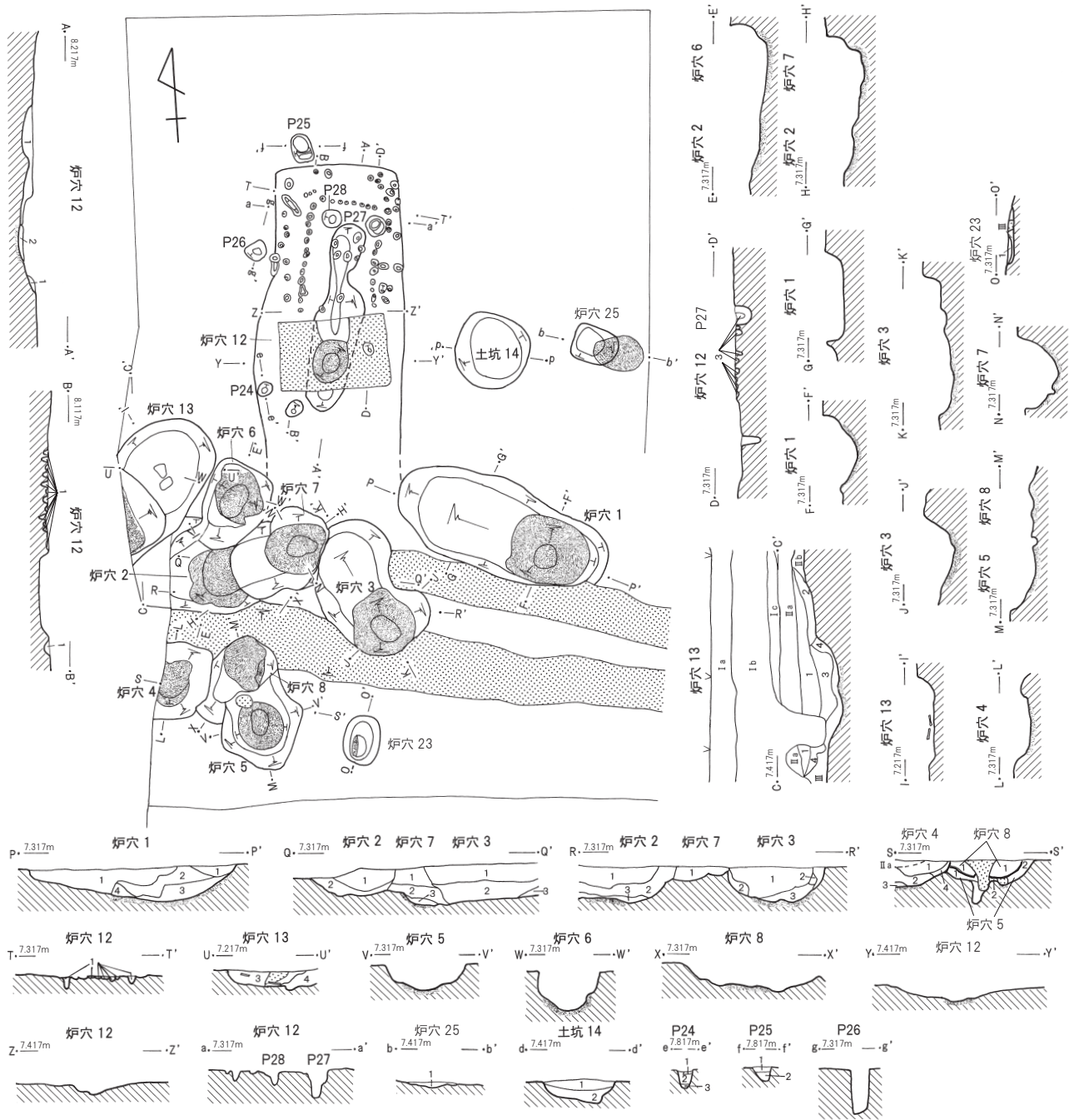
第4表 長宮遺跡第34地点炉穴一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	焼土範囲	足場	備考
炉穴1	楕円形	210×85	24×19	34.5	77×61		
炉穴2	不明	75×71	(45)×28	18.9	58×(54)		
炉穴3	ひょうたん形	134×80	31×20	33.2	59×59		
炉穴4	不明	72×(47)	37×(26)	22.2	45×26		
炉穴5	不明	97×70	24×15	25.2	46×43		
炉穴6	方形	86×60	36×22	39.3	55×43		
炉穴7	ひょうたん形	100×72	29×19	35.8	60×49		
炉穴8	不明	90×(47)	52×40	23.3	53×40		
炉穴9	楕円形	91×66	16×15	20	34×27		
炉穴10	不明	(86)×68	(77)×55	18.7	43×18		
炉穴11	楕円形	155×77	39×31	27.4	42×35		
炉穴12	ひょうたん形	180×47	18×17	15	41×32		
炉穴13	不明	(116)×85	68×(63)	17.5	55×15		
炉穴14	楕円形	173×88	117×42	37.3	39×35		旧土坑1
炉穴15	不明	(180)×(80)	(70)×49	39.5	41×30		旧土坑2
炉穴16	不整形	68×42	33×33	9.1	-		旧焼土1
炉穴17	楕円形	98×56	45×28	13	-		旧焼土2
炉穴18	楕円形	76×55	65×43	6.8	29×20		旧焼土3
炉穴19	楕円形	100×73	10×7	53.9	24×15		旧焼土4
炉穴20	不明	(102)×99	(95)×(97)	19.7	63×26		旧焼土5
炉穴21	不明	(103)×(54)	(41)×(35)	20	33×25		旧焼土6
炉穴22	隅丸方形	91×57	65×46	20.4	26×15		旧焼土7
炉穴23	楕円形	47×34	20×15	7.8	18×(7)		旧焼土8
炉穴24	円形	40×38	15×12	5.4	12×9		旧焼土9
炉穴25	不整形	69×35	25×23	4.6	49×34		旧焼土10

第5表 長宮遺跡第34地点井戸・土坑・ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
井戸1	円形	105×103	62×55	116.8	
井戸2	円形	92×78	53×50	109.1	
井戸3	円形	109×104	82×78	121.2	
井戸4	円形	82×73	52×52	90.8	
井戸5	円形	85×78	21×20	139.2	
井戸6	不明	75×(48)	63×(40)	67.0	
井戸7	楕円形	134×80	65×57	147.7	
井戸8	不明	101×(39)	101×(22)	91.1	
井戸9	不明	77×(36)	73×(30)	97.8	
土坑1					炉穴14に変更
土坑2					炉穴15に変更
土坑3					井戸8に変更
土坑4					欠番
土坑5	不明	65×(47)	43×(40)	19.5	
土坑6	円形	93×84	72×69	57.5	
土坑7					井戸9に変更
土坑8	不明	85×(25)	23×9	84.8	
土坑9	不明	(87)×(83)	(63)×(55)	43.4	
土坑10	不明	(201)×(84)	62×(35)	29.3	
土坑11					欠番
土坑12	円形	88×70	66×42	19.8	
土坑13	不整形	97×90	70×52	69.9	
土坑14	円形	72×71	55×48	18.4	
土坑15	円形	71×69	49×47	49.7	
土坑16	円形	60×55	44×43	74.2	
土坑17	円形	69×63	46×42	60.2	
P1	不明	28×(17)	12×(10)	30.9	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P2	円形	29×25	18×16	28.2	
P3	不明	48×(36)	35×(32)	33.4	
P4	円形	31×27	20×12	35.4	
P5	円形	26×25	12×12	24.3	
P6	円形	27×25	15×10	36.9	
P7	方形	19×18	9×8	21.4	
P8	不明	26×(12)	14×(6)	22.9	
P9	円形	35×34	19×15	23.7	
P10	円形	26×24	14×13	26.0	
P11	円形	20×19	6×6	41.7	
P12	円形	33×28	18×14	34.3	
P13	円形	29×28	16×15	18.6	
P14	円形	36×32	23×22	31.8	
P15	不明	29×(20)	20×(9)	20.8	
P16	不明	25×(12)	15×(5)	37.7	
P17	不明	27×(19)	15×(10)	36.2	
P18	円形	42×38	7×7	15.8	
P19	方形	37×31	11×5	59.5	
P20					土坑15に変更
P21	不明	(45)×43	25×21	29.5	
P22					土坑16に変更
P23					土坑17に変更
P24	円形	15×11	7×6	20.3	
P25	方形	28×19	14×5	12.3	
P26	円形	21×17	7×7	42.6	
P27	円形	19×19	9×5	26.0	
P28	円形	17×16	8×8	16.5	



I a. 表土 ローム土主体

I b. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、やや黄色味を全体に帯びる、2mm 大シミ状・粒状ロームを少し含む

II a. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、I b 層に類するがやや黒っぽい

II b. 黄灰色土 締り強、粘性有、明黄褐色のローム土と黒褐色土が混ざり合う

炉穴 1

1. 焼土粒少ない点で炉穴 4 の 1 層に似る
 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状にシルト質の 5mm 以下焼土・焼土粒をやや多く含む
 3. 赤褐色土 締り強、粘性強、シルト質の焼土主体、シミ状に黒褐色土少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性強、明黄褐色ロームの 5mm 厚層を挟む、5mm 以下焼土やや多く含む
- 炉穴 2・4
1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒やや多く、下層に比べ褐色味強い、炉穴 2 は 5mm 以下焼土少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下焼土・3mm 以下ローム粒やや多く含む
 3. 赤褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下焼土多く含む、黒褐色土
 4. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に 1cm 以下明黄褐色ロームブロックを多く含む

炉穴 3

1. 炉穴 2 の 2 層に似る、1 ~ 3cm ロームブロック少し含む
2. 炉穴 8 の 1 層に似る
3. 赤褐色土 締り強、粘性強、黒褐色土主体に 1cm 以下焼土ブロックと、シルト質の焼土を多く含む

炉穴 7

1. 炉穴 5 の 1 層に似る
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、上層より黒色味強く 5mm 以下ローム粒多く、5mm 以下焼土やや多く含む
3. 赤褐色土 締り強

炉穴 5

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に明黄褐色ローム土やや多く、3mm 以下ローム粒多く含む
2. 黄灰色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒多く、シミ状に明黄褐色ローム土多く含む

炉穴 8

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下茶褐色ローム粒多く、3mm 以下焼土少し含む

炉穴 12・P27

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒少し含む
2. 赤褐色土 締り強、粘性強、黒褐色土主体にシミ状の焼土を多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm 以下ローム粒少し含む

炉穴 13

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、褐色味が有る、ラミナ状にロームの薄層を挟む、5mm 以下ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に暗褐色土を含む、5 ~ 10mm 焼土・ローム粒少し含む

炉穴 23

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、2cm 大シミ状ローム土多く、5mm 以下焼土やや多く含む

炉穴 25

1. 黄灰色 締り強、粘性強、焼土シミ状に多く含む、5mm 大炭化物シミ状に少し含む

土坑 14

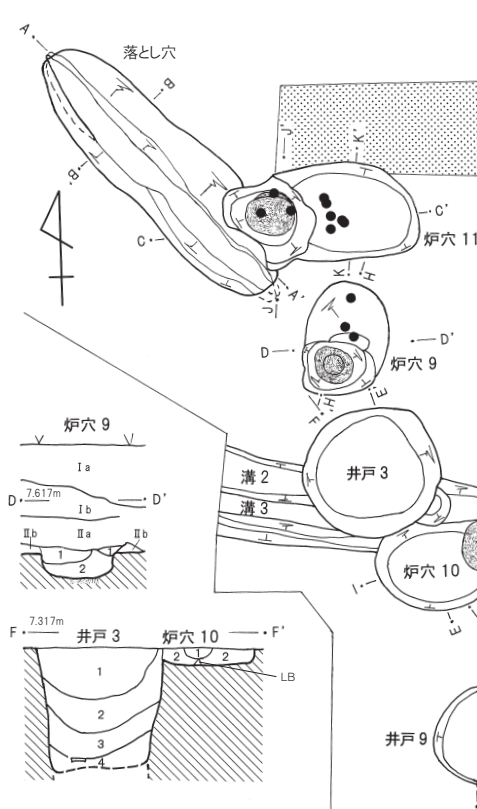
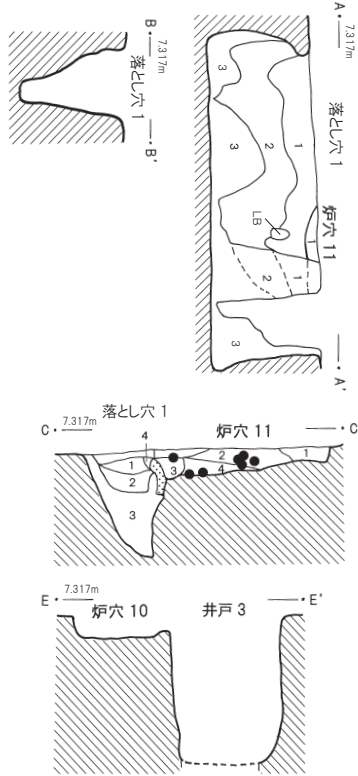
1. 暗灰色粘土 締り強、粘性強、2cm 大白色粘土ブロック・5mm 焼土・5 ~ 10mm 炭化物物少し含む
2. 暗灰色粘土 締り強、粘性強、1 層より黒色味が有る、9cm 大礫・5 ~ 10mm 炭化物物少し含む

ピット 24・25

1. 褐色土 締り強、粘性有、ローム貼床状の硬化面
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm 以下シミ状ローム少し含む
3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、1cm 以下シミ状ロームブロック多く含む

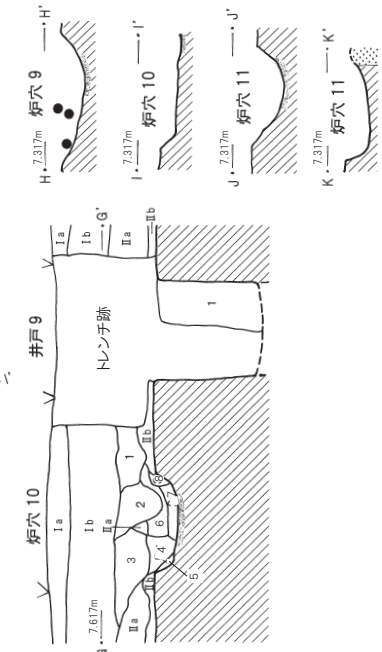
第9図 長宮遺跡第34地点炉穴①・土坑① (1/60)

炉穴 9～11、井戸 3・9、落とし穴

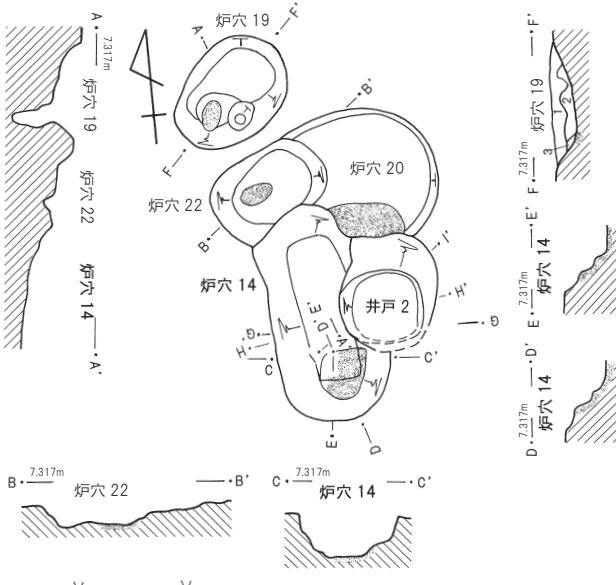


落とし穴

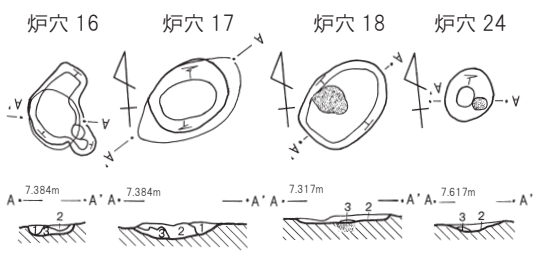
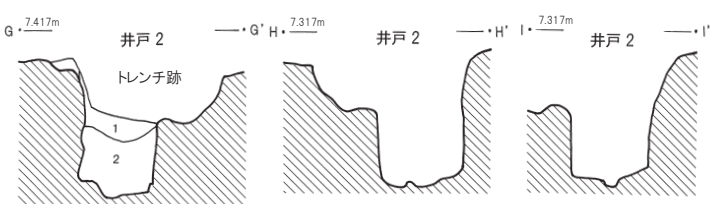
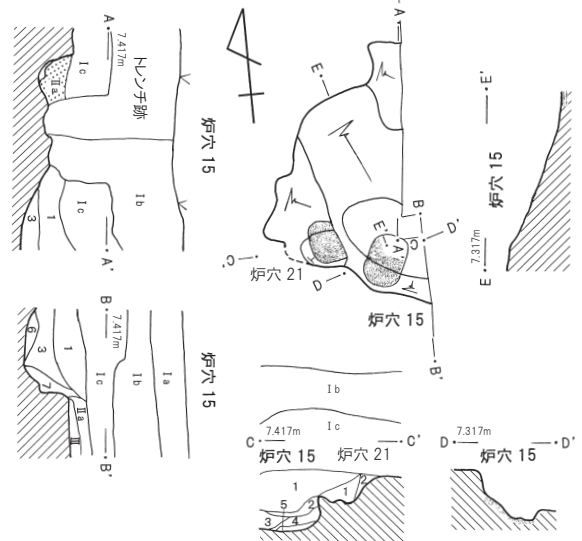
1. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に暗褐色土を含み、色調明るい
2. 黄灰褐色土 締り強、粘性強、シミ状に 1.5cm 大ロームブロックやや多く含む
3. 黄褐色土 締り強、粘性強、黒褐色土主体にシミ状にロームブロックを多く含む



炉穴 14・19・20・22、井戸 2



炉穴 15・21



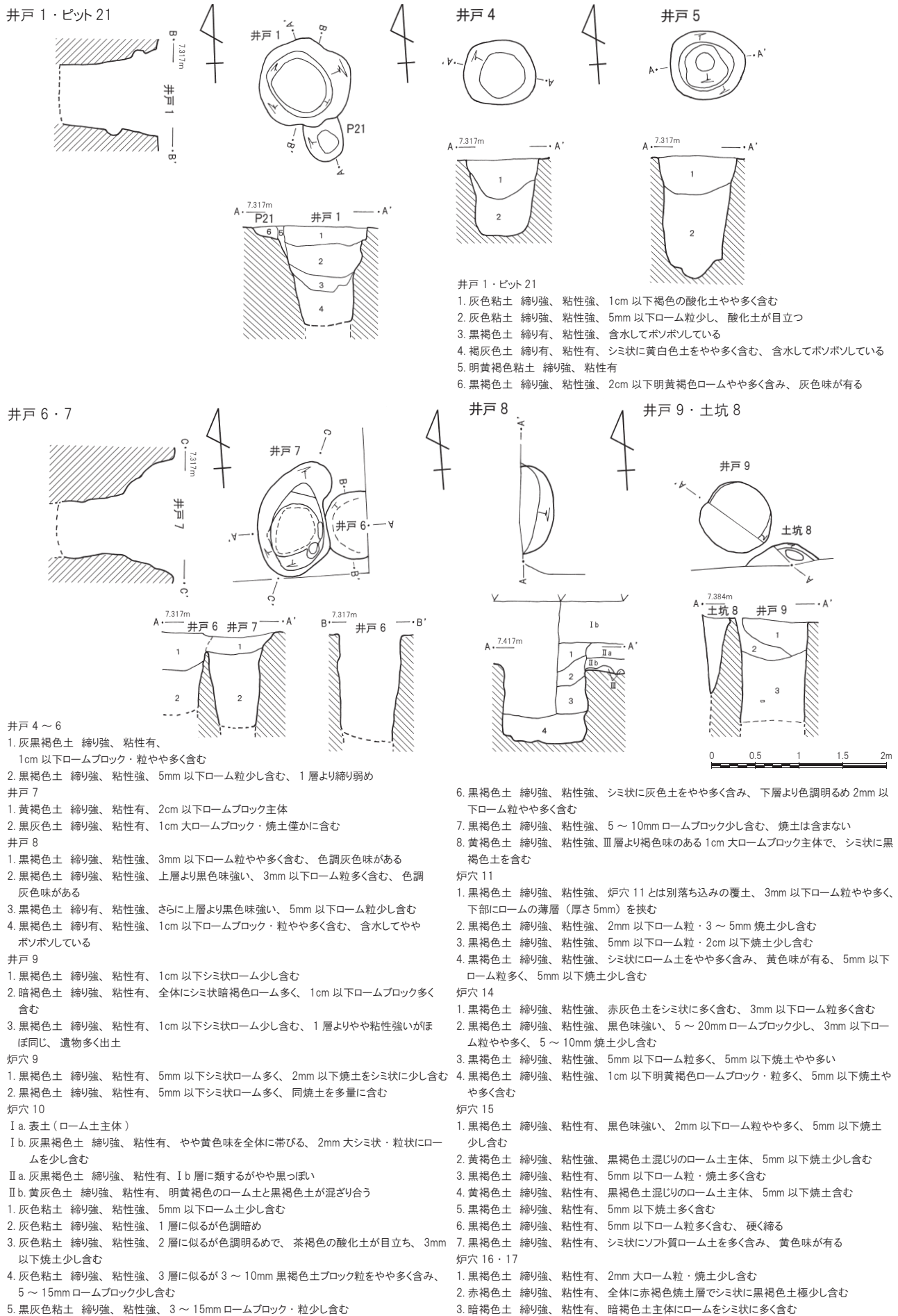
井戸 2

1. 黄褐色土 締り強、粘性強、ローム土主体
 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む、粘性強く、やや灰色味が有る点で比較的新しい様相
- 井戸 3

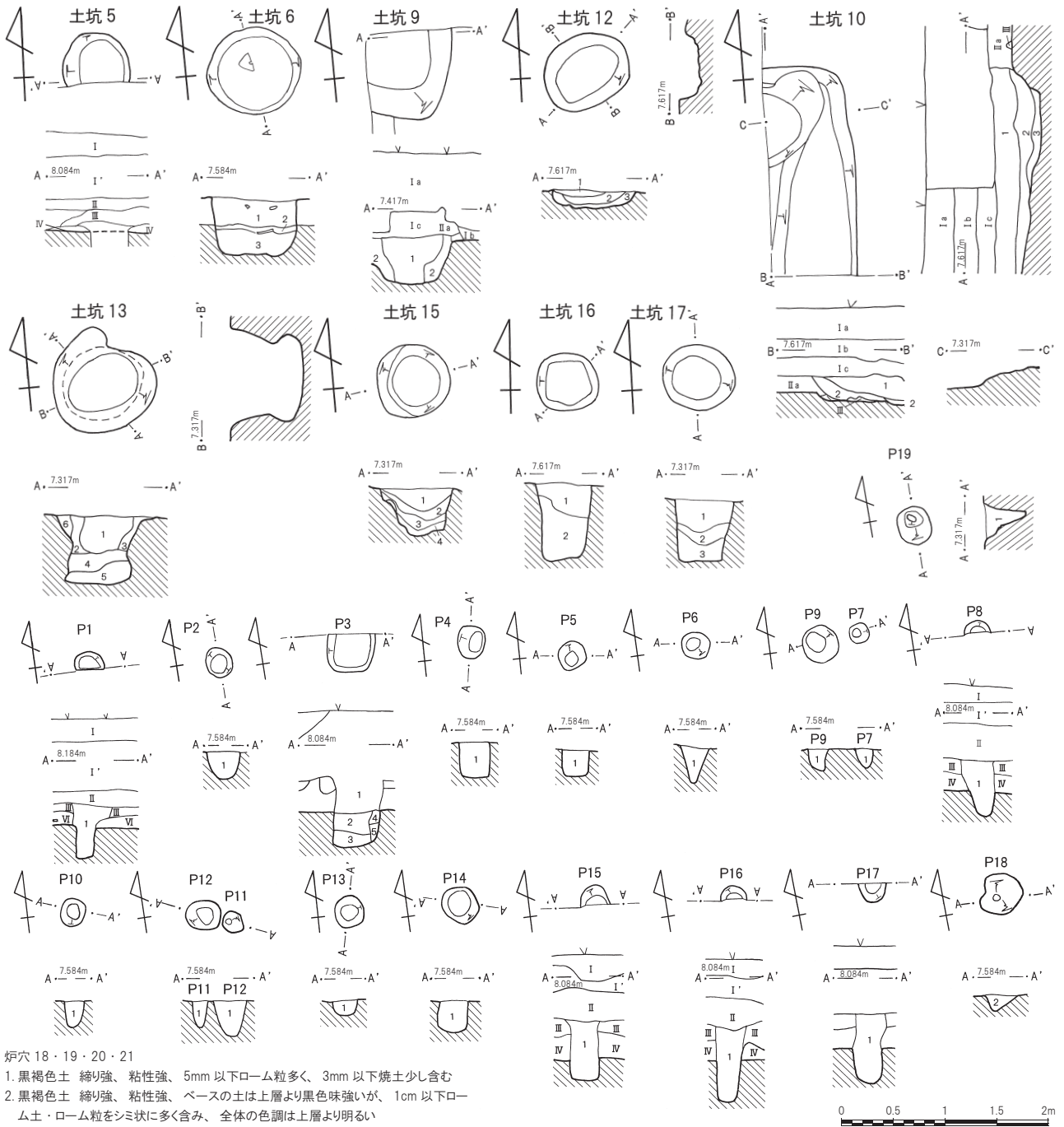
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味の有る黒褐色土に 5mm 以下ローム粒多く、シミ状酸化鉄多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味の有る黒褐色土に 5mm 以下ローム粒多く、シミ状酸化鉄多く含む (1 層より多く含む)
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味の有る黒褐色土に 5mm 以下ローム粒多く、シミ状酸化鉄多く含む (1 層に類似、ややローム粒を粒状に多く含む)
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味の有る黒褐色土に 5mm 以下ローム粒多く、シミ状酸化鉄多く含む (1 層に類似する)



第 10 図 長宮遺跡第 34 地点炉穴②・井戸①・落とし穴 (1/60)



第 11 図 長宮遺跡第 34 地点井戸②・土坑②・ピット① (1/60)



炉穴 18・19・20・21

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒多く、3mm 以下焼土少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、ベースの土は上層より黒色味強いが、1cm 以下ローム土・ローム粒をシミ状に多く含む、全体の色調は上層より明るい
- 3. 赤褐色土 締り強、粘性有、焼土

炉穴 21

- ① 炉穴 18 の 1 層に同じ
- ② 炉穴 18 の 2 層に同じ

土坑 6

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下シミ状ローム粒少し含む、1cm 以下シミ状酸化鉄多く含む
- 2. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、粘土層全体が酸化鉄で赤褐色を呈する
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下シミ状ローム少し含む、1・2 層より粘土質である

土坑 9

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、ローム土をシミ状に多く含む、黄灰色味が有る、2mm 以下ローム粒多く含む、明黄褐色位 3cm 以下ロームブロック少し含む

土坑 10

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下褐色土粒、2cm 以下灰色粘土を少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、上層より黒色味強い、1cm 以下褐色土・灰色粘土少し、1mm 以下細かな明黄褐色土粒やや多い
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性強、明黄褐色ローム土をシミ状に多く含む、斑状を呈する
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状にローム土を含み、色調明るい

土坑 12

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm 以下ローム粒少し含む、やや黄色味が有る

- 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、3mm 以下ローム粒やや多く含む

- 3. 黒褐色土 締り強、粘性強、シミ状に明黄褐色土ロームをやや多く含む土坑 13

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 2mm 以下ローム粒均一に少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 2mm 以下ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 5 ~ 20mm ロームブロック多く含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 2mm 以下ローム土・粒を多く含む、黄色味が有る
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) 色調黒色味強い、3mm 以下ローム粒少し含む
- 6. 黒褐色土 締り強、粘性強、(粘土ではない) ローム粒は少ないが、黄灰色味が有る

土坑 15

- 1. 灰色粘土 締り強、粘性強、酸化土を多く含む、2cm 以下明黄褐色粘土少し含む、井戸 1 の 1・2 層に似る
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性強、酸化した橙褐色 5mm 以下ローム粒、シミ状に灰色粘土を多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む

土坑 16

- 1. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む、P23 の 1 層に似る
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む、1 層より締り弱め、P23 の 2 層に似る

土坑 17

- 1. 灰褐色粘土 締り強、粘性強、灰色粘土を主体にシミ状に黒褐色土・黄灰色粘土を多く含む
- 2. 黄灰色粘土 締り強、粘性強、1 層より含水して締り弱め、1cm 以下ローム土シミ状にやや多く含む
- 3. 灰褐色粘土 締り強、粘性強、シミ状に黄灰色粘土を多く含む、やや酸化が目立つ

第 12 図 長宮遺跡第 34 地点土坑③・ピット② (1/60)

(7) 溝

溝は4本検出した。試掘調査時に溝1としたものは、J9号住居跡の覆土層である。溝2は溝3より古く、共に近世以降の時期である。溝5は溝3より新しいが、溝2との新旧関係は不明である。

(8) 炉穴、井戸、土坑、ピット、溝出土遺物

【炉穴・井戸出土遺物】(第14図1～26)

1・2は炉穴2出土、3は炉穴3出土、4は炉穴6出土、5・6は炉穴9、7～11は炉穴11出土、12・13は炉穴13、14～16は炉穴14出土、17は炉穴15出土土器である。

1～7、9～13は内外面に条痕文を施し、胎土には繊維を含む、早期後半の条痕文系土器である。3は器厚がやや薄く焼成良好で、胎土に繊維を含むか微妙である。5は厚手の土器で胴部から外反する頸部をへて口縁部に至る。口縁は波状口縁で、口唇部には竹管

状工具による押圧による刻目がみられる。

8はLrの撚糸文を施文し胎土に繊維を含まない、早期前半の撚糸文系土器である。

12は口縁部で横位から斜位に条痕文を施す。

14は軸縄RLに2本のLrを付加する。15は胴部と底部に貝殻背圧痕を施す。14、15は前期黒浜式か。

16は砂岩製の打製石斧片で、重さ110.80gである。

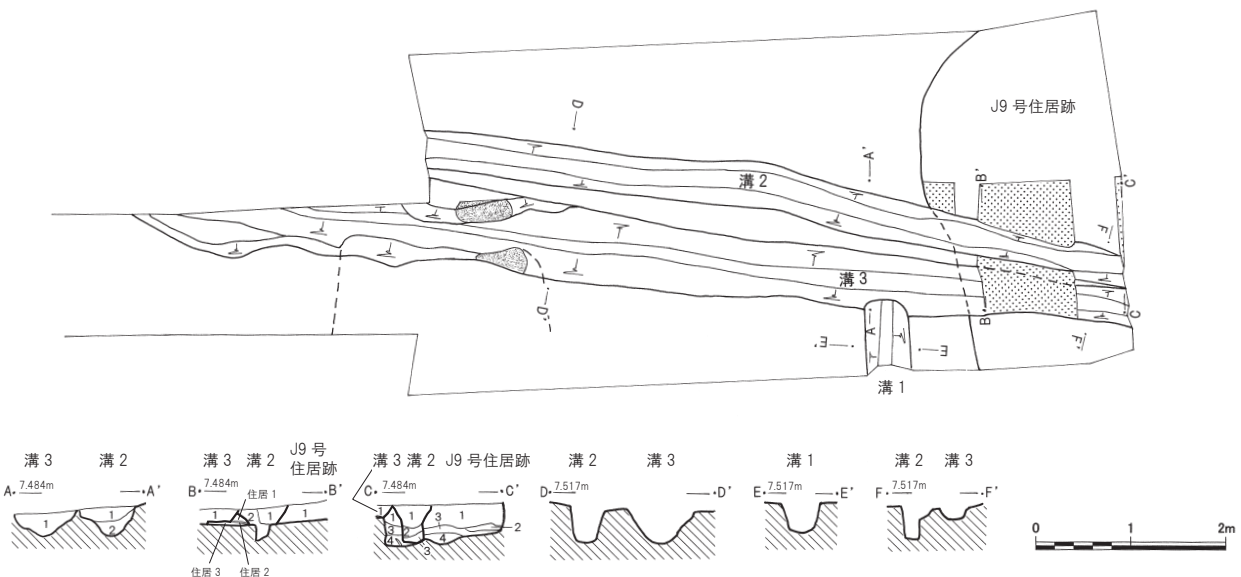
17は3段の文様帯がみられ、上段からRLに2本のLrを逆巻方向に付加したもの、中段は組紐LRLR、下段がRL縄文とみられる。前期関山式か。

【井戸・土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物】(第15図27～43)

18は口縁部に小突起を持ちLRとRL縄文で羽状縄文とする。20は上げ底の底部でLR、RL縄文を施す。18、20は関山式である。27は還付末端のLR縄文を施文し胎土に繊維を含む関山式土器である。

第6表 長宮遺跡第34地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	確認面径	底径	深さ	備考
溝1	「U」字形	76 × 46	70 × 14	37.7	
溝2	「U」字形	1410 × 33 ~ 62	1410 × 12 ~ 27	50.1	
溝3	広い「U」字形	1315 × 35 ~ 85	1315 × 10 ~ 18	40.8	
溝4	「U」字形	223 × 38 ~ 71	223 × 16 ~ 45	39.9	



ピット 1～18

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、II層に同じ、暗灰褐色土主体に、シミ状赤褐色酸化鉄多く含む、1cm以下シミ状暗黄白色土少し含む
2. 灰褐色土 締り強、粘性有、灰褐色粘土にシミ状褐色酸化鉄多く含む

ピット 19

1. 黒褐色土 締り強、粘性強、黒色味強い、5mm以下ローム粒多く、5mm以下赤褐色土粒やや多く含む

住居

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・酸化鉄多く、1cm以下黒色土多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、全体に鈍い褐色(白く見える)を多く含む、ローム粒は1層に同じ

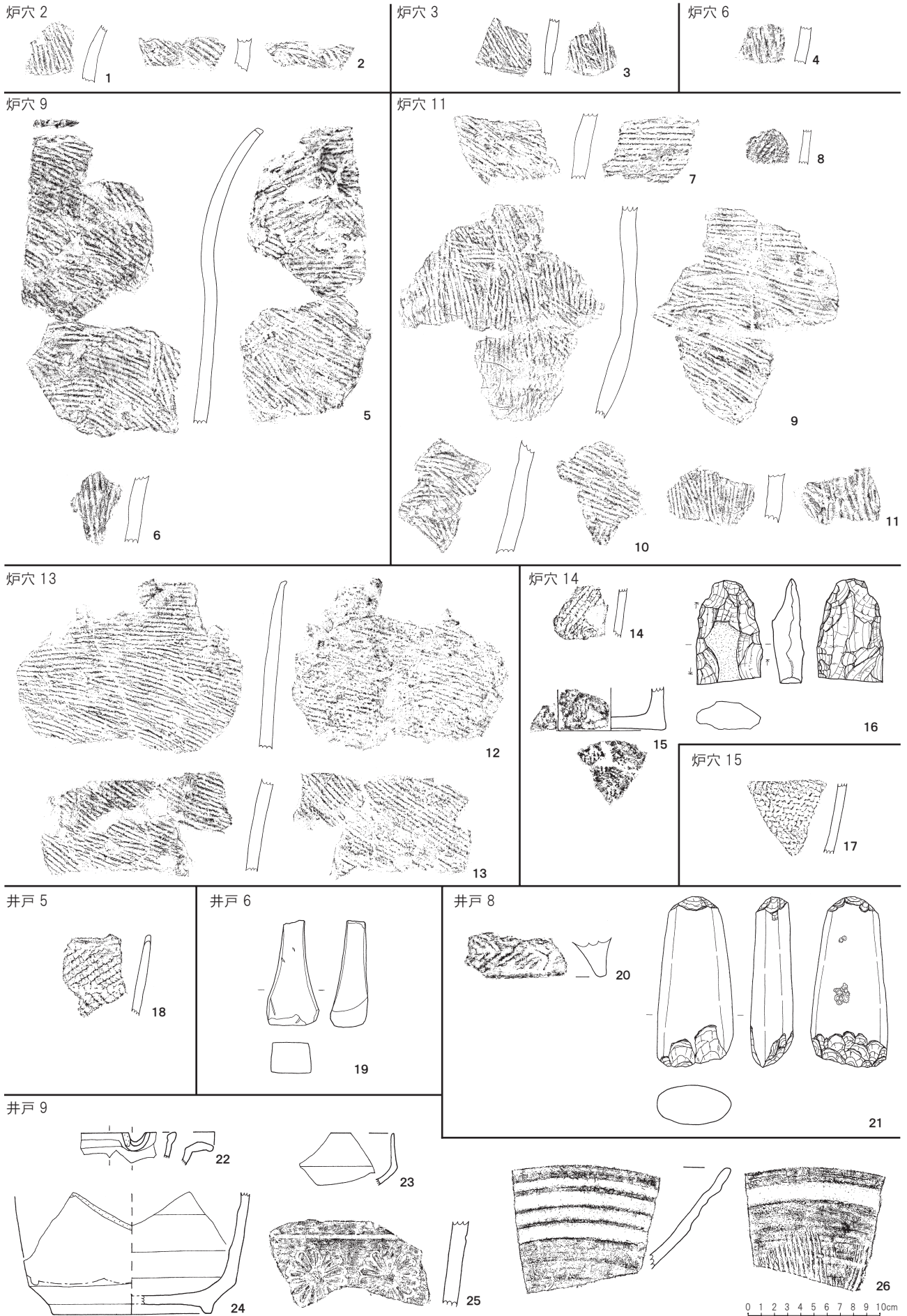
溝 1

1. 黄灰褐色粘土層 III層に対比か? 締り強、粘性有、全体に粘土質で2cm以下シミ状赤褐色酸化鉄多く含む
2. 黒褐色土 1層より暗く1mm大ローム・赤褐色粒多く含む、土器片も少し含む
3. 暗褐色土 1層にシミ状酸化鉄を全体多く含むため、黄褐色を呈するが1層にほぼ同じ
4. 黒褐色土 2層に色は同じ、1cm以下赤褐色焼土を少し含む以外は2層と同じ

溝 2

1. 灰褐色土主体に2mm以下シミ状ローム、赤褐色土・酸化鉄を多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰褐色土主体に2mm以下シミ状ローム・赤褐色土・酸化鉄を多く含む、1層と2層の間に酸化鉄のシミ状層有り、1層より明るい灰色、2mm以下灰白色粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層にほぼ同じ、2・3層の間にシミ状酸化鉄層有り

第13図 長宮遺跡第34地点溝 (1/80)

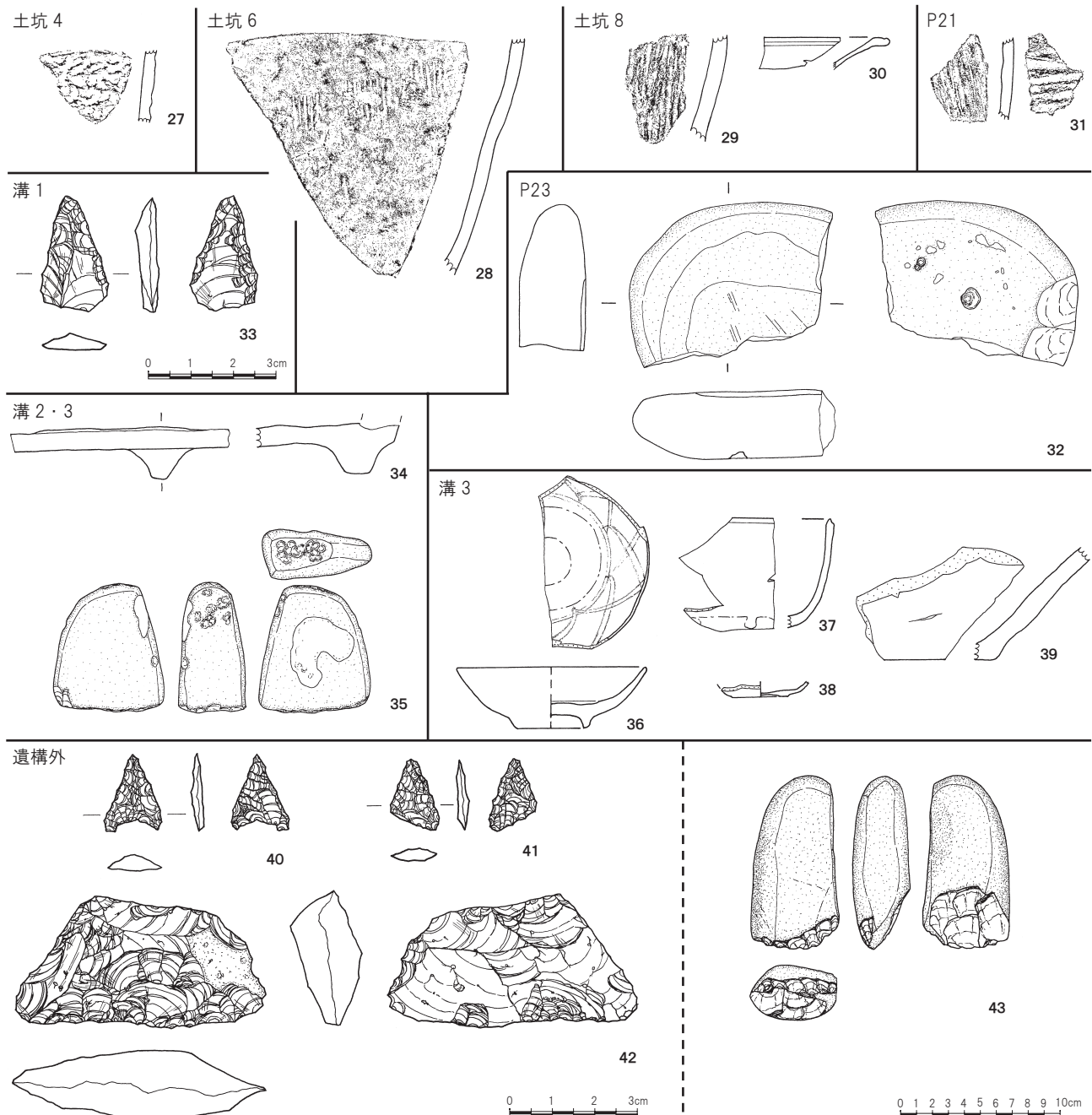


第 14 図 長宮遺跡第 34 地点出土遺物① (1/4)

29 と 31 は表裏に条痕文を施し胎土に繊維を含む早 6・8、ピット 23、溝、遺構外出土遺物については 期後半の条痕文系土器である。井戸 6・8・9、土坑 第7表遺物観察表のとおりである。

第7表 長宮遺跡第34地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

No.	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
19	井戸6	石製品 / 砥石	8	3.7	2.6	85.4	石質：火成岩、本来は灰白色だが赤褐色を呈す	群馬県	—
21	井戸8	石器 / 磨製石斧	12.9	6.1	3.2	444.6	石質：砂岩	—	縄文時代
22	井戸9	陶器 / 片口	—	—	0.5	—	轆轤成形 / 灰釉	瀬戸・美濃	1780～1840年代
23		陶器 / 碗 / せんじ碗	—	—	0.3	—	轆轤成形 / 灰釉	京・信濃	1730～1820年代
24		陶器 / 甕	—	12	0.8	—	轆轤成形 / 鉄釉 / 見込に目痕 / 胎土に黒色粒多く含む	瀬戸・美濃	1700年代～
25		土器 / 火鉢	—	—	1.5	—	紐轆轤成形 / 型押菊花纹	在地	近世
26		陶器 / 撥鉢	—	—	0.8	—	轆轤成形 / 鉄釉 / 櫛目9本単位	瀬戸・美濃	1800年代～
28	土坑6	焼締め陶器 / 大甕、転用砥石	—	—	0.9	—	紐造り成形 / 叩き目痕、内面と割れ口に擦痕有り、転用砥石	渥美	12c末葉
30	土坑8	陶器 / 皿	—	—	0.3	—	轆轤成形 / 灰釉	瀬戸・美濃	—
32	P23	石器 / 凹石	—	—	4.2	853	石質：安山岩	—	縄文時代
33	溝1	石器 / 石鏃	2.6	1.6	0.4	1.64	石質：黒曜石	—	縄文時代
34	溝2・3	土器 (瓦質) / 火鉢か?	—	—	3.1	—	轆轤成形 / 足貼り付け	在地	近世
35		石器 / 磨石	7.8	6.8	2.8	325.1	石質：砂岩	—	縄文時代
36	溝3	磁器 / 皿 / 染付輪壳皿	12	4.5	3.8	—	轆轤成形 / 染付 / 二重網目文	肥前	1690～1770年代
37		陶器 / 碗 / 灰釉丸碗	—	—	0.3	—	轆轤成形 / 灰釉	瀬戸・美濃	1650～1830年代
38		土器 / 灯明皿	—	3.3	0.3	—	轆轤成形 / 糸切底	—	—
39		焼締め陶器 / 大甕	—	—	1.35	—	紐造り成形 / 胎土：赤褐色	常滑	—
40	遺構外	石器 / 石鏃	2.0	1.4	0.3	0.44	石質：黒曜石	—	縄文時代
41		石器 / 石鏃	1.6	1.3	0.25	0.45	石質：黒曜石、脚部一部欠損	—	縄文時代
42		石器 / 撥器	2.9	5.8	1.4	24.6	石質：黒曜石	—	縄文時代
43		石器 / 打製石斧	10.9	5.3	3.6	297.05	石質：砂岩	—	縄文時代



第15図 長宮遺跡第34地点出土遺物② (1/4・2/3)

第3章 長宮遺跡第36地点の本調査

I 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年9月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年10月4日から17日まで行った。幅約1.5mのトレンチ8本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、縄文時代とみられる炉跡や、中世以降の井戸、土坑、ピット、溝などを確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは30～40cmと浅いため、遺跡への影響が避けられないことから原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。遺構密度の薄い南東部の約1/4を除く部分の本調査を実施した。

本調査は遺構の確認されたトレンチ2～トレンチ5までA調査区、トレンチ6～トレンチ8までをB調査区として、2011年10月21日から11月14日まで、重機により表土層を除去し人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の屋外焼土跡2基、中・近世以降の井戸16基、土坑4基、溝16本、ピット20基である。遺物は縄文時代早期から中期の土器、石器、中・近世以降の陶磁器、石製

品、銭貨、板碑などである。

II 遺構と遺物

(1) 焼土

①焼土1

平面形態は楕円形に近く100cm×(77)cmの浅い皿状を呈する。焼土の南側に平面が円形に近い27cm×22cm、深さ18.6cmのピットがある。焼土の範囲は70cm×64cm、厚さ10cmである。

②焼土2

平面形態は不整形で54cm×45cmでほぼ平坦である。焼土の範囲は37cm×20cm、厚さ5cmである。

(2) 井戸

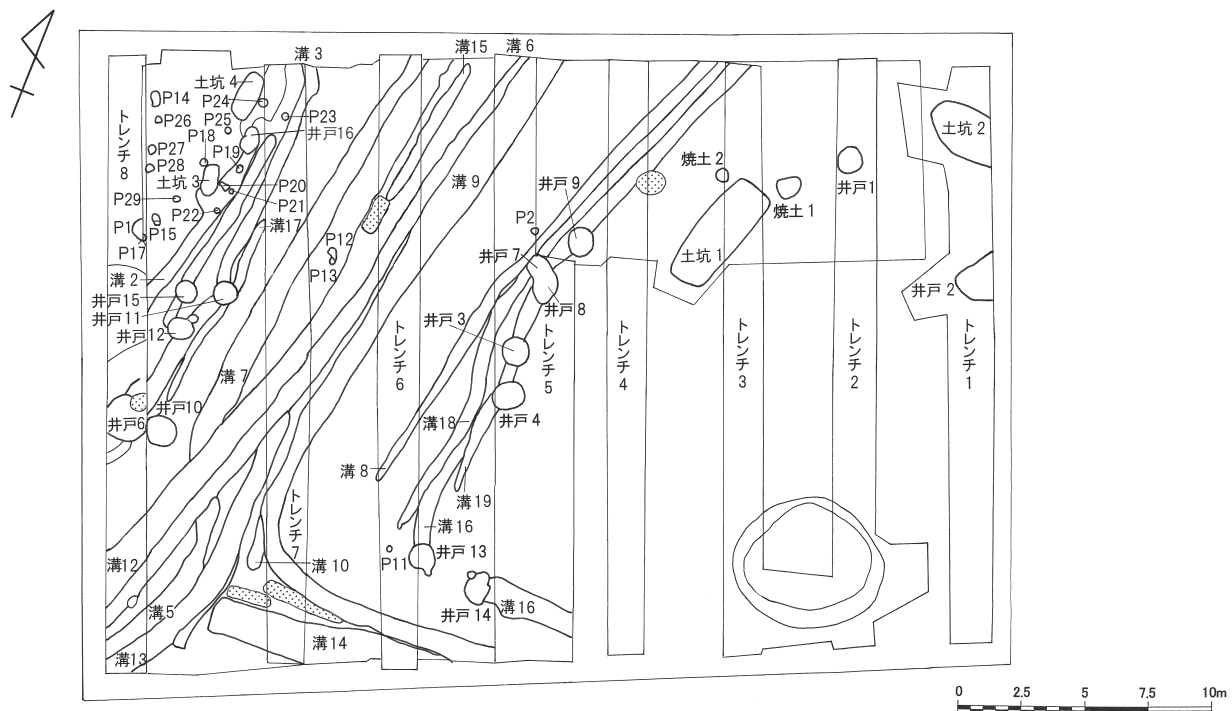
井戸は16基検出した。井戸1・7・10・11・13～15では遺物が出土しているが、特に井戸13からは板碑7点がまとまって出土した。詳細は第8表のとおりである。

(3) 土坑

土坑は4基検出した。土坑1・2は形態と規模から井戸や落とし穴などの可能性も考えられる。詳細は第8表のとおりである。

(4) ピット

ピットは20基検出した。詳細は第8表のとおりである。



第16図 長宮遺跡第36地点遺構配置図 (1/300)

(5) 溝

溝は16本検出した。ほぼ南北方向に延びるが、溝9、16は南北から東西方向に曲がる。溝14は東西方向に延び、断面が逆台形で深く堀状を呈する。各溝の詳細については第9表のとおりである。

(6) 出土遺物(第23図、第24図)

61～84は遺構外出土の縄文式土器である。

61・62は波状口縁の小突起で、61は細沈線、62は細沈線+刺突文列を施す。63は細隆起線の区画内に沈線+刺突文、64は細隆起線の区画内に沈線を施す。65・71は沈線+条痕文、68・69・70は表裏に条痕文を施す。66は竹管状工具の押圧で刻目状のある細隆起線+沈線文を施す。67は隆起線の幅が狭い 括れ部分で上下の区画内には沈線文、66・67は裏面に条痕文を施す。

1～67は早期後半の野島式から鶴ガ島台式である。72～75・77は前期前半で、胎土に繊維を含み地文はLRまたはLr縄文で、77は無文である。76はLrの木目状撚糸文土器である。78・79は沈線とLR縄文か又はLr縄文の加曾利EⅢ式である。79は沈線とLR縄文か又はLr縄文の加曾利EⅢ式である。80は沈線文を施す。81・82は胎土に雲母を含み、81は押引文、82は隆帯脇に押引文を施す阿玉台式である。83は横位沈線文、84は無文浅鉢で中期に含まれる。

85・86は口縁部から頸部に、87は胴部にハケ目を施し、胎土に2mm以下の白色粒子を含む土師器で五領式である。

その他の土器、石器、陶磁器、銭貨、石製品、ガラス製品等については第10表のとおりである。

第8表 長宮遺跡第36地点井戸・土坑・ピット一覧表 (単位 cm)

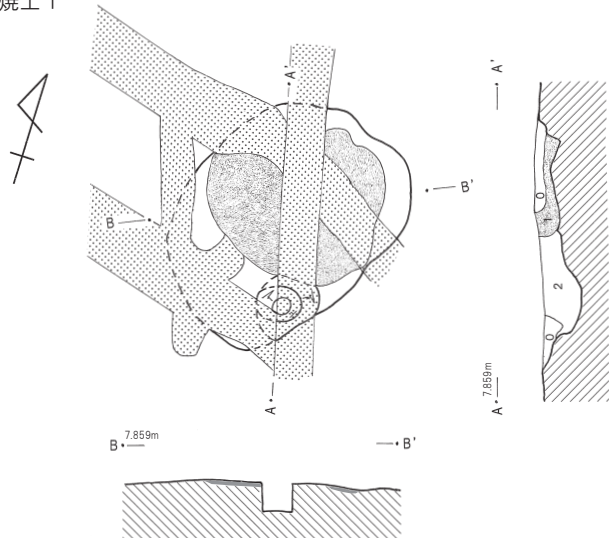
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
井戸1	円形	96×85	44×41	109.2	
井戸2	不明	157×(91)	73×68	110.5	
井戸3	円形	105×104	76×76	84.9	
井戸4	円形	127×117	20×18	116.4	
井戸5	不明	80×(60)	(64×59)	-	
井戸6	不明	184×(150)	42×42	154.5	
井戸7	円形	84×80	43×43	75.8	
井戸8	円形	99×98	62×55	115.8	
井戸9	円形	101×91	54×51	75.6	
井戸10	円形	135×117	52×50	98.8	
井戸11	円形	91×86	83×82	94.2	
井戸12	円形	101×85	56×46	98.8	
井戸13	不整形	101×101	40×32	137.4	
井戸14	不整形	130×95	37×31	112.6	
井戸15	円形	89×78	29×27	72.8	
井戸16	円形	67×64	34×30	37.6	
土坑1	長方形	458×165	447×143	77	
土坑2	不明	(229)×160	(190)×85	99.5	
土坑3	長方形	125×61	95×46	23.9	
土坑4	長方形	190×87	141×60	58.3	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	不明	60×(50)	5×5	25.6	
P2	方形	33×26	10×8	32.7	
P11	円形	26×26	17×16	60.7	
P12	不整形	38×27	11×10	19.3	
P13	方形	24×22	19×8	28.9	
P14	方形	58×38	34×23	36.2	
P15	方形	42×27	9×8	61.5	
P17	不明	25×(17)	9×8	37.2	
P18	方形	27×26	16×14	28.9	
P19	方形	26×23	13×10	26.7	
P20	方形	39×27	13×13	32.0	
P21	方形	21×16	7×7	24.0	
P22	方形	24×21	14×13	30.0	
P23	方形	25×24	15×5	29.4	
P24	円形	36×32	13×7	31.4	
P25	方形	24×22	3×3	51.7	
P26	三角形	31×28	11×6	68.8	
P27	方形	31×29	11×7	36.8	
P28	方形	34×31	20×19	37.0	
P29	方形	25×23	10×6	49.4	

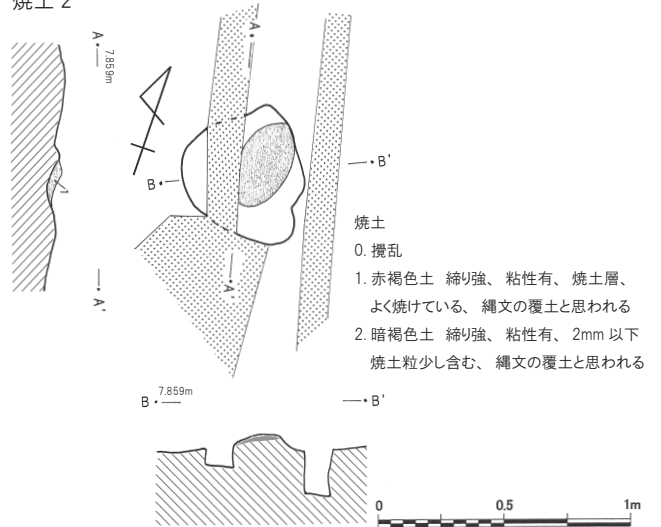
第9表 長宮遺跡第36地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	確認面径	底径	深さ	備考
溝1					欠番(土坑2に変更)
溝2	浅い「U」字形	1071×42～128	1056×9～104	13.6	
溝3	浅い「U」字形	1786×46～76	1786×10～33	31.5	
溝4					欠番(溝6・12に変更)
溝5・7	浅い「U」字形	2738×50～110	2738×14～75	25.6	溝5と溝7が1本になる
溝6	浅い「U」字形	2803×52～84	2803×21～48	22	旧溝4
溝8	浅い「U」字形	2140×20～66	2114×10～38	33.3	旧溝8a
溝9・11	浅い「U」字形	3228×58～155	3228×5～46	42.4	溝9と溝11は同一
溝10	浅い「U」字形	226×60	158×50	33.3	
溝12	浅い「U」字形	2642×72～200	2642×70～190	38.6	旧溝4
溝13	浅い「U」字形	1290×80～136	1290×36～72	53.4	旧8トレンチイモピツ
溝14	深い逆台形	954×143～158	882×54～80	76.4	旧6・7トレンチ溝5?
溝15	浅い箱形	844×33～60	828×14～38	23	旧6トレンチ溝7b
溝16	浅い「U」字形	940×76～120	870×16～24	14	
溝17	浅い「U」字形	809×23～40	791×7～22	9	
溝18	「U」字形	2130×31～50	2114×5～26	36.4	旧溝8b
溝19	浅い「U」字形	2064×24～100	2056×8～58	18.7	旧溝8c

焼土 1

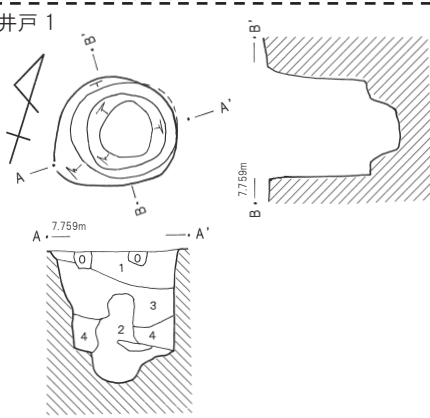


焼土 2

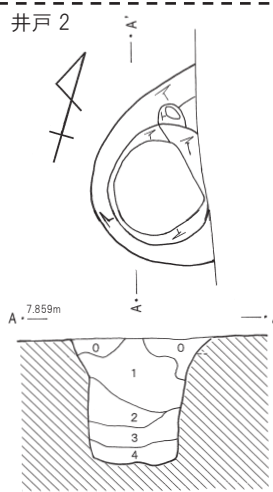


焼土
 0. 攪乱
 1. 赤褐色土 締り強、粘性有、焼土層、よく焼けている、縄文の覆土と思われる
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下焼土粒少し含む、縄文の覆土と思われる

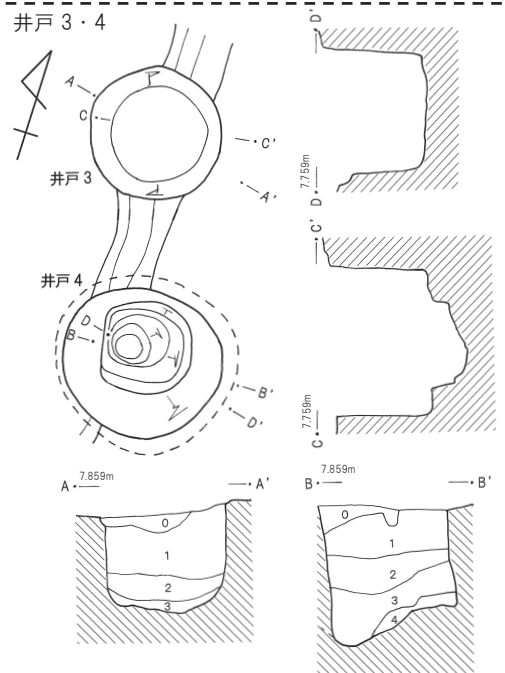
井戸 1



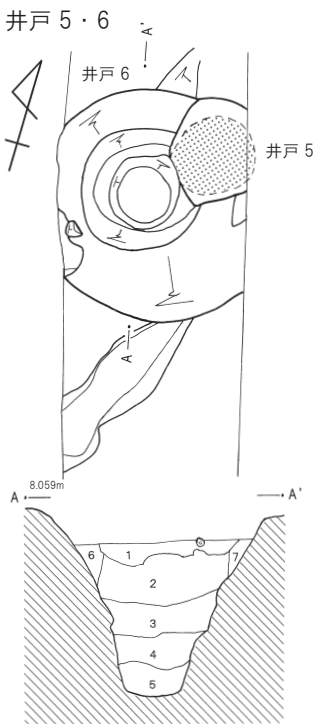
井戸 2



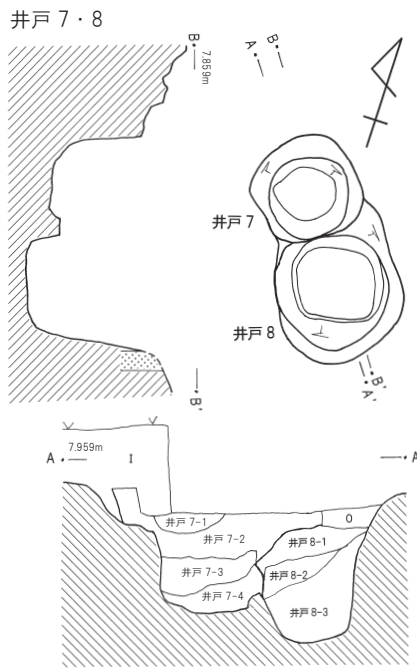
井戸 3・4



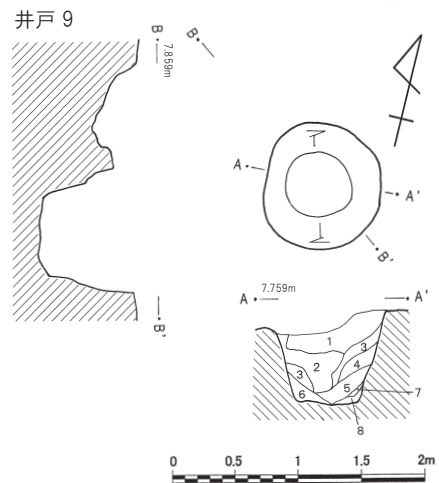
井戸 5・6



井戸 7・8



井戸 9



井戸 1

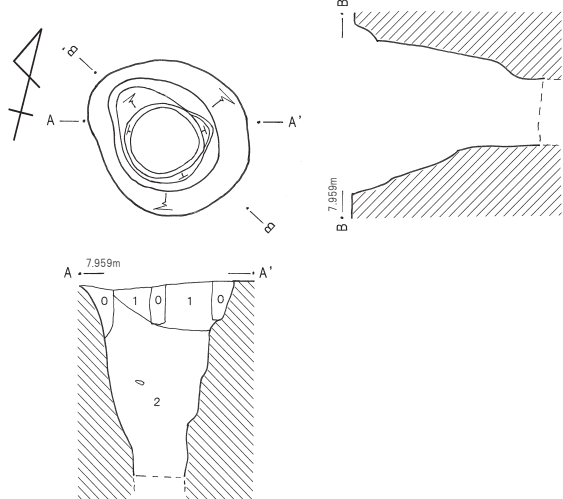
0. 攪乱
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味がある、5～20mm ロームブロックやや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2 cm 以下ロームブロックやや多く含む、ボソボソしている
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、1cm 大ロームブロック・5mm 以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味がある、2 cm 以下ロームブロック多く含む

井戸 2

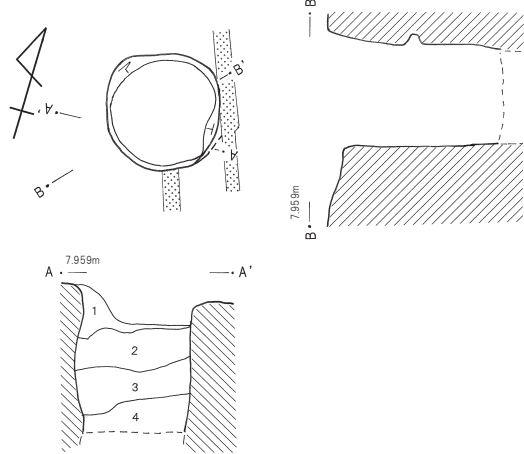
0. 攪乱
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味がある、ソフト質のロームブロックをやや多く含む
 2. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に cm 以下ロームブロックを多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味がある、5mm 以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味がある、5mm 以下ローム粒多く含む

第 17 図 長宮遺跡第 36 地点焼土 (1/30)、井戸① (1/60)

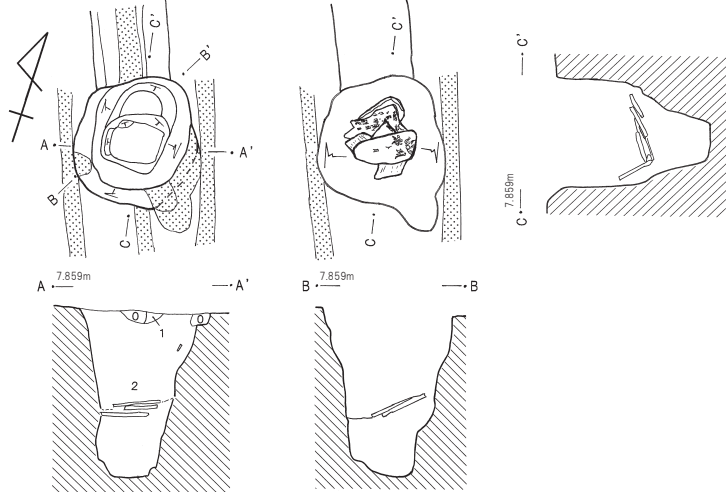
井戸 10



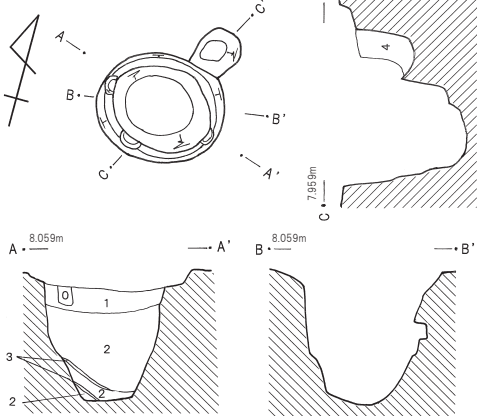
井戸 11



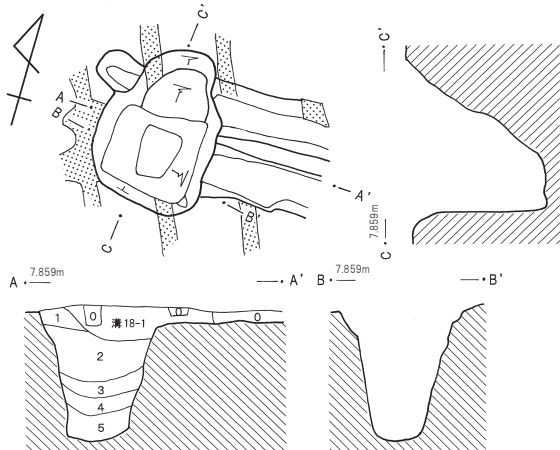
井戸 13



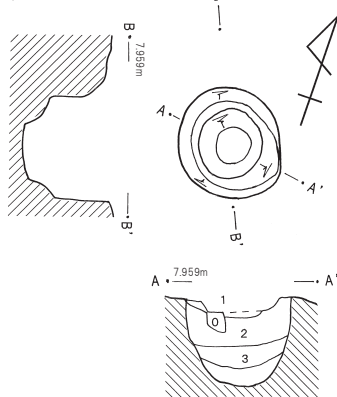
井戸 12



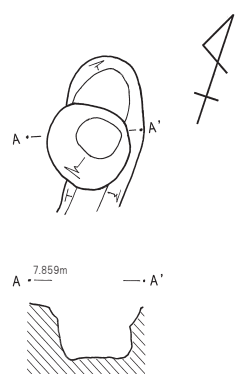
井戸 14



井戸 15



井戸 16



井戸 3

- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～50mm ロームブロックやや多く含む、茶褐色の酸化土が目立つ
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2～8cm 大型のロームブロックやや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む

井戸 4

- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～20mm ロームブロックやや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調上層より黒色味が強く、5～20mm ロームブロックやや多く含む（上層よりは少ない）
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～30mm ロームブロック少し含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～30mm ロームブロック多く含む

井戸 6

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1～4cm ロームブロック少し含む
- 2. 黒褐色土主体 締り強、粘性有、15cm 以下大型のロームブロック主体
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、5cm 大礫少し含む、シミ状に黒褐色土を含む

- 4. 黒色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む
- 5. 黒色土 締り有、粘性有、シミ状に暗褐色土を含む

井戸 7

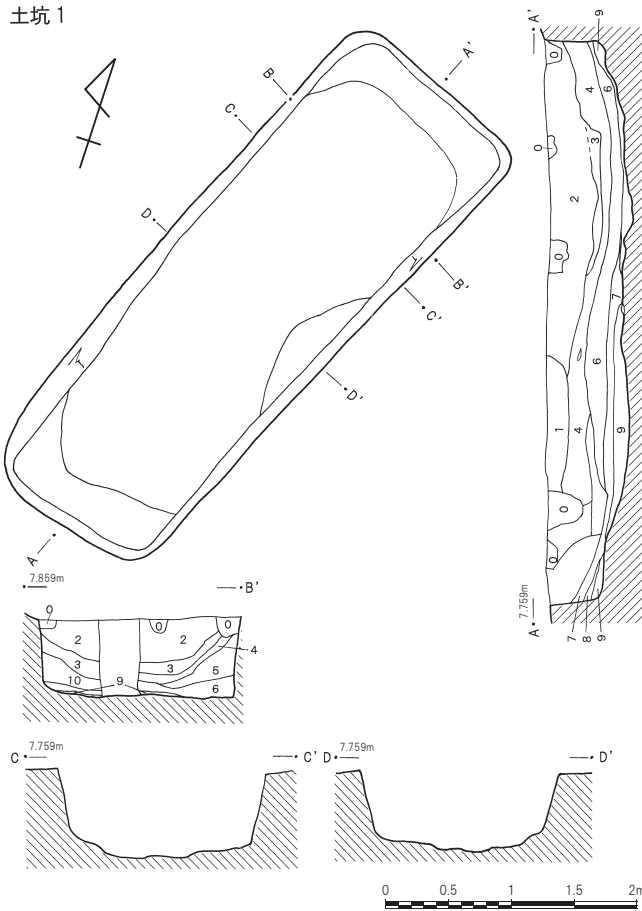
- 0. 攪乱
- 1. 溝覆土
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2～5cm 大ロームブロック少し、2～10mm 大ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2～5cm 大ロームブロック極少し、5mm 以下ローム粒極少し含む
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、2～5cm 大ロームブロック少し 5mm 以下ローム粒 1 層程度含む

井戸 8

- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、井戸 7 の 1 層に類似する、やや色調黒く、大型ロームブロック多く含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、黒色土主体に 5cm 以下茶褐色土をブロックで多く含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm 以下ロームブロック少し、5cm 以下茶褐色土ブロック多く含む

第 18 図 長宮遺跡第 36 地点井戸② (1/60)

土坑 1



井戸 9

1. 褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックに1cm以下黒褐色土少し含む
2. 褐色土+黒褐色土 締り弱、粘性有、3cm以下ローム粒少し含む
3. 黒色土 締り弱、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む(2層より少ない)
5. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒極少し含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、4層に類似(ロームブロックは4層より少ない)
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体の層で、黒色土少し含む
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、5層に同じ(7層がレンズ状の堆積)

井戸 10

0. 攪乱
1. 黒色土 締り弱、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
2. 黒色土 締り弱、粘性有、1層より茶色味濃く、5mm以下シミ状ローム極少し含む

井戸 11

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm大ローム少し、5mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、3cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒多く含む(1層よりローム多く、黄色強い)
3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1・2層より黒く、ロームは1・2層より少ない、3cm大ローム少し、5mm以下ローム極少し含む
4. 暗褐色土 締り弱、粘性有、5cm以下ロームブロックと黒色土混合、ほぼ同程度含む

井戸 12

0. 攪乱
1. 黒色土 締り強、粘性有、5cm大ロームブロック、2mm以下ローム粒少し含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒極少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に黒色土少し含む(部分的な層)
4. 暗褐色土 締り弱、粘性有、1cm以下ロームブロック主体で間に黒褐色土を少し含む、ポロポロする

井戸 13

0. 攪乱
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒極少し含む
2. 黒褐色土

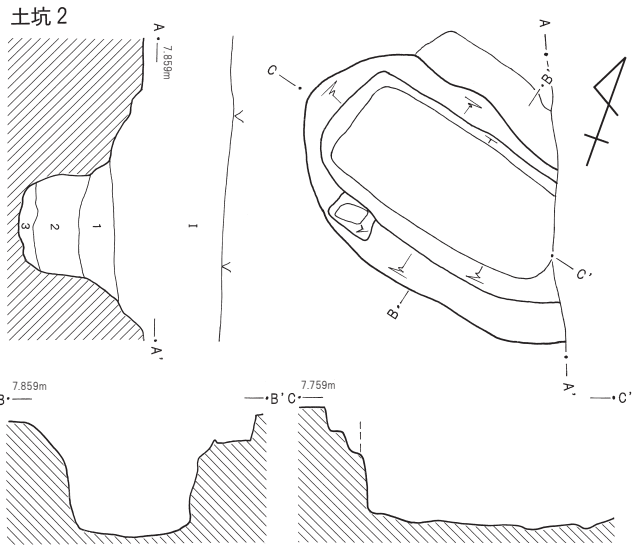
井戸 14

0. 攪乱
1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm以下ロームブロック粒多く含む
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下シミ状ローム極少し含む
3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm以下シミ状ローム・粒少し含む
4. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体で黒褐色土をシミ状に少し含む
5. 黒褐色土 締り弱、粘性有、3層に類似する、ほぼ同じ

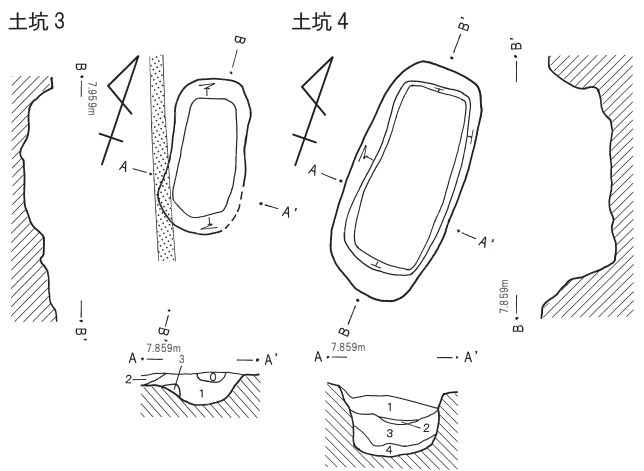
井戸 15

0. 攪乱
1. 暗褐色土 締り弱、粘性有、5mm大ロームと黒色土の混合土

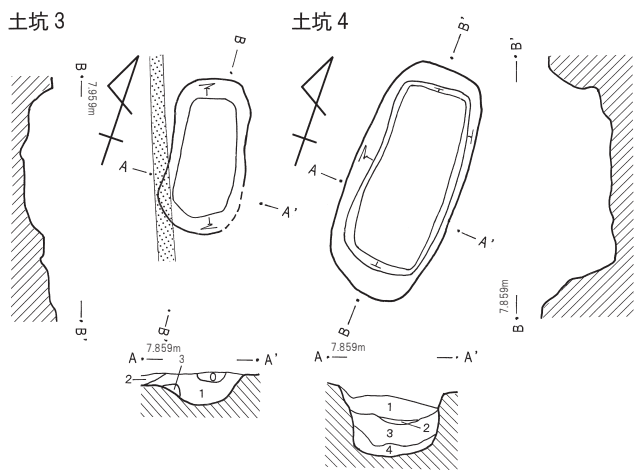
土坑 2



土坑 3



土坑 4



2. 黒色土 締り弱、粘性有、黒色土主体にロームを層状に多く含む
3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、3cm以下ロームと黒色土の混合土
4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に2mm以下ローム極少し含む

土坑 1

0. 攪乱
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒多く、2mm以下炭化物極少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に8cm以下暗褐色土ブロックを多く含む、5mm以下ローム粒わずかに含む
3. 黒色土 シミ状に5cm以下暗褐色土ブロック少し、酸化した5mm以下ハードローム粒少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黒褐色土を少し、5mm以下ローム粒わずかに含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層主体に3mm以下ローム粒を含む(レンズ状堆積を縞状に1~2回含む)
6. 黒色土 締り強、粘性やや強、5mm以下ローム粒わずかに含む
7. 暗褐色土 締り有、粘性有、色調が異なるが、ローム粒主体でほぼ6層と同じ
8. 黒褐色土 締り有、粘性有、6層にほぼ同じ、レンズ状堆積
9. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土に1cm以下ロームブロック主体
10. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体の土に4・6層類似の黒色土を縞状に2回程(レンズ状)含む、5mm以下赤褐色酸化土を少し含む

土坑 2

- I. 黒褐色土 締り有、粘性有、灰色味が有り、上部はローム粒少し、下部はロームブロックをやや多く含む(トレンチと平行してトレンチャー痕が走っている)
1. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土・黄褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土とソフト質のローム土が3~6cmの層厚で互層をなす
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、灰色味が有りややポソポソしている

土坑 3

0. 攪乱
- 1.
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm大ローム少し、2mm以下ローム粒多量に含む
- 3.

土坑 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm大・2mm以下焼土粒多く含む、同ローム粒極少し含む
2. 赤褐色土 締り強、粘性有、焼土ブロック層、1cm大炭化物少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム少し、1m以下赤褐色酸化鉄多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む

第 19 図 長宮遺跡第 36 地点土坑 (1/60)



ピット 1

I. 黒褐色土 締り有、粘性有、灰色味が有り、上部はローム粒少し、下部はロームブロックをやや多く含む(トレンチと平行してトレンチャー痕が走っている)

II b. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒をやや多く含む

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒を少し含む

ピット 11

0. 攪乱

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム主体でシミ状に黒褐色土含む

2. 暗褐色土 締り有、粘性有、ほぼ地山ロームに似るが、ややブロック状を呈する

3. 暗褐色土 締り有、粘性有、やや砂質のロームで締り弱いが、ほぼ地山ロームと似る

ピット 12 ~ 29

0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む、ポロポロする

2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、3mm以下ローム少し含む、壁際に1cm以下ロームブロック少し含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、締り強く1cm以下ロームブロック多量に、2mm以下ローム粒多く含む

4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より1cm大ロームブロック含まない以外は同じ

5. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ポロポロのローム主体に、黒褐色土を少し含む

A-A'・B-B' 溝 2

0. 攪乱

1. 暗褐色土 締り弱、粘性有、

2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、

3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm大ローム少し、2mm以下ローム粒多量に含む

溝 3

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロックやや含む

2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒多く含む

C-C'

溝 12

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、溝 6の1層に類似するが、ややローム粒が少ない為分層した、酸化鉄多く含む

溝 15

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5mm大ローム多く含む、やや茶褐色土

C-C'・D-D'・E-E'・T-T' 溝 6

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む

2. 黒褐色土 締り有、粘性有、1層よりやや灰黒色でローム粒は1層より1mm程大きくて、やや少し含む

1層と2層の間に酸化鉄が多く見られる、酸化鉄多く含む

3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2層に色調似て、2cm大ロームブロックを下層にやや多く含む、酸化鉄多く含む

C-C'・D-D' 溝 9

0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層に色調同じで2cm以下ロームブロック多量に、5mm以下ローム粒を多く含む、攪乱に見える

2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、溝 6の1層より茶色が強く、1cm大ロームブロック少し、2mm以下ローム粒を多く含む

D-D'・E-E'・T-T' 溝 12

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、酸化鉄多く含む

2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む

3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒2層より多く含む

E-E'・H-H' 溝 13

0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む

2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒を多く含む(上層多く下層少い)

3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm大ロームやや多く、2mm以下ローム粒多く含む

H-H' 溝 5

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、溝 12の2層に類似、2mm以下ローム粒多く含む

N-N'

I. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土耕作土

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1.5cm大ロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む

2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含むが、大きなロームブロックを含まない点が1層と異なる

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒を多量に含み、シミ状に酸化鉄を多く含む硬化面で道路とも考えられ、溝は側溝の可能性有、東側には無い

O-O'

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に2cm大ロームブロックと3mm以下ローム粒多く含む

2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に3mm以下ローム粒多く含む

3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度の多さで含む

4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層に同じだが、少しローム粒含むのが少ない

5. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下ロームをシミ状に少し含む

1~4層はロームをブロック状に含むが、5層はシミ状に含む

T-T' 溝 8・18

Ⅲ. ローム地山

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~6cmロームブロック多く含む

2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5~30mmロームブロックやや多く含む

3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~6cmロームブロック少し含む

4. 灰黄褐色土 締り強、粘性有、ロームの細粒多く、5~20mmロームブロックやや多く含む

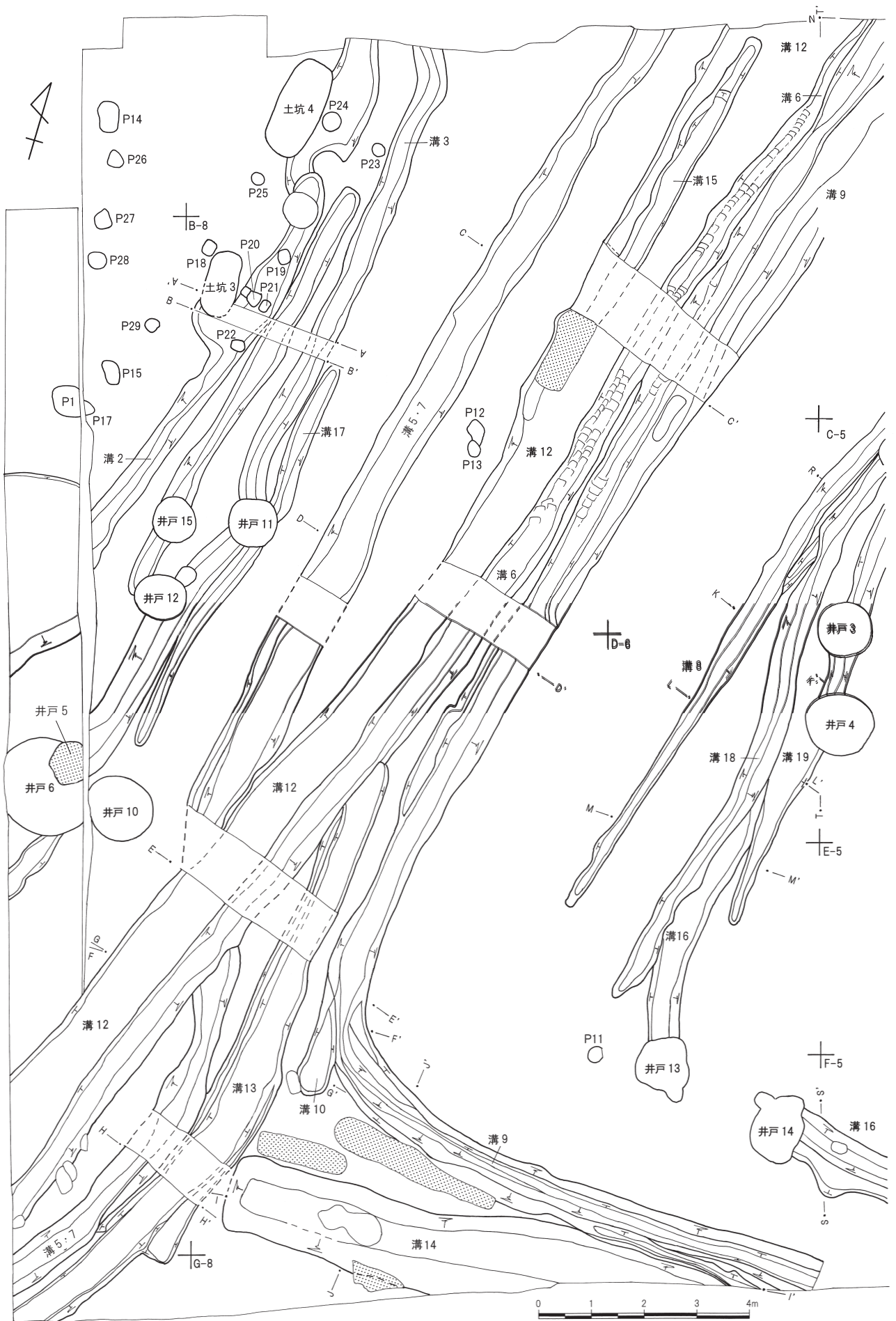
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、5~30mmロームブロックやや多く含む

溝 9

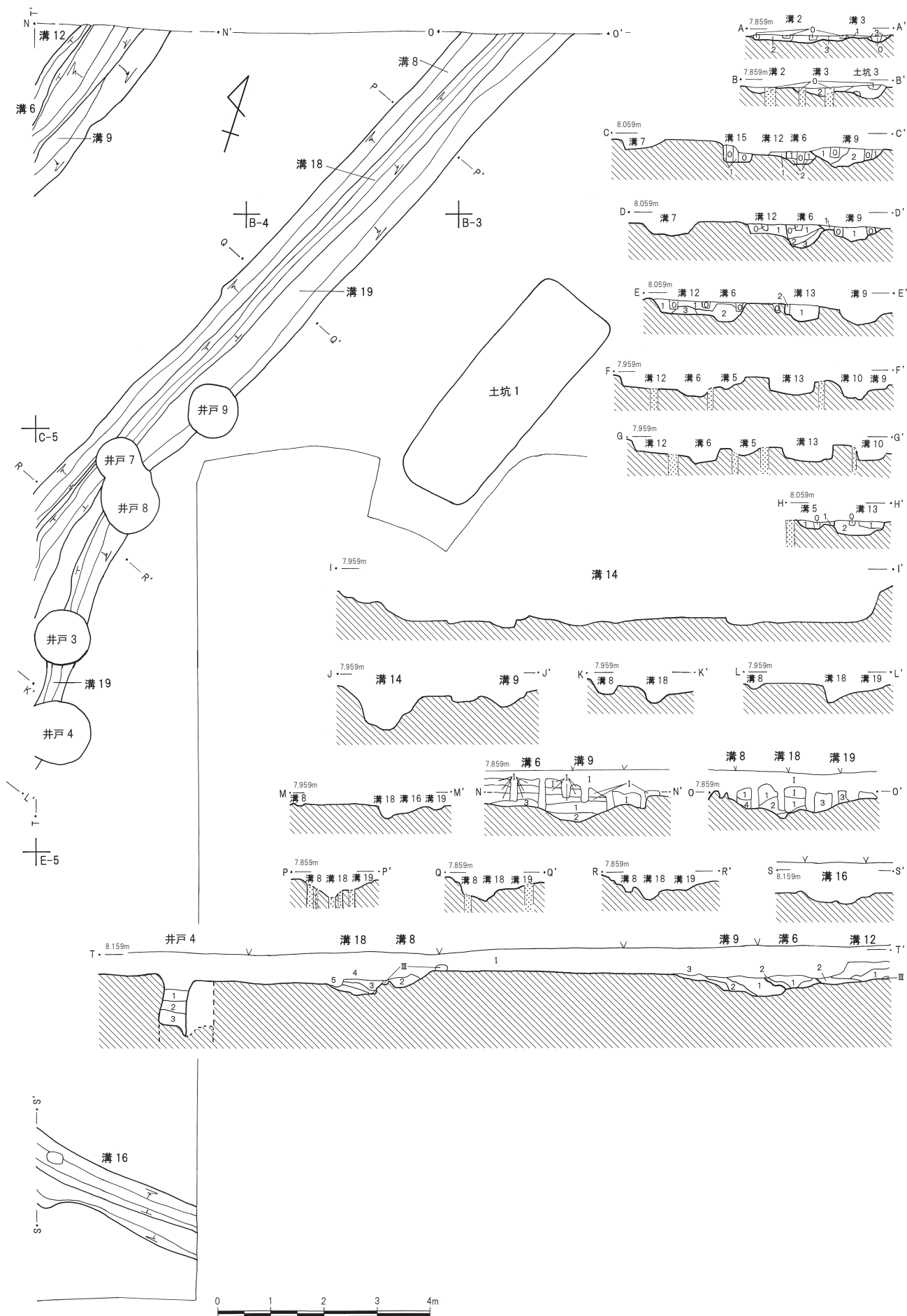
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~3cmロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む

第20図 長宮遺跡第36地点ピット (1/60)



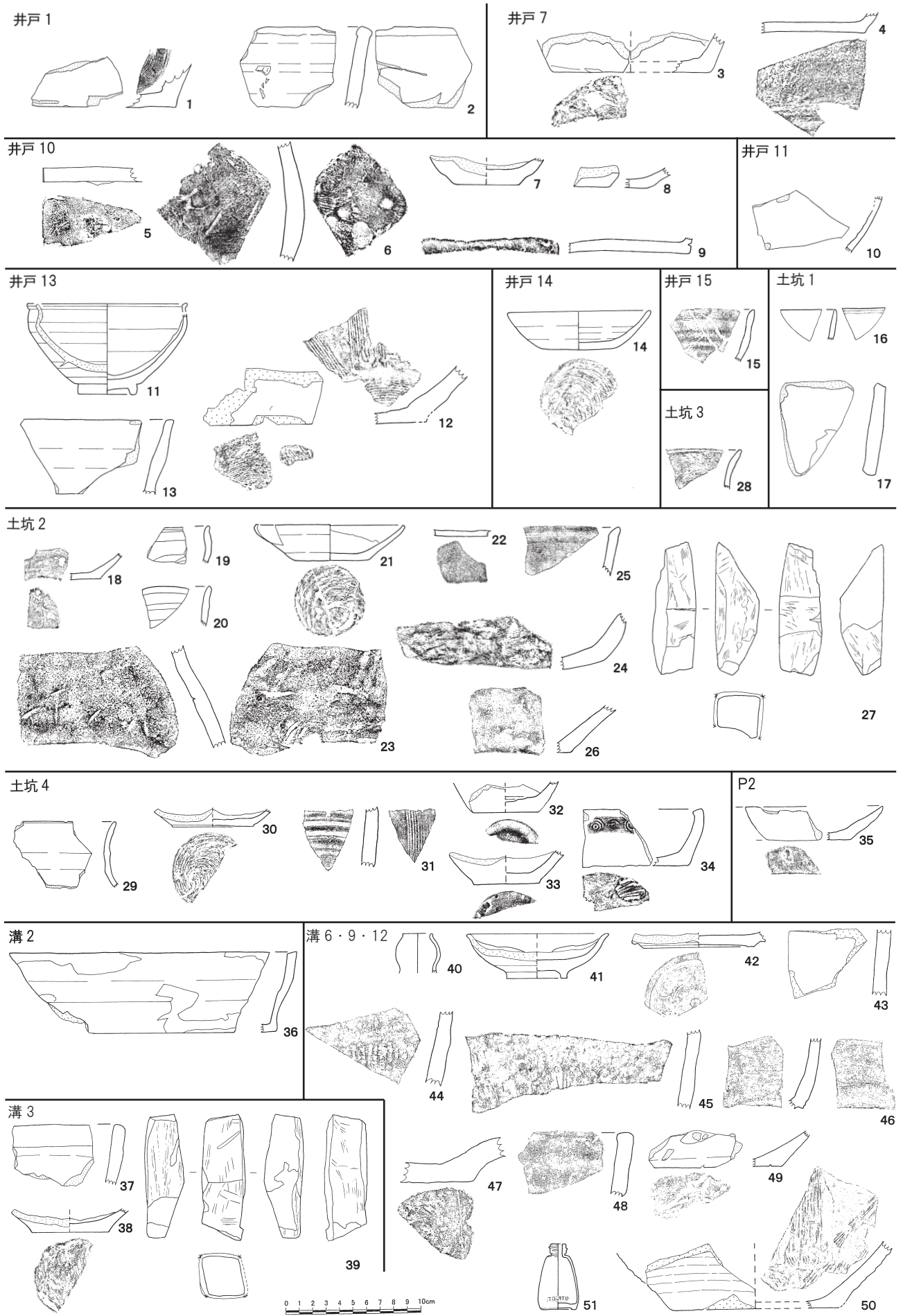
第 21 図 長宮遺跡第 36 地点溝① (1/100)



第22図 長宮遺跡第36地点溝② (1/100)

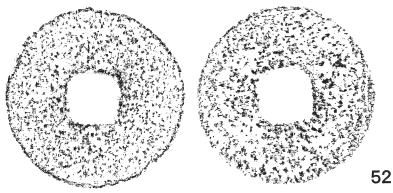
第10表 長宮遺跡第36地点出土遺物観察表 (単位 cm、g)

No.	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	井戸1	陶器/梅瓶	—	—	1.2	轆轤成形/灰釉	瀬戸・美濃	—
2		土器(瓦質)/鉢	—	—	0.95	轆轤成形/瓦質	在地	14c~15c
3	井戸7	焼締め陶器/大甕	—	(12.2)	1.05	紐造り成形/胎土:浅黄色	常滑	—
4		土器/焙烙	—	—	0.9	輪積み成形/瓦質/外面に煤付着・縮れ目	在地	—
5		焼締め陶器/大甕・転用砥石	—	—	1.2	紐造り成形/胎土:灰色/底部破片・側面擦痕・砥石に転用	瀨美	—
6		焼締め陶器/大甕	—	—	1.2	紐造り成形/内面に指頭痕/胎土:灰色	常滑	—
7	井戸10	土器/からげ	—	4.6	0.9	轆轤成形/胎土:軟質	在地	—
8		土器/からげ	—	—	1.05	轆轤成形/胎土:軟質	在地	—
9		土器/焙烙	—	—	0.75	輪積み成形/外面に煤付着・縮れ目	在地	—
10	井戸11	炉器/瓶	—	—	0.5	轆轤成形/胎土:にぶい橙と褐灰色	備前?	—
11		陶器/碗/天目碗	(12.3)	4.4	6.9・0.5	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	16c後半
12	井戸13	陶器/搗鉢	—	—	1.65	轆轤成形/鉄釉/糸切底	瀬戸・美濃	—
13		土器/焙烙	—	—	1.1	輪積み成形/瓦質/外面に煤付着	在地	16c
14	井戸14	土器/かわらけ	10.9	4	2.9・0.6	轆轤成形/底部糸切底・板状圧痕	在地	14c
15	井戸15	須恵器/坏	—	—	0.4	轆轤成形/風化のため摩滅	—	—
16		磁器/碗	—	—	0.3	轆轤成形/染付/口縁内二重圏線	肥前	18c
17	土坑1	陶器/甕・転用砥石	—	—	1.2	轆轤成形/鉄釉・うのふ釉・側面擦痕・砥石に転用	瀬戸・美濃	—
18		須恵器/坏	—	—	0.65	轆轤成形/糸切底	—	—
19		陶器/志野皿	—	—	0.5	轆轤成形/長石釉	瀬戸・美濃	16c後半~
20		陶器/皿	—	—	0.65	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	—
21		土器/かわらけ	11.4	5	2.7	轆轤成形/糸切底	在地	15c~16c
22		須恵器/坏	—	—	0.45	轆轤成形/糸切底	—	—
23	土坑2	焼締め陶器/大甕	—	—	1	紐造り成形/胎土:灰色	常滑	—
24		焼締め陶器/大甕	—	—	1.2	紐造り成形/内面に指頭痕/胎土:淡黄色/外面剥落・井戸1から同一個体片出土	在地	—
25		土器/鍋	—	—	0.7	轆轤成形/胎土:にぶい褐色	在地	—
26		土器(瓦質)/鉢	—	—	1.25	轆轤成形/瓦質	在地	—
27		石製品/砥石	10	2.75	3	石質/火成岩/重量138.61g	—	—
28	土坑3	土師器/甕	—	—	0.35	粘土紐巻上げ/口唇部外に沈線	在地	—
29		土師器/甕	—	—	0.4	粘土紐巻上げ/口唇部外に沈線	在地	—
30		須恵器/坏	—	6	1.4・0.5	轆轤成形/底部回転糸切痕	東金子	—
31		陶器/搗鉢	—	—	1	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	—
32	土坑4	土器/からげ	—	(5)	0.7	轆轤成形/胎土:軟質	在地	—
33		土器/からげ	—	(5)	0.6	轆轤成形/胎土:軟質	在地	—
34		土器/火鉢	—	—	0.7	轆轤成形/足貼付(欠損)/陰刻同心円文	—	—
35	P2	土器/かわらけ	—	—	0.65	轆轤成形/胎土:軟質	在地	—
36	溝2	土器/焙烙	(44)	(28)	0.9	輪積み成形/瓦質/外面に煤付着	在地	16c
37		土器(瓦質)/鉢	—	—	1.1	轆轤成形/瓦質	在地	14c~15c
38	溝3	土器/かわらけ	—	5.9	0.75	轆轤成形/胎土:軟質	在地	—
39		石製品/流紋岩	9.6	3.3	2.55	石質/火成岩/重量141.39g	—	—
40		陶器/茶入・瓶	—	—	0.3	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	—
41		陶器/皿	(10.7)	4.5	3.4・0.7	轆轤成形/灰釉	—	—
42		陶器/皿	—	8.3	0.75	轆轤成形/灰釉/見込と底裏に目痕	瀬戸・美濃	—
43		焼締め陶器/大甕	—	—	1.15	紐造り成形/胎土:にぶい赤褐色	常滑	—
44		焼締め陶器/大甕・転用砥石	—	—	1.05	紐造り成形/胎土:灰色/外面叩き目痕・側面擦痕・砥石に転用	瀨美	—
45		焼締め陶器/大甕	—	—	0.95	紐造り成形/胎土:灰色	瀨美	—
46	溝6・9・12	焼締め陶器/甕	—	—	1	轆轤成形/胎土:暗赤灰色	備前	—
47		焼締め陶器/大甕	—	—	1.45	紐造り成形/胎土:灰色	常滑	—
48		土器/鉢	—	—	1.1	紐造り成形/胎土:2~3mm白色粒多く含む・明黄褐色	在地	14c~15c
49		土器/かわらけ	—	—	1.05	轆轤成形/胎土:軟質	在地	—
50		陶器/搗鉢	—	(12.5)	1.2	轆轤成形/櫛目12本単位以上	瀬戸・美濃	—
51		ガラス製品/薬瓶	1.3	3	5	胴下部に「TOJUI」銘有り・底部に「28」銘有り	—	—
52		金属製品/銭貨	2.35	2.35	0.1	材質:銅/孔径6.8mm/重量2.53g	—	—
53	溝7	陶器/碗/天目碗	—	—	0.6	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	16c後半
54	溝8・18・19	土器/かわらけ	—	—	0.8	轆轤成形/色調:橙	在地	—
55		陶器/皿	(8.1)	(5)	1.9・0.55	轆轤成形/灰釉・削り出し高台	瀬戸・美濃	16c末
56	溝14	焼締め陶器/大甕	—	—	1.15	紐造り成形/胎土:にぶい橙色	常滑	—
57		焼締め陶器/鉢	—	—	1.05	紐造り成形/胎土:灰白色	—	—
58		陶器/搗鉢	—	(12)	0.9	紐造り成形/櫛目13本単位	瀬戸・美濃	—
59	溝16	陶器/搗鉢	—	—	0.6	轆轤成形/櫛目有り	瀬戸・美濃	16c末~17c初頭
60		陶器/香炉	—	—	0.55	轆轤成形/灰釉	瀬戸・美濃	—
88		石製品/石鏃	2.6	1.5	0.3	石質:黒曜石/重量0.89g	—	縄文時代
89		石製品/石鏃	2.05	1.2	0.35	石質:黒曜石/重量0.69g	—	縄文時代
90		石製品/石鏃	(2.2)	1.5	0.4	石質:チャート/重量1.54g	—	縄文時代
91		石製品/打製石斧	(5.9)	4.8	1.25	石質:輝緑凝灰岩/重量66.89g	—	縄文時代
92		石製品/打製石斧	7.4	4.2	1.15	石質:黒色細粒砂岩/重量37.69g	—	縄文時代
93		石製品/打製石斧	(12.35)	7.2	1.4	石質:フォルンフェルス/重量178.04g	—	縄文時代
94		須恵器/坏	—	—	0.4	轆轤成形/灰黄褐色	南比企	奈良・平安時代
95		須恵器/甕	—	—	1.0	轆轤成形/灰色	—	奈良時代
96		陶器/皿	—	—	0.55	轆轤成形/灰釉・削り出し高台・被熱のため白色を呈す・外面に目痕有り	瀬戸・美濃	16c末~17c初頭
97	遺構外	陶器/天目碗	—	—	0.7	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	16c末~17c初頭
98		陶器/香炉	—	(8.7)	0.6	轆轤成形/灰釉/底部に付く足は両側面をつまんだ扁平形	瀬戸・美濃	—
99		須恵器/壺	—	—	0.8	轆轤成形/自然釉	—	—
100		土器(瓦質)/鉢	—	—	0.9	轆轤成形/瓦質	在地	14c~15c
101		土器(瓦質)/片口鉢	—	—	0.95	轆轤成形/瓦質/胎土:橙+褐灰色	在地	14c~15c
102		陶器/搗鉢	—	—	0.9	轆轤成形/色調:明褐色	明石・堺系	18c後半~
103		土器/かわらけ	7.9	4.0	2.3・0.5	轆轤成形/底部糸切痕/色調:橙	在地	—
104		土器/かわらけ	—	—	0.7	轆轤成形/色調:橙	在地	—
105		石製品/砥石	(5.9)	3.3	1.65	石質:流紋岩/重量44.52g	—	—
106		金属製品/銭貨	2.5	2.4	0.1	材質:銅/孔径5.75mm/重量2.45g「永楽通寶」	明	初鑄1408年
107		金属製品/銭貨	2.55	2.55	0.15	材質:銅/孔径7.6mm/重量3.07g「宣徳通寶」	明	初鑄1433年

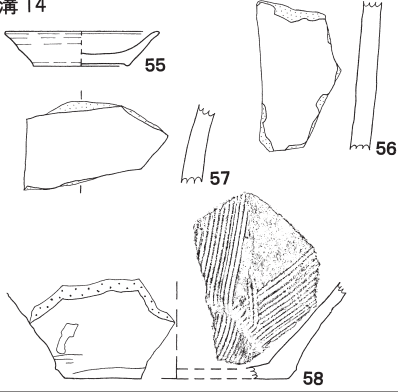


第23図 長宮遺跡第36地点出土遺物① (1/4)

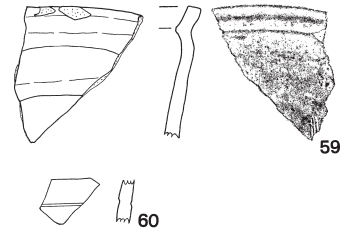
溝 6・9・12



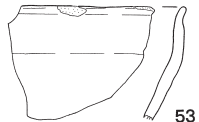
溝 14



溝 16



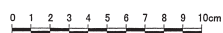
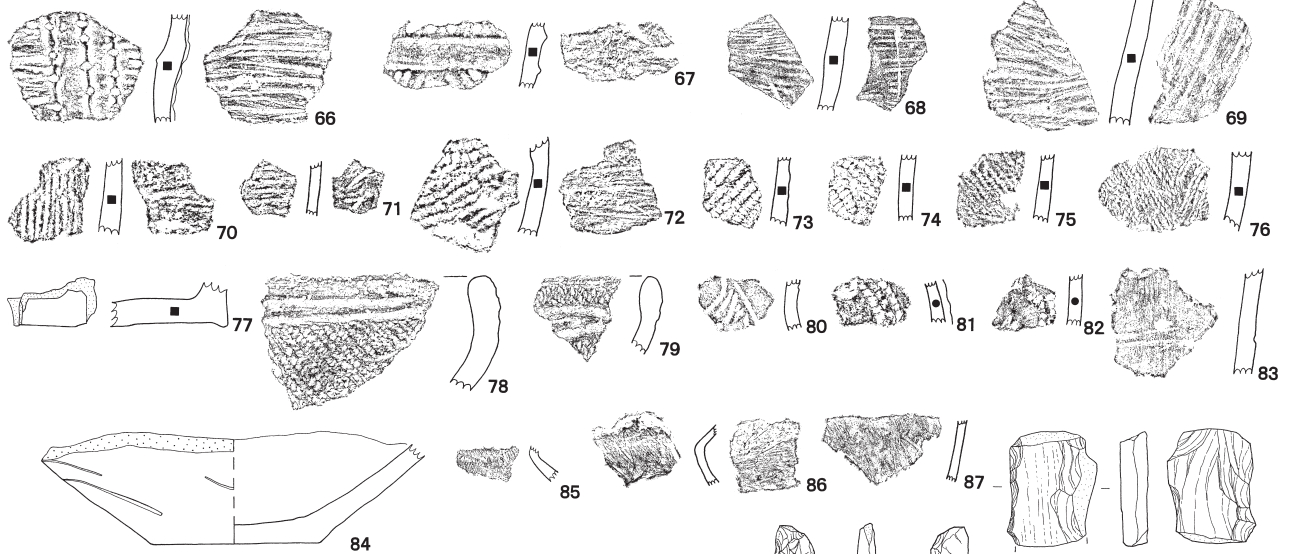
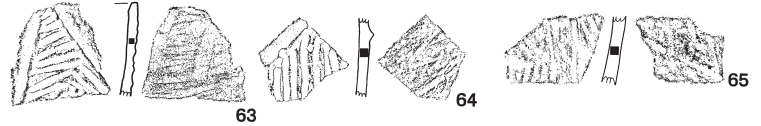
溝 7



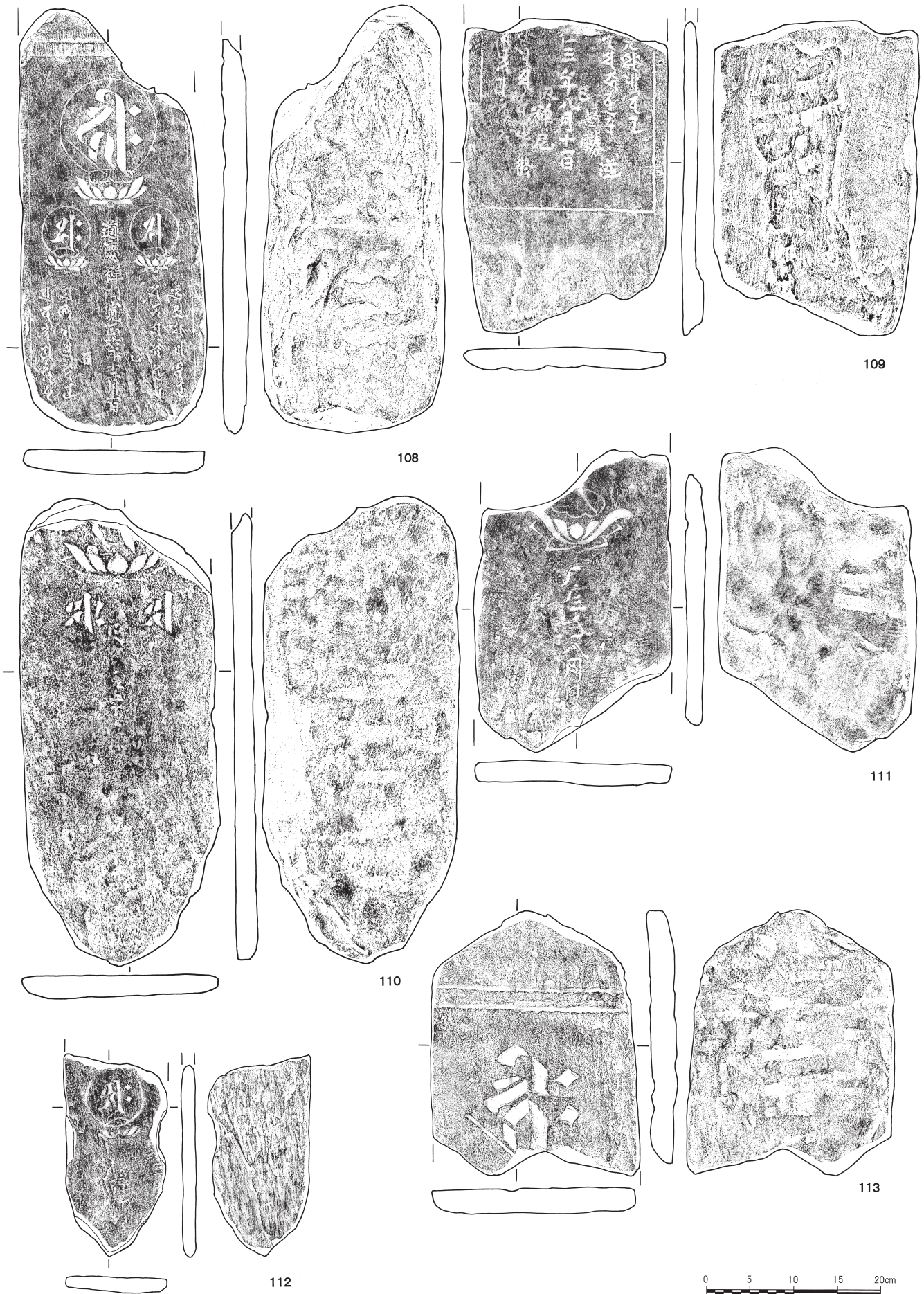
溝 8・18・19



遺構外

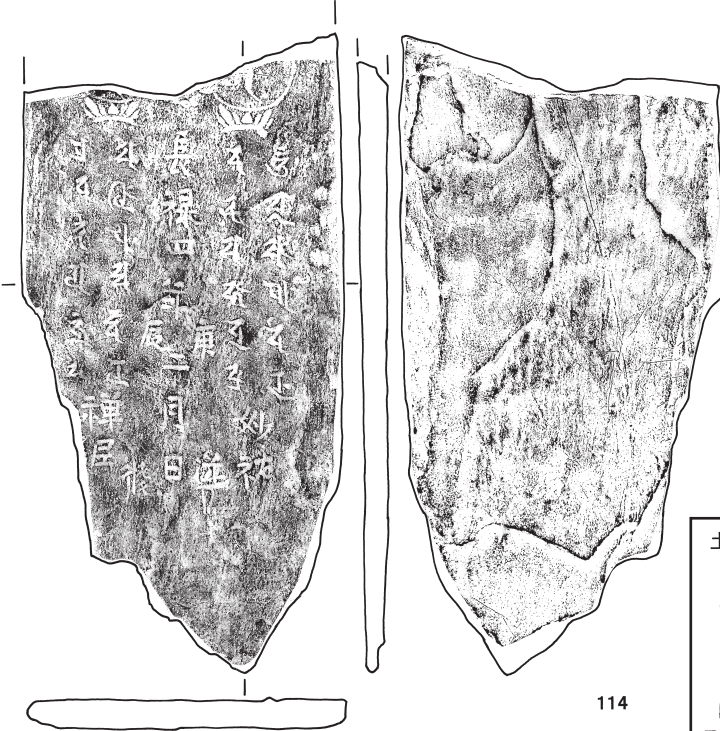


第 24 図 長宮遺跡第 36 地点出土遺物② (1/4・2/3・1/1)

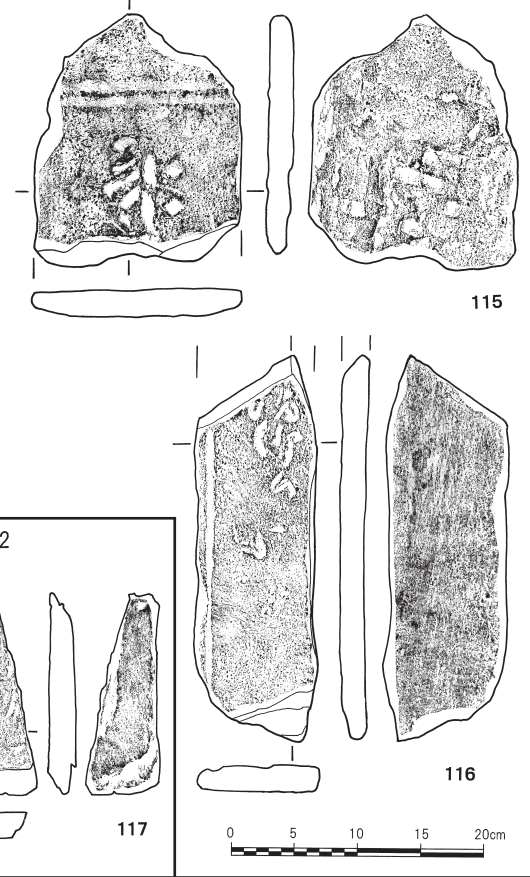


第25図 長宮遺跡第36地点出土遺物③ (1/6)

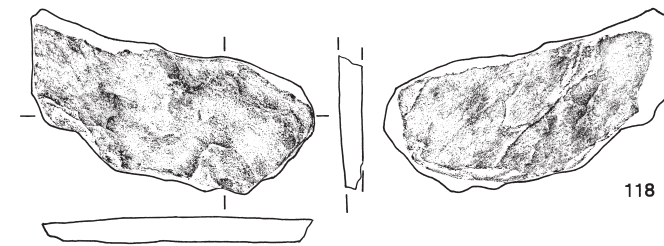
井戸 13



溝 14



井戸 11



第 26 図 長宮遺跡第 36 地点出土遺物④ (1/6)

第 11 表 長宮遺跡第 36 地点出土板碑観察表 (単位 cm、g)

No.	出土遺構名	種別・器種	高さ	幅	厚さ	重さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代	
108	井戸 13	石製板碑	49.2	21.1	2.5	5.0	石質：緑泥片岩 / 残存：山形と基部欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：薬研彫 / 裝飾：二条線、阿弥陀三尊、主尊種子「キリーク(阿弥陀如来)月輪、蓮座」、脇侍種子「サ(観音菩薩)月輪、蓮座」、脇侍種子「サク(勢至菩薩)月輪、蓮座」 / 真言：光明真言 / 紀年名：道慶禪門寛正六年十二月一日、乙酉 / 裏面：ノミ痕	—	1465 年	
109			36.8	22.7	2.1	3.61	石質：緑泥片岩 / 残存：上半部と基部欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：線彫 / 裝飾：枠線有 / 真言：光明真言 / 紀年名：口仁三年八月十一日、己丑、昌國禪尼、逆修 / 裏面：ノミ痕	—	1469 年	
110			54.1	22.3	2.5	5.0	石質：緑泥片岩 / 残存：山形欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：薬研彫 / 裝飾：阿弥陀三尊、主尊種子「キリーク(阿弥陀如来)、蓮座」、脇侍種子「サ(観音菩薩)、蓮座」、脇侍種子「サク(勢至菩薩)、蓮座」 / 紀年名：応安元年六月廿十日、乙酉 / 裏面：ノミ痕	—	1368 年	
111			34.9	23.0	2.3	3.05	石質：緑泥片岩 / 残存：上半部と基部欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：薬研彫 / 裝飾：主尊種子「阿弥陀三尊、主尊種子「キリーク(阿弥陀如来)、蓮座」 / 紀年名：暦応三年八月日、庚辰 / 裏面：ノミ痕	—	1340 年	
112			23.2	11.5	1.5	0.75	石質：緑泥片岩 / 残存：上半部と基部欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：薬研彫 / 裝飾：主尊種子「サク(勢至菩薩)月輪、蓮座」 / 紀年名：  、禪門 /	—	—	
113			30.0	24.4	2.7	4.5	石質：緑泥片岩 / 残存：下半部欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：薬研彫 / 裝飾：二条線、主尊種子「キリーク(阿弥陀如来)」 / 裏面：ノミ痕	—	—	
114			51.2	25.8	2.1	5.0	石質：緑泥片岩 / 残存：上半部欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：線彫 / 裝飾：主尊種子欠損、脇侍種子「サ(観音菩薩)月輪、蓮座」、脇侍種子「?、月輪、蓮座」 / 真言：光明真言 / 紀年名：長祿四年二月日、庚辰、妙祐禪尼、逆修	—	1460 年	
115			溝 14	19.9	16.7	2.0	1.25	石質：緑泥片岩 / 残存：下半部欠 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：薬研彫 / 裝飾：二条線、主尊種子「キリーク(阿弥陀如来)」 / 裏面：ノミ痕	—	—
116			30.6	9.8	1.8	1.25	石質：緑泥片岩 / 残存：一部残存 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：線彫 / 裝飾：枠線有 / 紀年名：□□□	—	—	
117			土坑 2	16.0	5.9	2.2	0.30	石質：緑泥片岩 / 残存：一部残存 / 石質：緑泥片岩 / 掘り方：線彫 / 裝飾：蓮座、紀年名：  □□	—	—
118	井戸 11	14.6	22.3	1.6	0.85	石質：緑泥片岩 / 残存：一部残存 / 石質：緑泥片岩 / 裝飾：紀年名不明	—	—		

第4章 松山遺跡第56地点の本調査

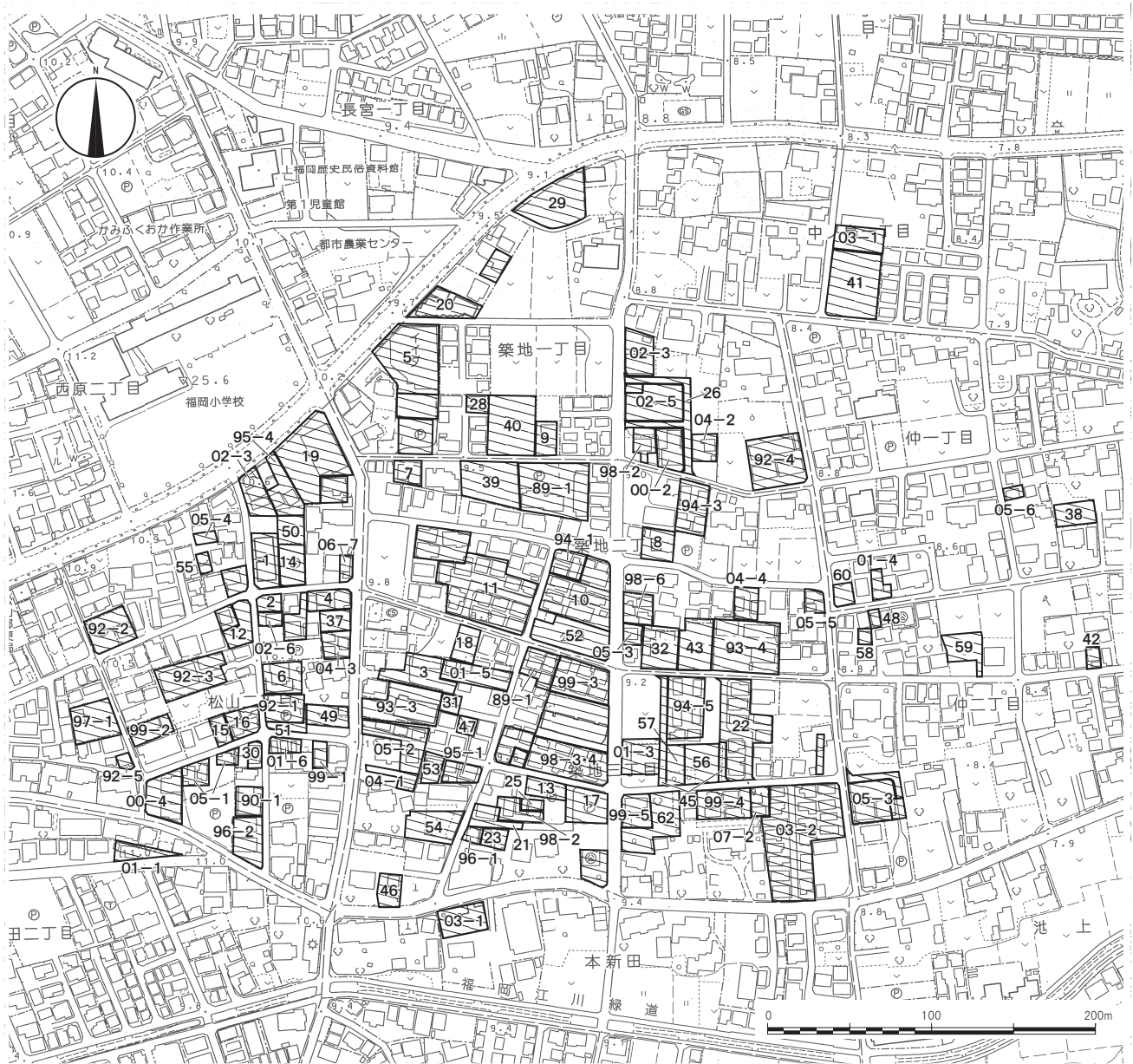
I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

2012年には第62地点の試掘調査で、本遺跡で初めて縄文時代中期の住居跡を検出した。江川流域の縄文時代中期前半の集落を考える上でも貴重である。



第27図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第12表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	松山2-5-4	1978.10.14~11.6	479		住居跡2軒	埋(Ⅰ)
2次	松山2-6-7	1979.4.26~5.1	161		住居跡1、土師器	埋(Ⅱ)
3次	築地3-1-20	1979.8.7~16	733		住居跡1、土器	埋(Ⅱ)
4次	松山2丁目6-9	1982.9.13~24	277		遺構なし、平安土器	埋(V)
5次	築地1丁目1-16	1983.4.20~28	1461	住宅建設	なし	埋(VI)
6次	松山2-6-16	1984.8.13~28	330	住宅建設	溝1、土坑5	埋(VII)
7次	築地2-3-19	1986.1.13~21	237	個人住宅	溝1	埋(VIII)
8次	築地2-4-12	1986.7.1~8	319	個人資材置場	平安土器散布地	埋(IX)
9次	築地1-1-50	1987.10.1~3	288	個人住宅	なし	埋(X)
88試	築地3-3-4	(1989.1.9.10)	370	住宅建設	なし	埋(11)
89試	築地2-3-11	(1989.6.27~30)	1342	共同住宅	なし	埋(12)
90試	松山2-2-9	(1990.9.7~12)	304	個人住宅	なし	埋(13)
10次	築地2-2-6	1991.10.14~18	450	個人住宅	平安住居跡(国分期)2、溝1	埋(14)
11次	築地2-1-10	1991.10.18~21	2029	宅地造成	平安住居跡(国分期)1、溝1、土坑2、井戸状遺構1	埋(14)
92試(1)	松山2-6-22.23	(1992.4.17~24)	567	駐車場	なし	埋(15)
92試(2)	松山2-4-7	(1992.5.6~11)	571	駐車場	なし	埋(15)
12次	松山2-3-11	1992.5.12~20	393	宅地造成	平安井戸跡1	埋(15)
13次	築地3-2-18	1992.5.18~30	234	宅地造成	平安住居跡1	埋(15)
14次	松山2-5-17	(1992.5.21~30)	432	宅地造成	中世井戸跡2	埋(15)
92試(3)	松山2-3-31.13	(1992.6.12~18)	871.9	宅地造成	なし	埋(15)
92試(4)	築地1-3-17	(1992.6.3~11)	998	共同住宅	溝遺構、井戸状遺構	埋(15)
92試(5)	松山1-4-32	(1992.10.30)	78.4	共同住宅	なし	埋(15)
93試(1)	松山2-3-1	(1993.4.5~16)	509.19	宅地造成	なし	埋(16)
15次	松山2-3-41	1993.4.19~28	148	個人住宅	平安住居跡1	埋(16)
17次	築地3-2-19	1993.5.10~24	597	駐車場	古墳末期住居跡1	埋(16)
16次	松山2-3-43.44	1993.7.2~15	156.76	個人住宅	平安住居跡1	埋(16)
93試(3)	築地3-1-17.31	(1993.10.15~20)	994.22	共同住宅	なし	埋(16)
93試(4)	築地2-5-2の一部	(1993.10.22~26)	1246.63	共同住宅	なし	埋(16)
18次	築地3-1-16	1993.12.1~7	290	駐車場	奈良末~平安住居跡1	5年教要
19次	松山2-5-9	1994.1.17~2.3	1531.38	貸店舗	平安住居跡2、溝跡1	上遺調3集 松山遺跡第19次調査概報
94試(1)	築地2-2-3	(1994.5.30)	310.48	分譲住宅	なし	埋(17)
20次	築地1-2-4	1994.6.24~7.1	559.17	共同住宅	古墳末期竪穴住居跡1、土師器、須恵器破片	埋(17)、上遺調5集
94試(3)	築地2-4-7	(1994.8.3~12)	532.36	宅地造成	なし	埋(17)
95試(1)	築地3-1-9.10	(1995.5.10~19)	303	宅地造成	なし	埋(18)
95試(2)	築地3-3-2	(1995.5.22~6.15)	542	宅地造成	古墳末期住居跡1	埋(18)
95試(3)	築地3-2-23	(1995.10.17~20)	153.25	個人住宅	なし	埋(18)
21次	築地3-2-23	1995.10.17~20	378.53	市道設置	古墳末期住居跡1	埋(18)
95試(4)	松山2-5-8.16	(1995.12.22)	413	宅地造成	なし	埋(18)
96試(2)	松山2-2-1	(1996.7.22~24)	489	宅地造成	溝1(時期不明)	埋(19)
97試(1)	松山1-4-17	(1997.9.11~18)	591	個人住宅	なし	埋(20)
22次	築地3-4-15.23	1997.12.15~24	419	個人住宅	平安初頭住居跡1、奈良末期竪穴柱建物3、縄文集石土坑7、土師器、須恵器、縄文土器、墨書土器1	埋(20)
98試(1)	築地3-2-13.24	(1998.4.16)	240	宅地造成	23次調査参照	埋(21)
98試(2)	築地3-2-23外2番	(1998.4.17、5.20~22)	450	宅地造成	なし	埋(21)
98試(3.4)	築地3-3-1	(1998.4.20~5.20)	922	宅地造成	中近世溝1ほか	埋(21)
23次	築地3-2-24の一部	1998.5.11~14	120	個人住宅	奈良後半住居跡1	埋(21)
98試(5)	築地1-3-18	(1998.7.1)	167.06	個人住宅	なし	埋(21)
24次	築地3-2-4の一部	1998.9.8~21	50	農地改良	飛鳥住居跡1	埋(21)
98試(6)	築地2-5-6	(1998.9.1~4)	363	個人住宅	なし	埋(21)
25次	築地3-2-23外2番	1999.3.3~12	240	個人住宅	奈良初頭住居跡2	埋(21)
99試(1)	松山2-1-10	(1999.4.16)	166	個人住宅	なし	埋(22)
99試(2)	松山2-3-3	(1999.5.6~12)	340		溝1(時期不明)	埋(22)
99試(3)	築地3-3-14.15	(1999.6.22~24)	778.29	宅地造成(分譲)	なし	埋(22)
99試(4)	築地3-5-15の一部 24.27	(1999.8.2~6)	745.58		ピット5(平安?)	埋(22)
99試(5)	築地3-5-28	(1999.8.26~9.1)	331.3	個人住宅	溝1(時期不明)	埋(22)
26次	築地1-3-21	2000.5.15~6.2 (2000.4.27~5.12)	627.9	市道設置	井戸2、竪穴住居跡1、土師器、須恵器、陶磁器片	埋(23)
00試(2)	築地1-3-5.25.27.35	(2000.5.17~25)	687.3	共同住宅	土坑1	埋(23)
27次	仲2-1-10の一部	2000.6.12~7.3 (2000.5.22~6.8)	912	共同住宅建設及び市道設置	奈良竪穴住居跡1、土師器、須恵器、陶磁器片	埋(23)
00試(4)	松山2-2-5	(2000.10.30)	592	共同住宅	なし	埋(23)
28次	築地1-1-28	2001.2.8~21	165.6	個人住宅	奈良住居跡1	埋(23)
00試(5)	築地3-1-28	(2001.2.2~13)	614	宅地造成(分譲)	飛鳥~奈良住居跡1	埋(23)
00試(6)	松山2-1-8.17	(2001.3.21)	174.9		なし	12年教要
01試(1)	新田2-450-1	(2001.4.12~13)	204.15	個人住宅	なし	埋(24)
01試(2)	仲2-1-10	(2001.5~18)	168	地区計画道路	近代以降溝3	埋(24)
01試(3)	築地3-4-10	(2001.5.10~15)	434.59	共同住宅	なし	埋(24)

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
01試(4)	仲1-1-2.3.14	(2001.9.12)	694.68	個人住宅	なし	埋(24)
02試(1)	築地1-2-8	(2002.5.20~23)	978	遺構所在確認	竪穴住居跡1	埋(25)
02試(2)	築地3-5-35.36	(2002.7.11)	248.09		宅地造成(分譲)	なし
29次	築地1-2-8の一部	2002.7.2~8.9	36	個人住宅	竪穴住居跡1	埋(25)
02試(3)	松山2-5-7	(2002.8.5)	358.57		宅地造成(分譲)	なし
02試(4)	築地1-3-28	(2002.8.20~21)	479	共同住宅	なし	埋(25)
02試(5)	築地1-3-22.25.30	(2002.8.22~28)	640.68	遺構所在確認	竪穴住居跡1【盛土保存】	埋(25)
02試(6)	松山2-6-5	(2002.9.9)	147	個人住宅	なし	埋(25)
03試(1)	本新田1-23	(2003.4.16~21)	1080.48	共同住宅	なし	埋(26)
03試(2)	築地3-5-3他6番	(2003.8.19~20)	2578.02	宅地造成	飛鳥竪穴住居跡2【盛土保存】	埋(26)
30次	松山2-2-3	2003.10.3~10	142.47	個人住宅	奈良竪穴住居跡1【調査実施】	埋(26)
04試(1)	築地3-1-16.32	(2004.4.22~23)	976	宅地造成	なし	埋(27)
04試(2)	築地1-3-37	(2004.4.26)	165	個人住宅	なし	埋(27)
04試(3)	松山2-6-11	(2004.6.16)	309	宅地造成	なし	埋(27)
04試(4)	築地2-5-14.25.27	(2004.8.5)	280	個人住宅	なし	埋(27)
04試(5)	築地3-4-12	(2004.9.6~8)	911	宅地造成	溝1	埋(27)
05試(1)	松山2-2-4の一部	(2005.4.6~7)	313	土地分譲	なし	市内1
05試(2)	築地3-1-32.34.43	(2005.4.19~21)	549	土地分譲	なし	市内1
05試(3)	築地2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	なし	市内1
31次	築地3-1-69	2005.6.14~23 (2005.6.9~13)	120	個人住宅	古墳住居跡1	市内1
05試(8)	築地2-5-3	(2005.8.30~9.13)	567	宅地造成	平安住居跡1	市内1
32次	築地2-5-3の一部	2005.9.8~13 (2005.8.30~9.7)	132	個人住宅	平安住居跡2	市内1
05試(5)	築地2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	なし	市内1
05試(4)	松山2-4-23	(2005.10.20~21)	161	個人住宅	なし	市内1
05試(6)	仲1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	なし	市内1
05試(7)	松山2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	なし	市内2
37	松山2-6-10.13	(2006.4.13)	228	個人住宅	なし	市内3
38	仲1-4-3.9.12.13.24	(2006.5.29)	2176	宅地造成	なし	市内3
39	築地2-3-10	(2007.1.10~20)	937	宅地造成	なし	市内3
40	築地1-1-5	2007.2.21~3.9 (2007.2.2~8)	1047	宅地造成	奈良住居跡1、中世遺構検出	市内3
41	中ノ島1-2-5	2007.2.21~3.5 (2007.2.7~9)	1281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内3
42	仲2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	なし	市内3
43	築地2丁目5番2	(2007.4.11~24)	668.13	分譲住宅	堀跡1、土坑1、旧石器ナイフ1点	市内4
44	築地3-2-10.2-14	(2008.6.9~11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
45	築地3-4-7の一部外	2008.10.1~23 (2008.9.4~30)	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、竪穴状遺構1、時期不明の溝10、土坑、ピット	市内6
46	築地3-1-33の一部 1-35の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
47	築地3-1-52	(2009.5.11.12)	121	個人住宅	ピット	市内8
48	仲2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
49	松山2-6-1.14.22の一部	(2009.10.17~22) 2009.10.27~11.18	449	宅地造成	平安時代竪穴住居跡1軒(住居内鍛冶炉検出)、土坑1、溝1、ピット1	市内8
50	松山2-5-3.17	(2009.11.27~12.1)	797	分譲住宅	溝1、ピット7	市内8
51	松山2-6-22.23.28の一部	(2010.5.10~13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内10
52	築地2-2-1	(2010.8.26~9.3)	694	分譲住宅	溝1、落とし穴1、工事立会	市内10
53	築地3-1-11	(2010.9.10~21)	205	個人住宅	近代以降の溝3、アグラ、慎重工事	市内10
54	築地3-1-6.76~83	(10/4~11/5) 9/21~10/1	540	宅地造成	奈良・平安住居跡3軒確認、西側1軒の住居は盛土保存、他2軒は本調査	市内9
55	松山2-4-24の一部	(2011.1.17) 1.18~1.31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、本調査	市内10
56	築地3丁目4-7、4-8の一部	(2011.4.4~14) 4.11~15	482.53	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡2他、本調査(一部工事立会)	市内11
57	築地3丁目4番47	(2011.4.4~15)	241	分譲住宅	遺構遺物なし、慎重工事	未報告
58	仲2丁目2-31	(2011.6.6~8) 6.14	114.54	個人住宅	井戸跡1、本調査	未報告
59	仲2丁目3番6、3番9	(2011.8.8~11) 8.11	559.7	個人住宅	土坑2他、本調査	未報告
60	仲1丁目1番15	(2012.3.26-27)	165.31	個人住宅	堀跡1、工事立会	未報告
61	仲2丁目3-3		113	個人住宅		未報告
62	築地3丁目5番 11.14.19	2012.8.10~12.29	842	宅地造成	縄文中期住居跡1、P2、溝1、須恵器、土師器、陶器	市内12

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市内遺跡群報告書

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は集合住宅建設に伴うもので、原因者より2011年3月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年4月6日から15日に行った。幅約1.5mのトレンチを5本と、幅約2mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、土坑や溝などを確認した。遺跡確認面までの深さは約50cmで、遺跡への影響が避けられないため申請者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2011年4月11日から15日まで行い、掘立柱建物跡とみられるピット13基、土坑1基、溝2本などを検出した。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

III 遺構と遺物

本地点で新たに確認された遺構は土坑と掘立柱建物跡の可能性のあるピットである。H35号住居跡の一部を再確認したが、『市内遺跡群6』2011.10で既に報告済みであるため、今回は平面の範囲を確認したのみで、再検出は行っていない。

(1) 土坑

土坑は1基検出した。調査区中央部の南寄りに位置する。平面形態は隅丸の方形を呈する。規模は南北200cm×東西220cm、深さ65.6cmである。底面は5～10cmの貼り床状を呈する。覆土層からは多数の須恵器や土師器片が出土する。

(2) ピット（掘立柱建物跡）

ピットは調査区の南部と東部に集中しておりピットの一部は掘立柱建物跡の可能性もある。

ピット1・3～5・10は、東側に隣接する第45地点の調査で、3号掘立柱建物跡（P1～4）としたものの続きと考えられる。

ピット2・5・11～13・16で一棟、ピット6～8で一棟と考えられる。各ピットの詳細は第10表のとおりである。

(3) 溝

調査区の中央部を東西に横切り、東側に隣接する第45地点に延びる。第45地点の調査で溝9・10とし

たものの続きである。

(4) 出土遺物（第31図1～19）

1～5は、須恵器蓋。肩部に回転削り痕あり。1～3・6・7は白色針状物質を多量に含む。1はほぼ完形。径14.0cm、高3.5cm。色調灰褐色。胎土は精錬され1mmほどの石英、黒色粒子を多量に含む。2・3は小破片。4は、1/2現存。径14cm、高3.3cm。胎土の小砂利は3mm程度でやや大きい。

5は、1/4現存。（推）径14.5cm、高3.3cm。色調青灰色。器面は滑らかで、胎土はよく精錬されている。6～8は須恵器蓋の破片で、いずれも1/6から1/8が現存。灰褐色で白色針状物質を含む。このうち6の口唇部が他とは違い、先端が平坦に作り口径も推定であるが、16cmと大きい。

9は、高台付き杯。1/2現存。口径14.2cm、高台径8.3cm、器高4.7cm。底部から直線的に体部が立ち上がる。高台内側の底面中央に回転糸切り痕あり。高台の貼り付け、底面周辺のなぞり痕が著しい。

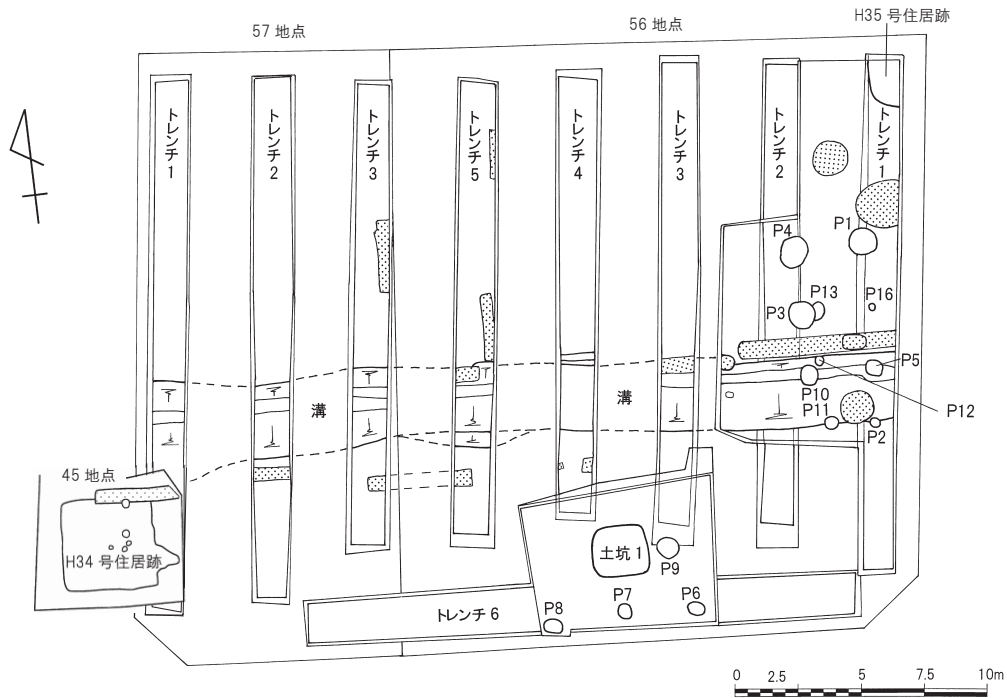
10～12は須恵器杯。10は1/6現存。口径13cm、底径完存で7.6cm。色調茶褐色。黒粒子・白色針状物質を多量に含む。底部は手持ちヘラ削り。11は完形、径13.2cm、底径8.2cm、器高4.1cm。回転糸切りの後、手持ちヘラ削り、周辺を2回転のヘラ削り。口唇部外側に重ね焼きによる、青黒い自然釉がかかり、その下部は茶褐色である。12は完形、径13.0cm、底径7.2cm、器高3.6cm。回転糸切りの後、周辺部幅2.5cmの回転ヘラ削り。石英4mmから1mmが多量に混じる。

13は口径1/3現存13.6cm。底部完存8.5cm。器高3.8cm。白色針状物質を多量に含む。回転糸切りの後、周辺部幅2.5cmの回転ヘラ削り。体部表面は、下段にロクロ痕跡が強く表れ、先端は外湾する。体部内面に煤が付着し灯明皿に使用されたものと思われる。

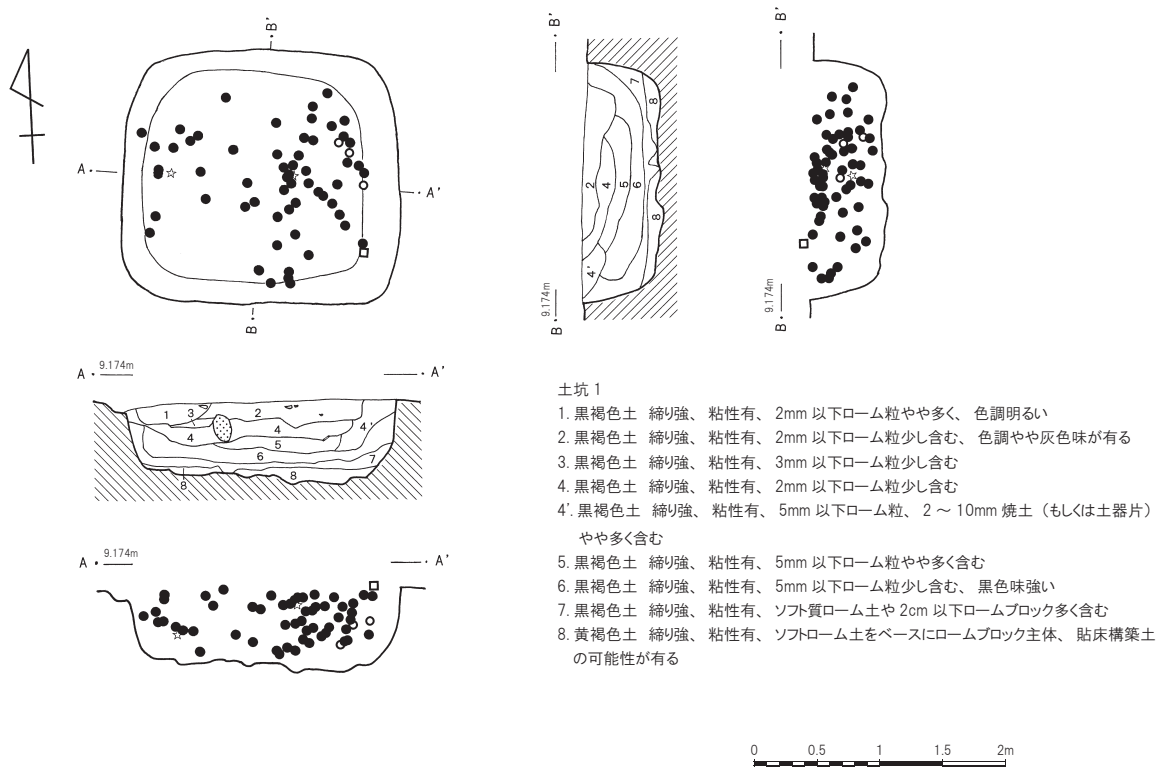
14は、須恵器杯の底部で墨書痕がみられる。白色針状物質を含む。（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団で赤外線撮影したところ『入』と読めそうであったが、入りの又の下に『=』のような記述がある。

15は須恵器壺の破片か。青灰色で器面は滑らかで、石英5mmなどを含む。

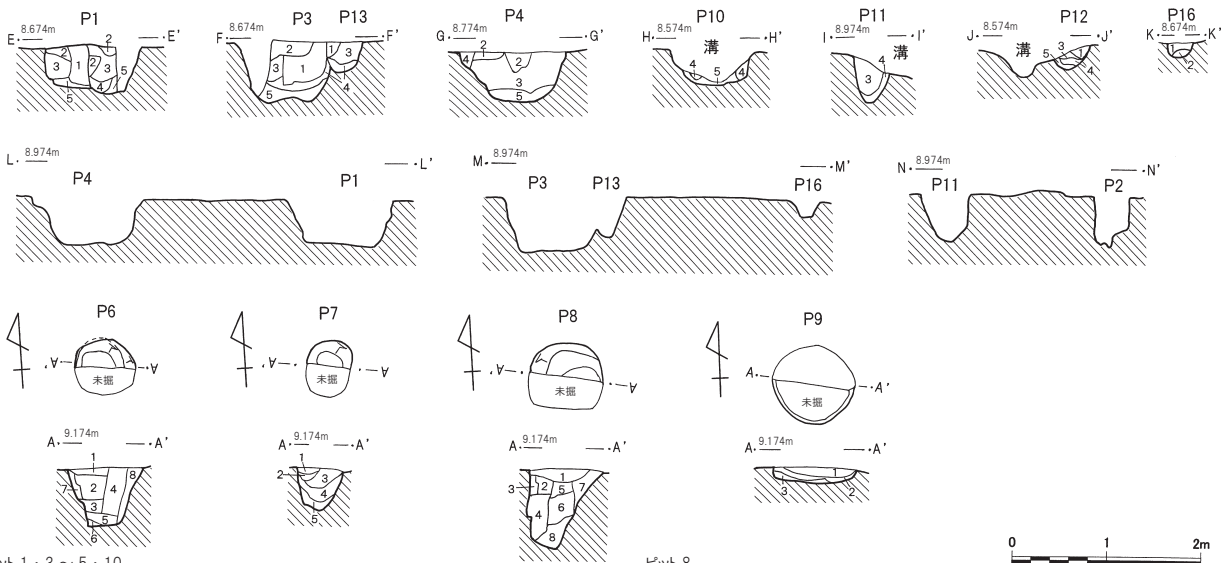
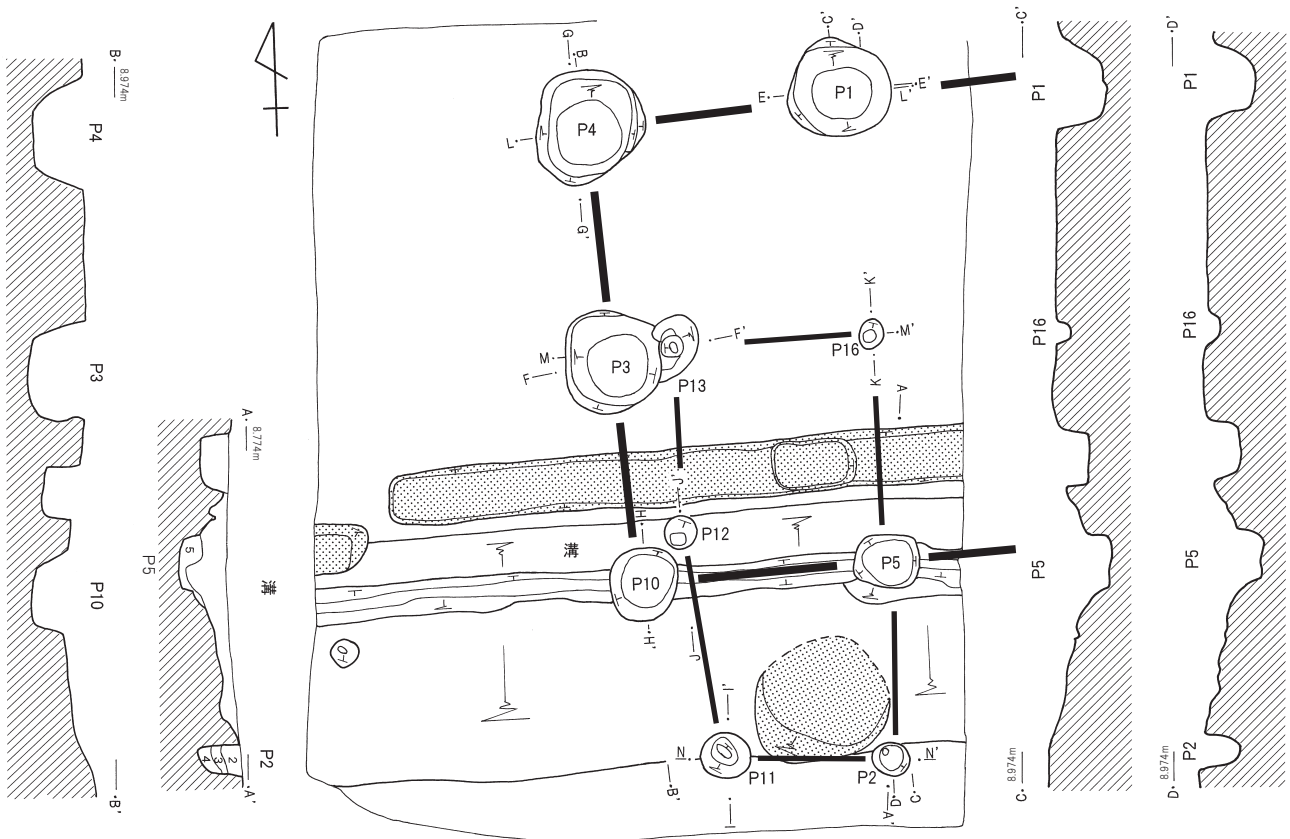
16は、須恵器の獣脚部分である。獣脚のつく本体は不明。脚の接合面から剥がれたもので、接合面は、10cmに及ぶことから、本体の高さは10cm以上になる。脚は、正面・側面とも非常に鋭利な工具で面取り。正面の面取りは幅1cmほどで狭く5回以上、側



第 28 図 松山遺跡第 56・57 地点遺構配置図 (1/300)



第 29 図 松山遺跡第 56 地点土坑 1 遺物出土状況図 (1/60)

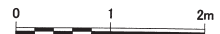


ピット 1・3～5・10

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、シミ状の3cm以下灰色粘土ブロックと5mm以下ローム粒多く、3cm以下ロームブロック少し含む(柱痕か)
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム土をやや多く含む、色調黄灰色味がある、3mm以下ローム粒やや多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む
 5. 黒褐色土主体 締り硬い、粘性有、ロームブロック主体で転圧を受けている、黒色土粒を含む
- ピット 6
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～20mmロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、他より締り弱め、柱痕か
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、2mm以下ローム粒少し含む
 6. 黄褐色土 締り強、粘性やや弱、2cm以下ロームブロック主体
- ピット 7
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム土やや多く、5mm以下ローム粒少し含む
 3. ピット1の1層に同じ
 4. ピット1の2層に同じ
 5. ピット1の3層に同じ

ピット 8

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ソフトロームブロック・1mm以下ローム粒やや多く含む
 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、柱痕か
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm大ロームブロック少し、2mm以下ローム粒やや多く含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
 8. 黒褐色土主体 締り強、粘性やや弱、2cm以下ロームブロック主体
- ピット 9
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
 3. 黄褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム主体
- ピット 2・11～13
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調灰色味がある、ローム土やや多く、2mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む
 5. 黒褐色土主体 締り強、粘性有、ソフト質のローム土を多く含む



第30図 松山遺跡第56地点掘立柱建物跡・ピット・溝 (1/60)

面は1回である。足の指の表現を加えている。面取り後、先端をえぐり指の表現をし、さらに、鋭利な工具で、線を加えて長い指としている。指数ははっきりしないが5本で右足のようなものである。

17は、管状土錘の破片である。直径1.1cm、重さ1.79gで、両端部共に欠損している。

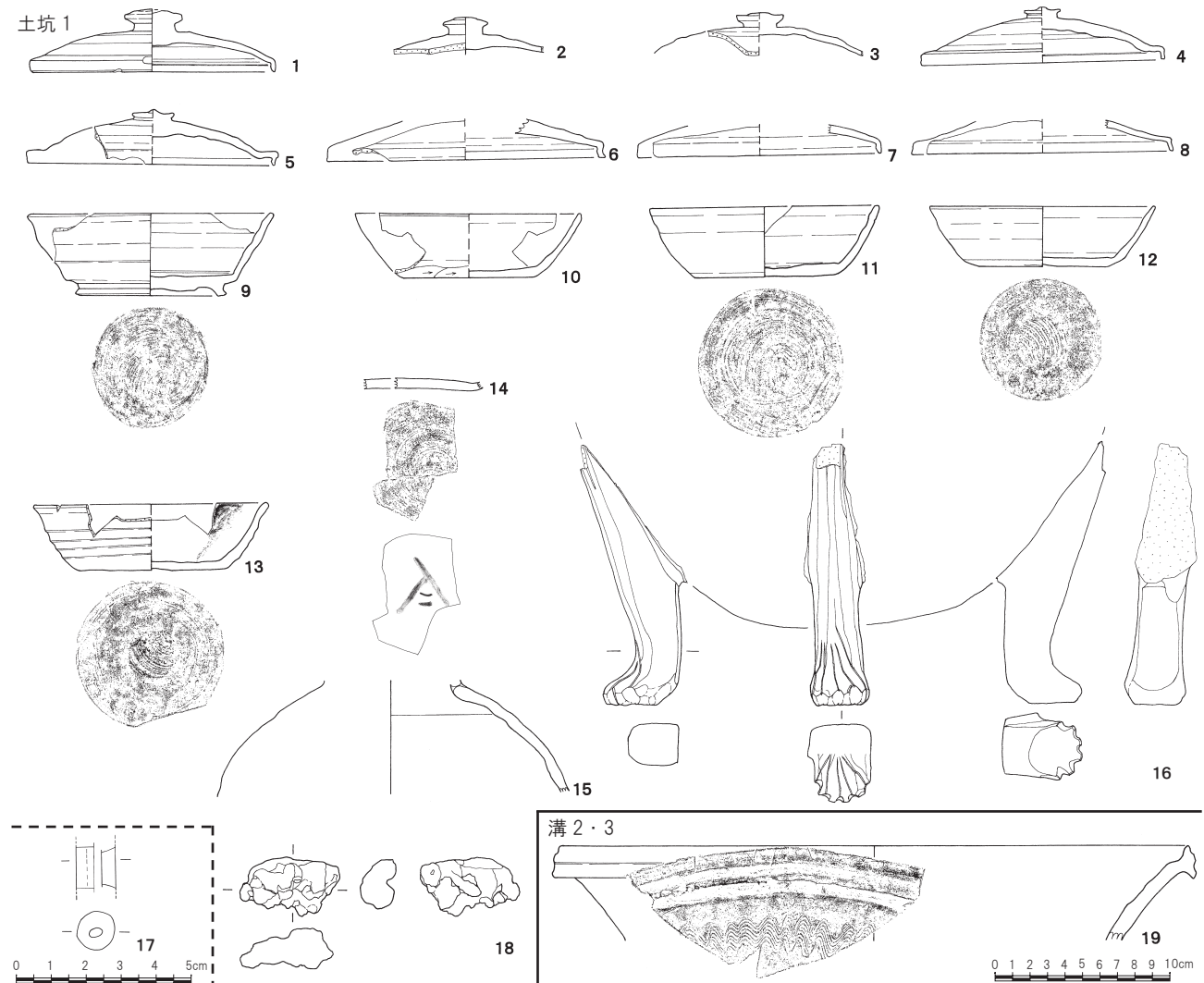
18は、鉄滓である。表面に土が付着している。重さ38.30g、長さ5.8cm、厚さ2.3cm、時期は不明。

19は須恵器壺形土器の破片で、現存1/8、推定口径36cm。頸部表面に櫛歯工具による波状文が施され、櫛歯は8本である。

土坑出土遺物は、獣脚が目される。須恵器杯の口径が13~14cmで、底部の調整は、回転糸切り後周辺部へラ削りが施されているもので、8世紀第4四半期を中心としたものであろう。(笹森健一)

第13表 松山遺跡第56地点土坑・ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	方形	220 × 199	175 × 167	65.6	
P1	円形	109 × 103	64 × 54	54.9	
P2	円形	42 × 34	7 × 5	52.0	
P3	隅丸方形	110 × 99	70 × 64	60.8	
P4	隅丸方形	120 × 114	68 × 68	53.4	
P5	円形	68 × 56	54 × 49	25.6	
P6	(隅丸方形)	65 × (31)	35 × (17)	71.0	
P7	不明	46 × (26)	28 × (14)	46.7	
P8	(隅丸方形)	75 × (35)	39 × (12)	83.9	
P9	(隅丸方形)	86 × (43)	79 × (38)	18.3	
P10	円形	76 × 70	58 × 55	36.2	
P11	円形	53 × 46	16 × 7	59.8	
P12	円形	34 × 34	17 × 13	25.1	
P13	不明	66 × (40)	15 × 8	43.8	
P16	円形	30 × 25	14 × 13	16.9	



第31図 松山遺跡第56地点出土遺物(1/4・1/2)

第5章 西ノ原遺跡第150地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

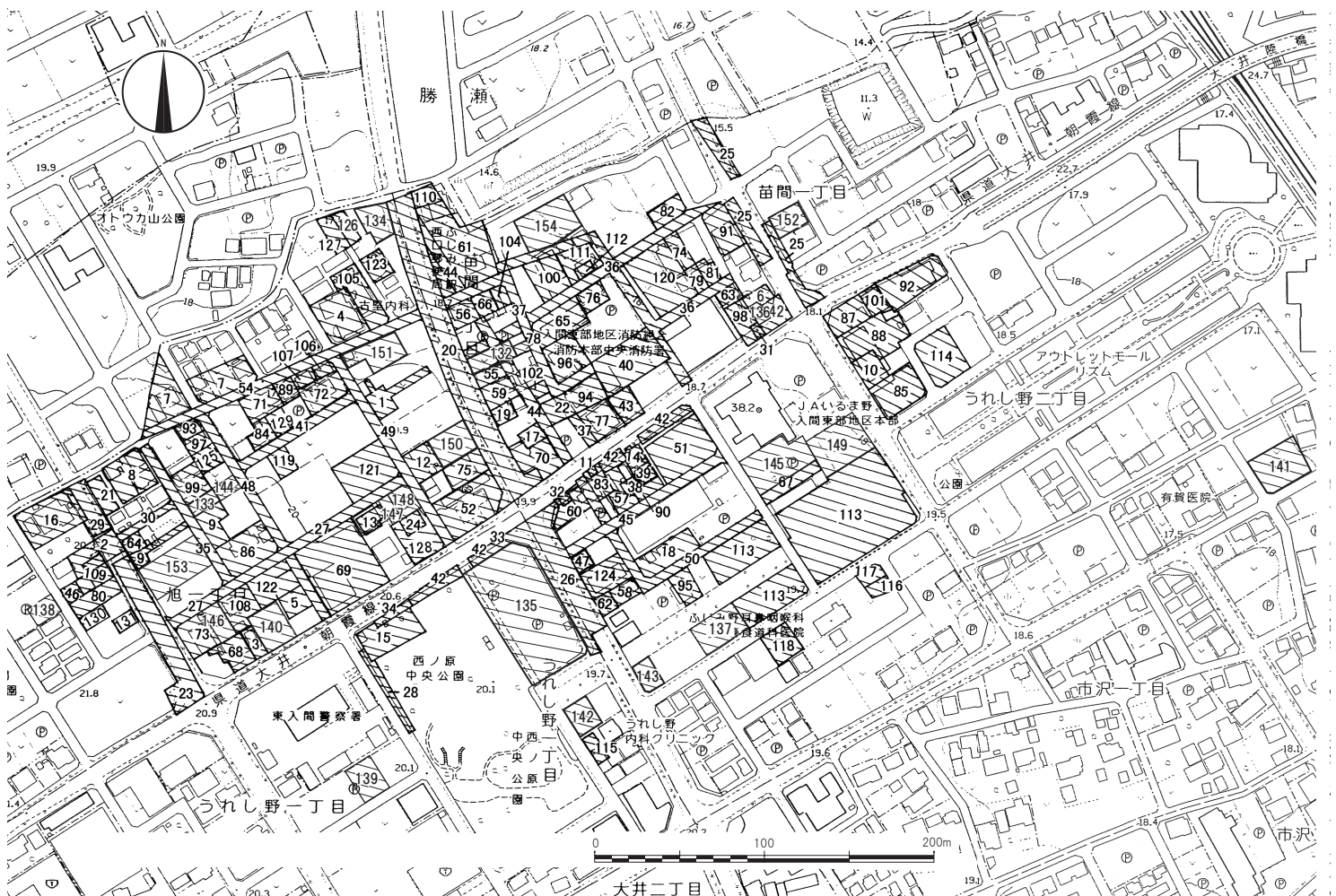
周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊

が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2013年12月現在で158地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、200軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 本調査に至る経過と調査の概要

申請地は西ノ原遺跡の中央部に位置するため、2012年1月16日付けで、原因者より宅地造成に伴う「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年1月23日から2月16日まで、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から遺構確認面までの深さは



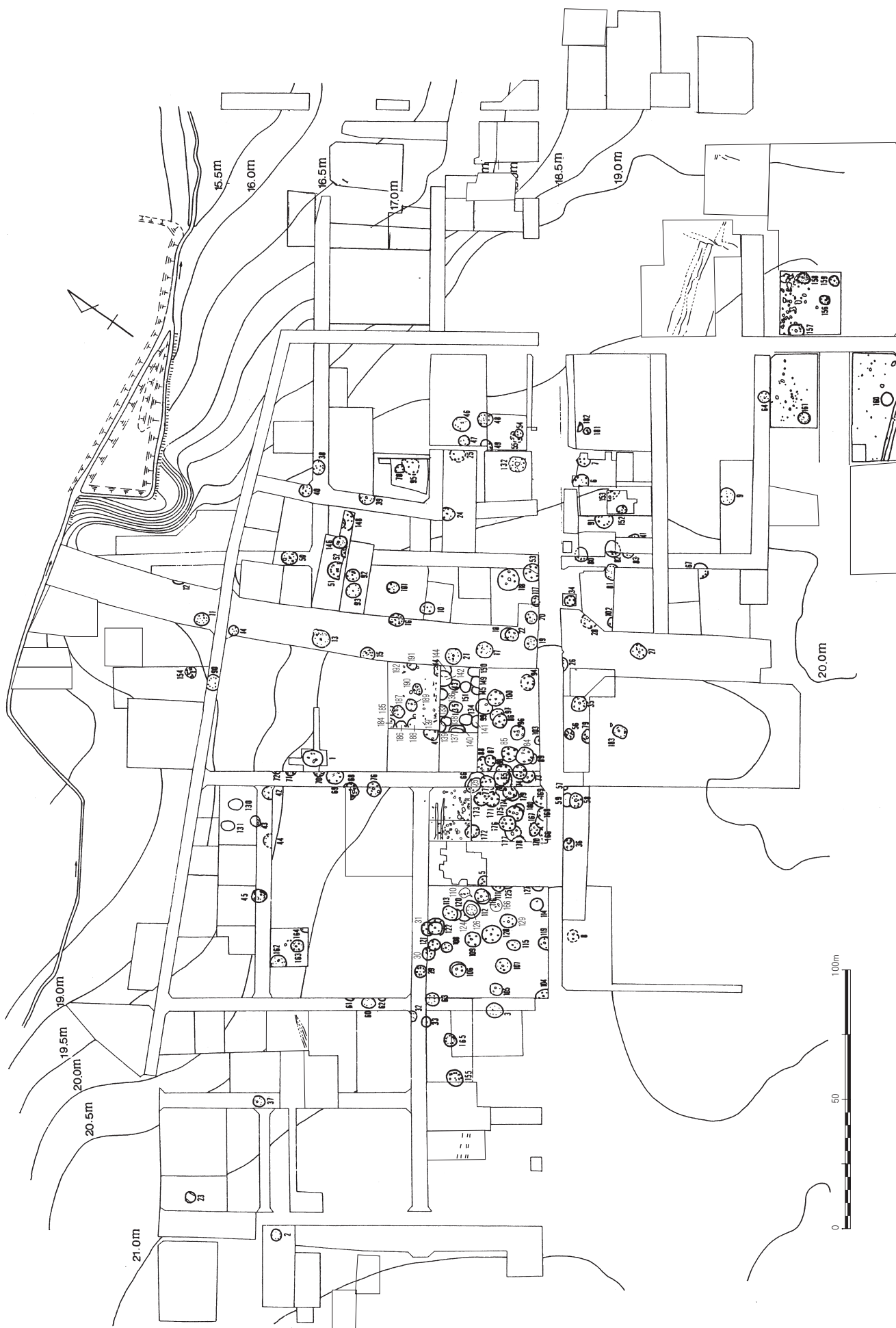
第32図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第14表 西ノ原遺跡調査一覧表

Table with columns: 地点, 所在地, 調査期間, 面積, 調査原因, 確認された遺構と遺物, 所収報告書. Contains 81 rows of archaeological survey data for the Nishihara site.

Table with columns: 地点, 所在地, 調査期間, 面積, 調査原因, 確認された遺構と遺物, 所収報告書. Contains 152 rows of archaeological survey data for the Nishihara site.

※東：大井町東部遺跡群、西：大井町西側遺跡群、町：大井町史資料編1、調査：大井町遺跡調査会報告書、市：ふじの野市内遺跡群



第33図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第15表 西ノ原遺跡住居跡一覧表

Table with columns: 住居番号, 調査率, 平面形(1)は推定, 規模, 遺跡, 土質, 土層, 土質, 土層, 備考, 時期, 文献. Contains 95 rows of archaeological data.

Table with columns: 住居番号, 調査率, 平面形(1)は推定, 規模, 遺跡, 土質, 土層, 土質, 土層, 備考, 時期, 文献. Contains 96 rows of archaeological data.

30～50 cmで、縄文時代中期の住居跡 12 軒の他、土坑 2 基、ピットらしきプランを多数確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

試掘調査の結果、原因者と再度協議を行い原因者負担による本調査を実施した。本調査の範囲は、開発区域内に築造される道路部分である。

本調査は 2012 年 2 月 20 日から 3 月 4 日まで、重機により表土を除去し、人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代中期住居跡 12 軒（うち 3 軒を本調査）、炉穴 1 基、集石土坑 2 基、ピット 35 基である。遺物は縄文時代早期末から中期の土器、石器などである。

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 住居跡

① 189 号住居跡

調査区中央部に位置する。試掘調査で住居の南側半分を検出、さらに道路部分に掛かる住居跡の東側半分を検出した。なお平成 12 年度の調査で北西側 1/4 を検出し、ほぼ住居跡全体を検出した。

【形状・規模・時期】平面形態は円形から楕円形を呈する。規模は上端 (4.2) × (4.0) m、深さは 26 cm を測る。住居跡の時期は加曾利 E Ⅲ期である。

【炉】住居中央部に位置する。平面形態は楕円形で北側の底部が被熱し焼土となっている。ピット 12 と重複するがピット 12 が新しい。規模は確認面径 (52) × 56 cm、底径 (44) × 44 cm、深さは 10 cm である。焼土範囲は 29 × 18 cm である。

【柱穴】主柱穴は配置と深さから P 1～5・13 である。P 12 は炉より新しいため本住居跡に伴うものか不明である。ピットの詳細は第 16 表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】住居床面から覆土層にかけて土器片や石器が出土するが、復元可能なものはない。

【189 号住居跡出土遺物】(第 38 図 1～11)

1 は平縁深鉢の口縁部で隆帯による楕円形区画を配し、隆帯に円形の刺突がみられる。胎土には雲母を含む。2 は隆帯の区画内に沈線文と沈線間に連続刺突を施す。3 は波状口縁で沈線の区画内に縦位の沈線文を施す。4・6 は地文 R L 縄文に沈線間を磨り消し、6 は沈線の懸垂文間を幅広に磨り消す。5 は地文条線で口唇部直下に横位の沈線を施し、その間は磨り消す。

7 は無文の浅鉢、8 は器台で穿孔がみられる。9 は砂岩製の切目石錘で先端部に 1 ケ所、下端部に 2 ケ所の切込みがみられ、重さ 23.54 g である。10 は焼き粘土塊で重さ 61.81 g である。11 はホルンフェルスの打製石斧で重さ 60.07 g である。1 は阿玉台 I b～II、2・8 は勝坂Ⅲ、3～6 は加曾利 E Ⅲ、7 は不明である。

② 190 号住居跡

調査区中央部、189 号住居跡の西側 2.8 m に位置する。

【形状・規模・時期】平面形態は楕円形を呈する。規模は上端 4.36 × 3.02 m、深さは 21.6 cm である。住居跡の時期は加曾利 E Ⅲ期である。

【炉】住居中央部やや北よりに位置する。平面形態は楕円形で南側の底部が被熱し焼土となっている。規模は確認面径 88 × 56 cm、底径 79 × 51 cm、深さは 26.3 cm である。焼土範囲は 44 × 31 cm である。

【柱穴】柱穴は P 1～9 である。ピットの詳細は第 16 表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】住居床面から覆土層と、炉の覆土層からまとまった土器片や石器が出土するが、復元可能なものは少ない。

【190 号住居跡出土遺物】(第 38 図 12～38)

12・13 は同一個体の口縁部文様帯と胴部文様帯を沈線で配する。口縁部文様帯は楕円形区画、胴部文様帯は「 Ω 」字状の区画を配し、区画内の地文は L R 縄文である。14 は地文 L R 縄文で沈線の懸垂文間を磨り消す。15 は波状口縁で、口唇部に隆帯で長楕円形区画を配し、頸部から胴部の地文は撚糸文を施す。16 は沈線文を施す。17 は口縁部で、地文撚糸文に 2 本組みの隆帯で横「S」文様を配する。18 は波状口縁の波頭部で隆帯の区画内に L r 撚糸文を施す。19・20 は隆帯の区画内に沈線を巡らす、地文は L R 縄文。21 は口縁部直下に列点文を巡らせ、沈線の区画内に L r の撚糸文を施す。22 は地文 L r 撚糸文に 2 本組隆帯の懸垂文と斜位の隆帯を貼り付ける。23 は地文条線文に横位の隆帯から 2 本組み半隆帯の懸垂文を施す。24 は地文 R L 縄文に幅広の沈線間を磨り消す。25・26 は地文条線で、25 は連弧文とみられる沈線文を施す。27 は地文 L r の撚糸文に隆帯の蛇行懸垂文を貼り付ける。28 は地文に沈線で 2 本組の懸垂文を施す。29 は地文縄文、30 は地文条線文に沈線の懸垂文を施す。31～33 は浅鉢の口縁部で内外面に赤

色の塗彩を施す。35・36は浅鉢の胴部で内面に赤色の塗彩を施す。32・33は同一個体とみられる。34は浅鉢の底部、37は深鉢の底部である。38は細粒砂岩製の打製石斧で重さ83.36gである。12～14・19・20・24は加曾利EⅢ、15・17・18・22・23・27は加曾利EⅠ、16は勝坂、21・25は連弧文系、28～30は加曾利EⅡで、それ以外も加曾利EⅠ～Ⅲに属する。

③ 191号住居跡

調査区東部に位置する。道路部分に掛かる住居跡の西側半分を検出した。東側半分は調査区外に延びるが、区画整理事業に伴う発掘調査では確認されていない。住居南側で埋嚢を検出したが、炉は確認されなかった。【形状・規模・時期】平面形態は半円形を呈する。規模は上端(3.92)×(2.2)m、深さは22.5cmである。住居跡の時期は加曾利EⅢ期である。

【埋嚢】住居内の南部に位置する。平面形態が円形の土坑に加曾利EⅢ式土器を正位に埋設する。底部から胴部上半まで残存するが、口縁部は耕作などの掘削により欠損する。掘り方の規模は確認面径33×28cm、底径8×8cm、深さは14cmである。

【柱穴】柱穴は4本検出したが、支柱穴は配置と深さからP1・2とみられる。ピットの詳細は第16表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】住居中央部のP2・3周辺と埋嚢周辺で、床面から覆土層にかけて土器片が出土する。

【191号住居跡出土遺物】(第39図39～58)

39は地文RL縄文に3本組み沈線の懸垂文を施し、沈線間を磨り消す。40は口縁部の突起である。41は地文縄文に沈線の区画内を広く磨り消す。42は地文縄文に微隆起線文と沈線文を施す。43は4本の沈線の懸垂文で、沈線間は丁寧に磨り消す。44は無文の口縁部である。45は波状口縁の波頂部で隆帯と沈線で渦巻文を配する。46は口唇直下の沈線間に列点文を施す。47は頸部に環状の把手と、半截竹管の内側による半隆帯による区画文を配し、中に沈線文を施す。48は隆帯を貼り付ける。49は地文条線に隆帯文の懸垂文を貼り付ける。50は地文撚糸文に隆帯を貼り付け、52は地文Lr撚糸文に沈線文を施す。51は地文RL縄文、53は地文RLR複節斜縄文で、沈線の懸垂文は磨り消す部分もみられる。54は地文縄文で幅広の懸垂文は磨り消す。55・56は地文撚糸文である。57・58は底部付近で57は地文条線である。

39・43・45・53・54は加曾利EⅢ、41・42は加曾利EⅣ。40・47は勝坂。50・55・56は加曾利EⅠ。46・52は連弧文系、49・57は曾利系である。

(2) 炉穴

炉穴は調査区の中央部に位置し、190号住居跡と重複し本遺構が古い。焼土等の硬化面はみられないが、住居跡より古く、覆土層に焼土粒および炭化物が多く含まれるため炉穴とした。また本調査区周辺では縄文時代早期の炉穴が多数検出されている。

平面形態は楕円形で、規模は確認面径116×84cm、底径95×64cm、深さは24.6cmである。

(3) 集石土坑

集石土坑1は調査区の東部、191号住居跡の南側に位置する。集石土坑2は調査区中央部、190号住居跡の北側に位置する。時期についてはともに縄文時代中期とみられる。詳細については第17表西ノ原遺跡第150地点集石土坑出土礫観察表のとおりである。

【集石土坑1出土遺物】(第39図59～75)

59は口縁部の突起で接合部は橋脚状を呈す。60は細い隆帯を貼り付ける。61は地文RL縄文、62はLr縄文を施す。63は沈線の区画内に条線文を施す。64は刻目隆帯脇に沈線を巡らせ、区画内に沈線文を施す。65は刻目のある低い隆帯を境に撚糸文と沈線文を施す。66は地文縄文に刻目隆帯と沈線文、67は撚糸文、68は地文縄文に細い隆帯を貼り付ける。70は沈線文に磨り消しを施す。69・71は地文縄文に沈線文を施す。72は沈線の区画内に条線を施す。73は撚糸文、74は条線文を施す。75は口縁部の環状把手で低い隆帯脇に沈線を施す。

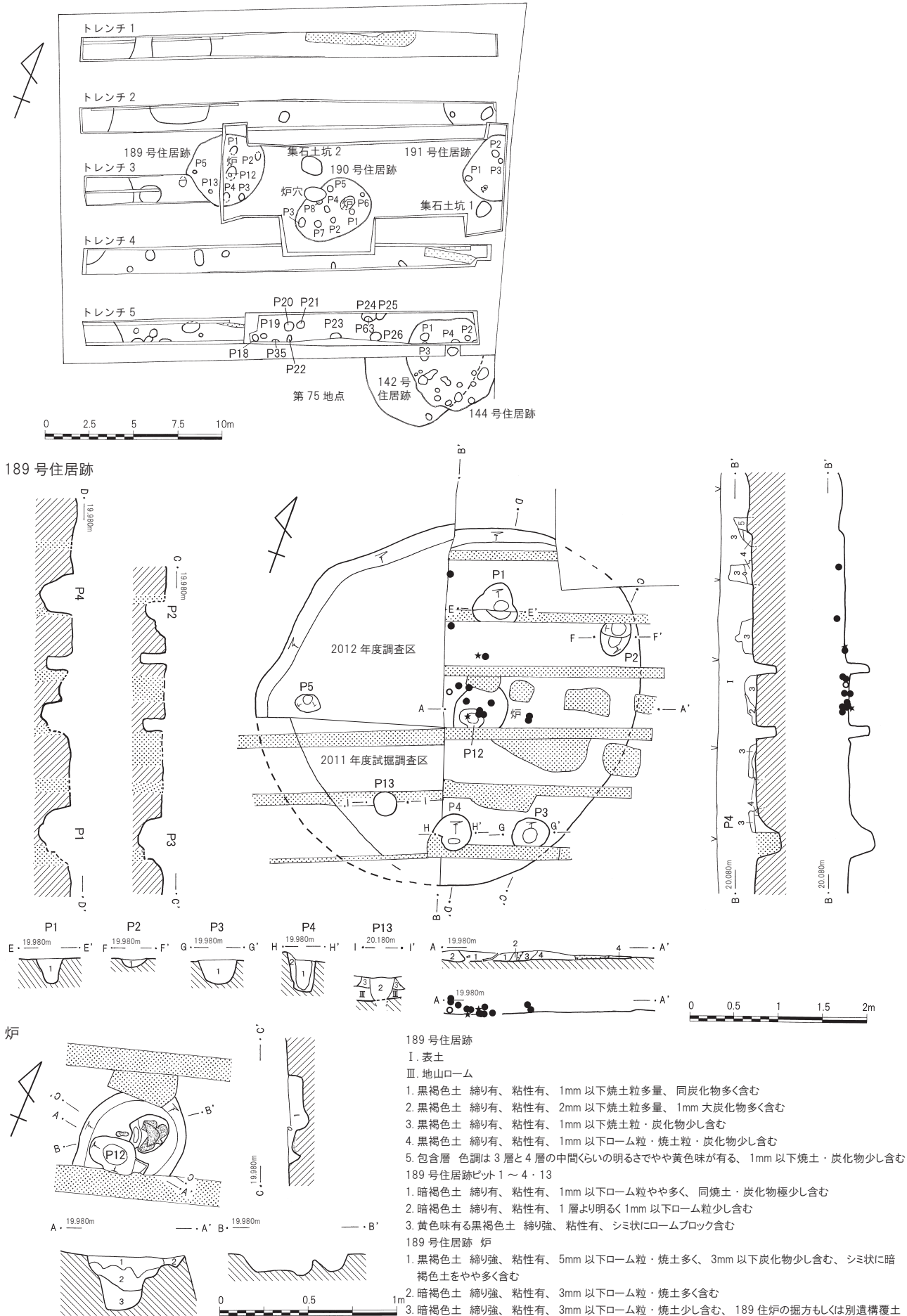
60・65・66は勝坂、64は勝坂Ⅱ、75は加曾利EⅠ、その他は加曾利EⅡ～Ⅳである。

【集石土坑2出土遺物】(第39図76～82)

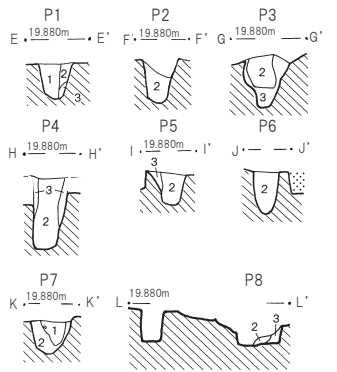
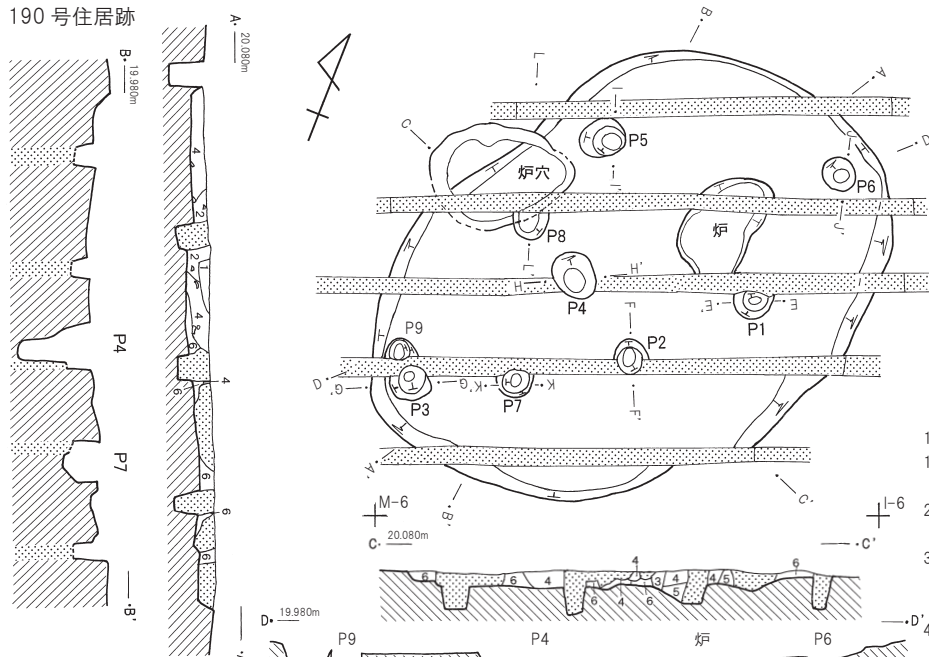
76・77は地文Lr撚糸文、79は地文縄文を施す。78は地文縄文に沈線を、80は地文縄文に沈線間を磨り消す。81は沈線の懸垂文、82は地文縄文の底部付近である。76～82は加曾利EⅠ～Ⅲである。

(4) 遺構外出土遺物(第39図83～85)

83は隆帯と沈線で口縁部区画を配し、中にLR縄文を施す。84無文、85は2本組みの沈線の懸垂文を施す。83～85は加曾利EⅡ～Ⅲである。



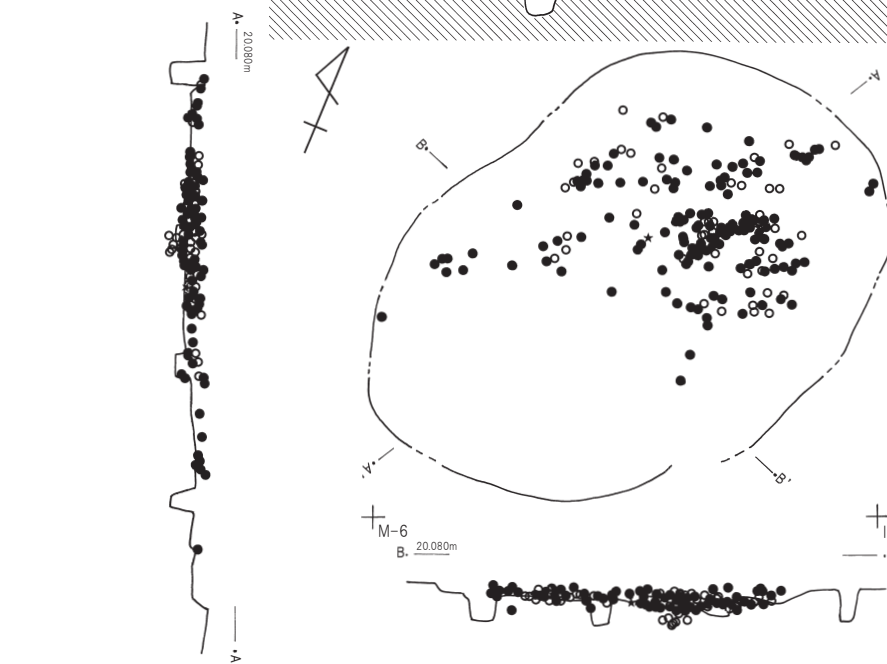
190号住居跡



190号住居跡

1. 黒色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・焼土やや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、4層より黒色味強く、うっすら斑状に2cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
4. 黄色味ある黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、3mm以下焼土・炭化物少し含む
5. 黄色味ある黒褐色土 締り強、粘性有、4層に似るが、3mm以下ローム粒多く含む、色調明るい
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、シミ状にローム土を多く含む

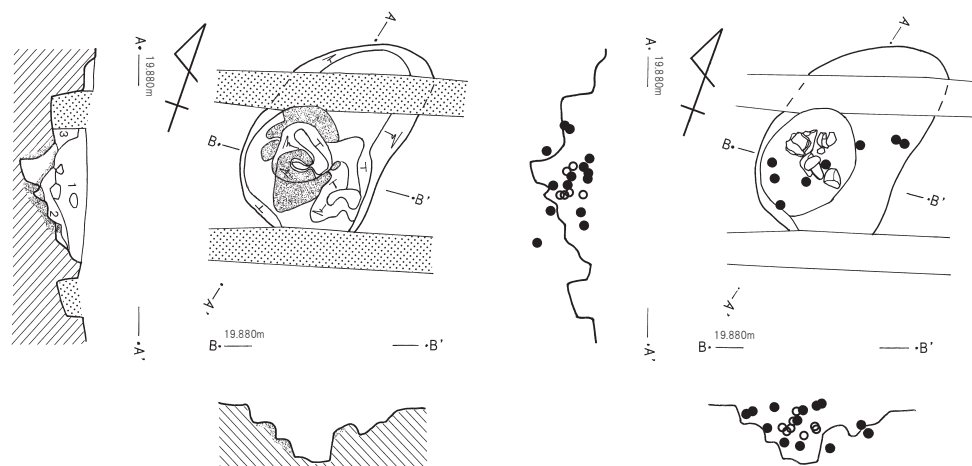
遺物出土状況図



- 190号住居跡ピット1~8
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、礫・土器含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む(1層より少ない)
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体にシミ状に1cm以下黒褐色土・ローム粒少し含む

炉

遺物出土状況図



190号住居跡 炉

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下シミ状ローム・1mm大ローム粒極少し、2mm以下焼土粒多く含む
2. 黒褐色土+赤褐色土 締り有、粘性有、5mm以下シミ状ローム・ローム粒極少し、3mm以下焼土粒多量に含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下シミ状黒褐色土・1mm大焼土粒少し含む

第35図 西ノ原遺跡第150地点190号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)

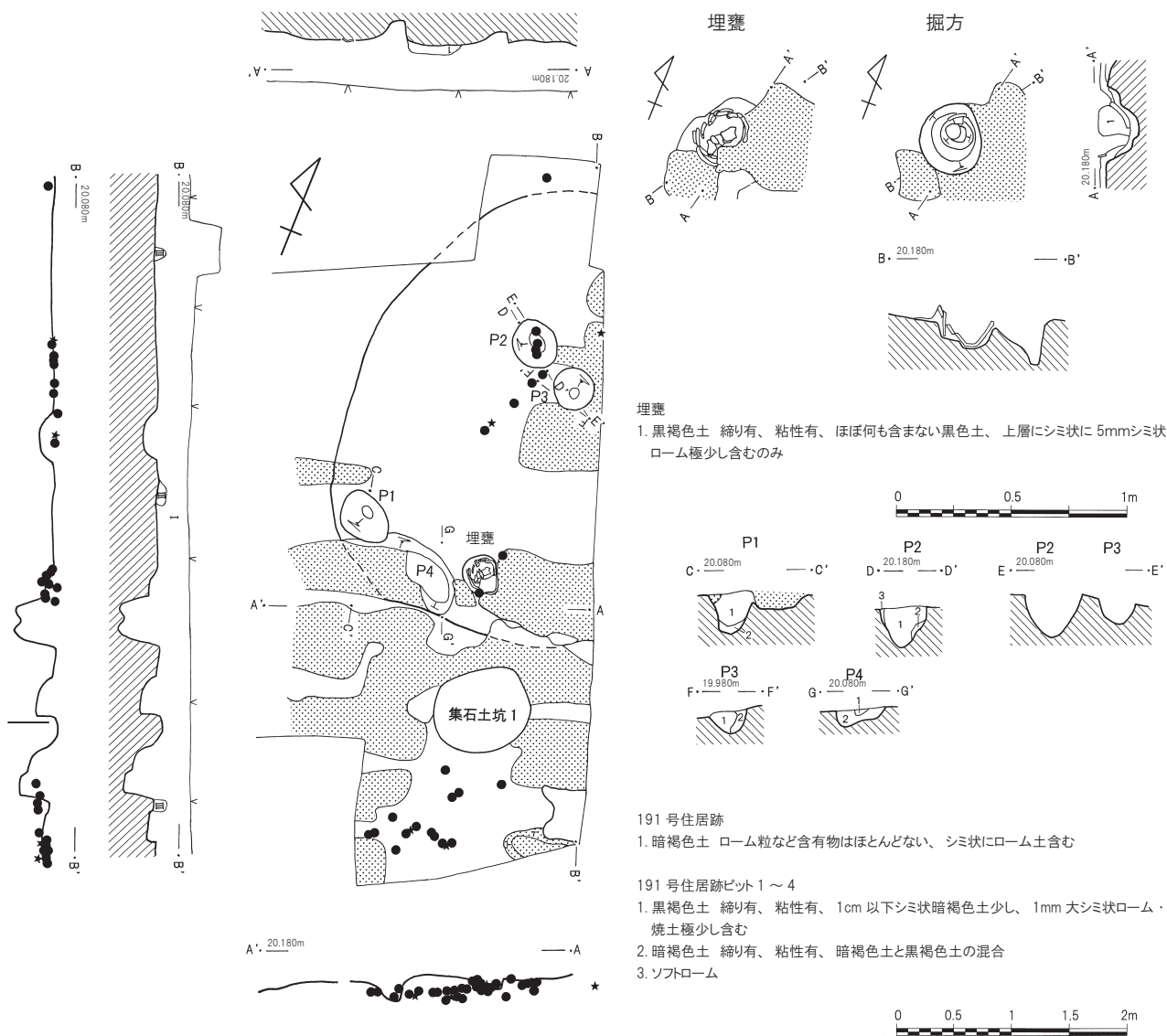
第16表 西ノ原遺跡189～191号住居跡ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
189住P1	不明	49 × (44)	15 × 12	36.9	
189住P2	(円形)	(35) × 34	16 × 12	25.0	
189住P3	(円形)	41 × (31)	16 × 15	26.8	
189住P4	円形	43 × 41	15 × 6	35.0	
189住P5	楕円形	28 × 21	11 × 10	27.1	
189住P12	楕円形	27 × 19	14 × 11	23.1	
189住P13	円形	27 × 25	-	25.0	
190住P1	不明	33 × (23)	10 × 7	30.1	
190住P2	不整形	28 × 26	14 × 10	36.6	
190住P3	楕円形	50 × 31	8 × 7	41.6	
190住P4	円形	39 × 33	19 × 15	59.6	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
190住P5	円形	35 × 31	15 × 13	34.1	
190住P6	円形	28 × 24	14 × 10	48.0	
190住P7	不明	30 × (22)	8 × 8	29.3	
190住P8	不明	29 × (20)	15 × (15)	14.4	
191住P1	円形	48 × 37	12 × 8	38.6	
191住P2	円形	45 × 37	19 × 10	36.4	
191住P3	円形	36 × 34	10 × 10	30.2	
191住P4	不明	(75) × 38	44 × 25	11.2	

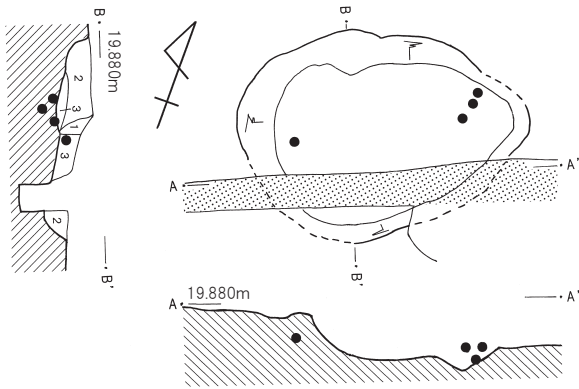
第17表 西ノ原遺跡第150地点集石土坑出土礫観察表 (単位 cm・個数・g (%))

集石No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	礫範囲	総点数	総重量	平均重量	破損個数	完形個数	焼成個数	未焼成個数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
1	不明	92 × (81)	15 × 10	29.2	93 × 57	237	7,007.42	29.57	208(87.76)	29(12.24)	49(20.68)	188(79.32)	38(16.03)	199(83.97)
2	楕円形	130 × 87	74 × 46	38.3	100 × 67	69	3,072.91	44.53	43(62.32)	26(37.68)	27(39.13)	42(60.87)	31(44.93)	38(55.07)



第36図 西ノ原遺跡第150地点191号住居跡・ピット (1/60)、埋葬 (1/30)

炉穴



190号住居跡 炉穴

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロック少し、1mm大ローム粒多く、同焼土粒少し、同炭化物極少し含む、全体に赤色帯びる
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、1mm大ローム粒多く、同焼土粒少し、同炭化物極少し含む、全体に赤色帯びる
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロック主体に、1mm大ローム粒極少し含む、焼土・炭化物含まない

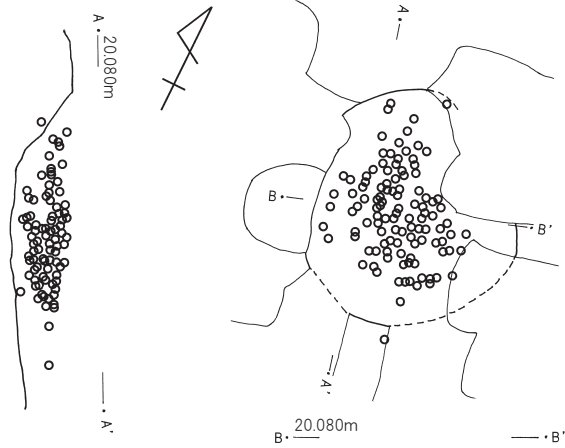
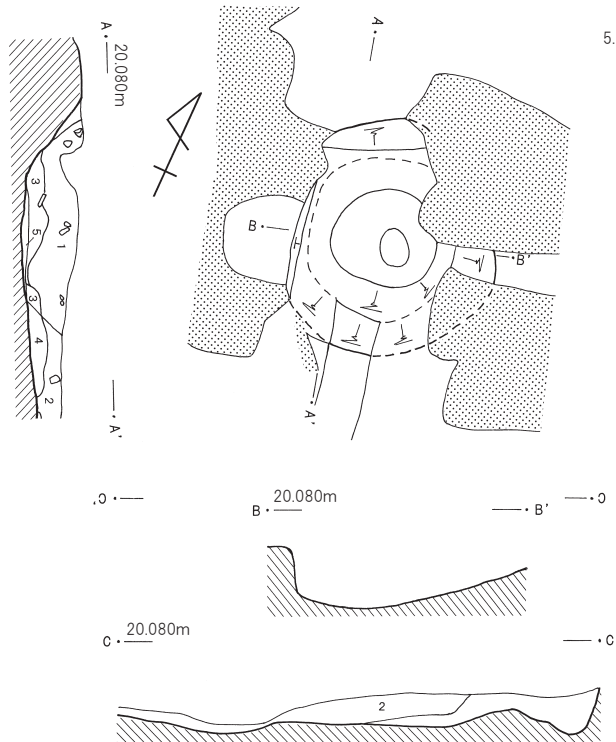
集石土坑 1

1. 黒色土 締り有、粘性有、礫多く含む、1mm以下焼土粒少し、ローム・炭化物極少し含む、2cm以下シミ状黒褐色土を下層に多く含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、1層より明るく、1mm以下ローム粒・焼土・炭化物極少し含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2層より明るく、1mm以下ローム粒・焼土・炭化物極少し含む、2cm以下シミ状ローム少し含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、2層より明るく、ローム粒・焼土・炭化物はほとんど含まない、ソフトロームより黒色で土器・礫含む
5. 暗褐色土+黒褐色土 3層よりローム多く含む、ローム粒・焼土は3層より少ない

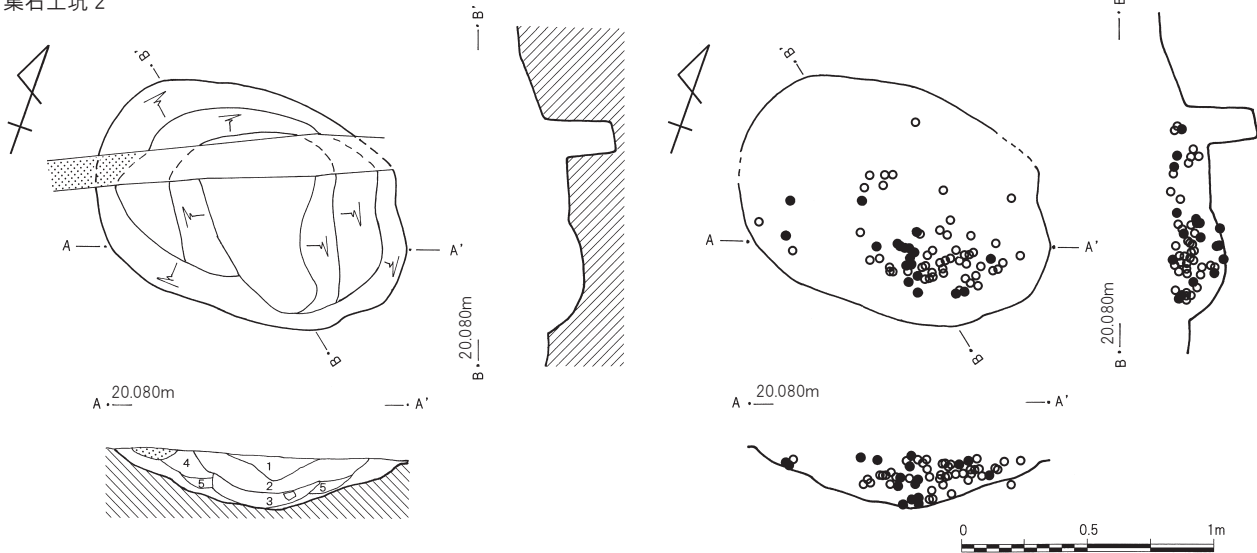
集石土坑 2

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・5mm以下炭化物やや多く含む、シミ状にローム土が混ざり色調は明るい
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・シミ状のローム土を多く含む、黄色味強い
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、黄色味の有る黒褐色土に、シミ状の2cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒・炭化物やや多く含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物少し含む

集石土坑 1

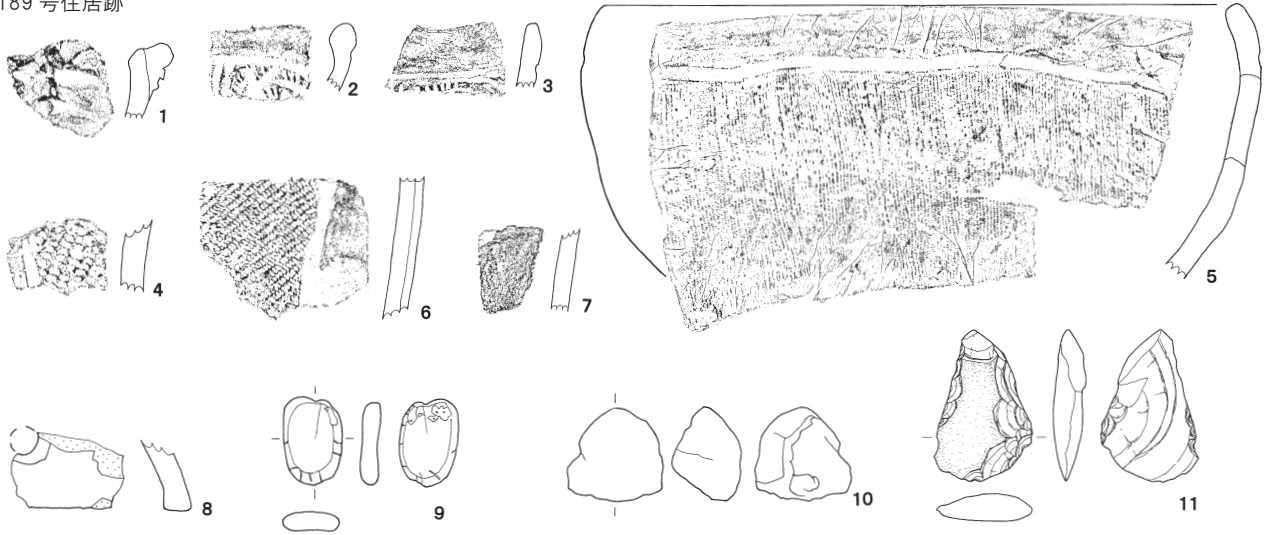


集石土坑 2

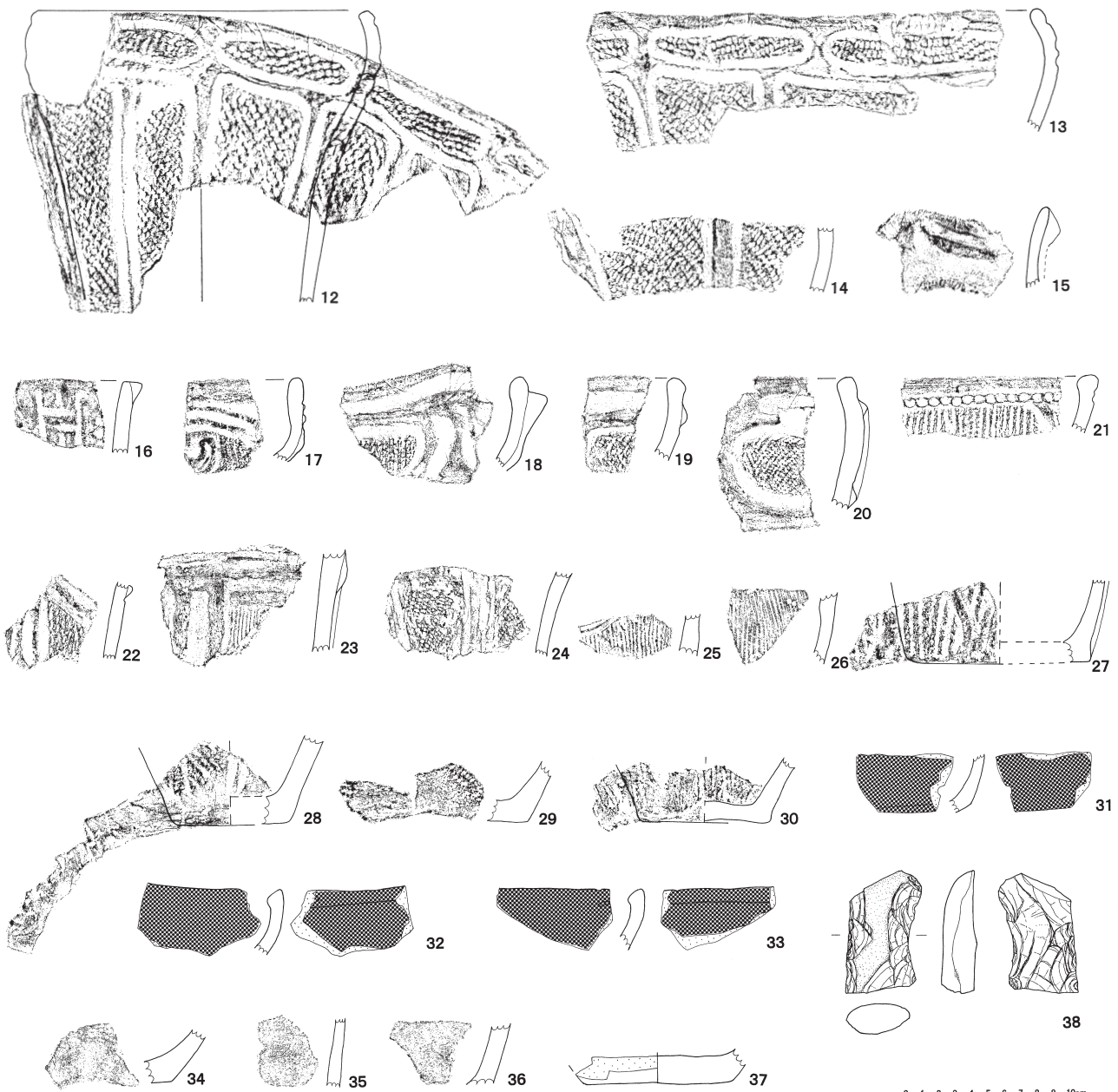


第 37 図 西ノ原遺跡第 150 地点炉穴・集石土坑 1・2 (1/30)

189号住居跡



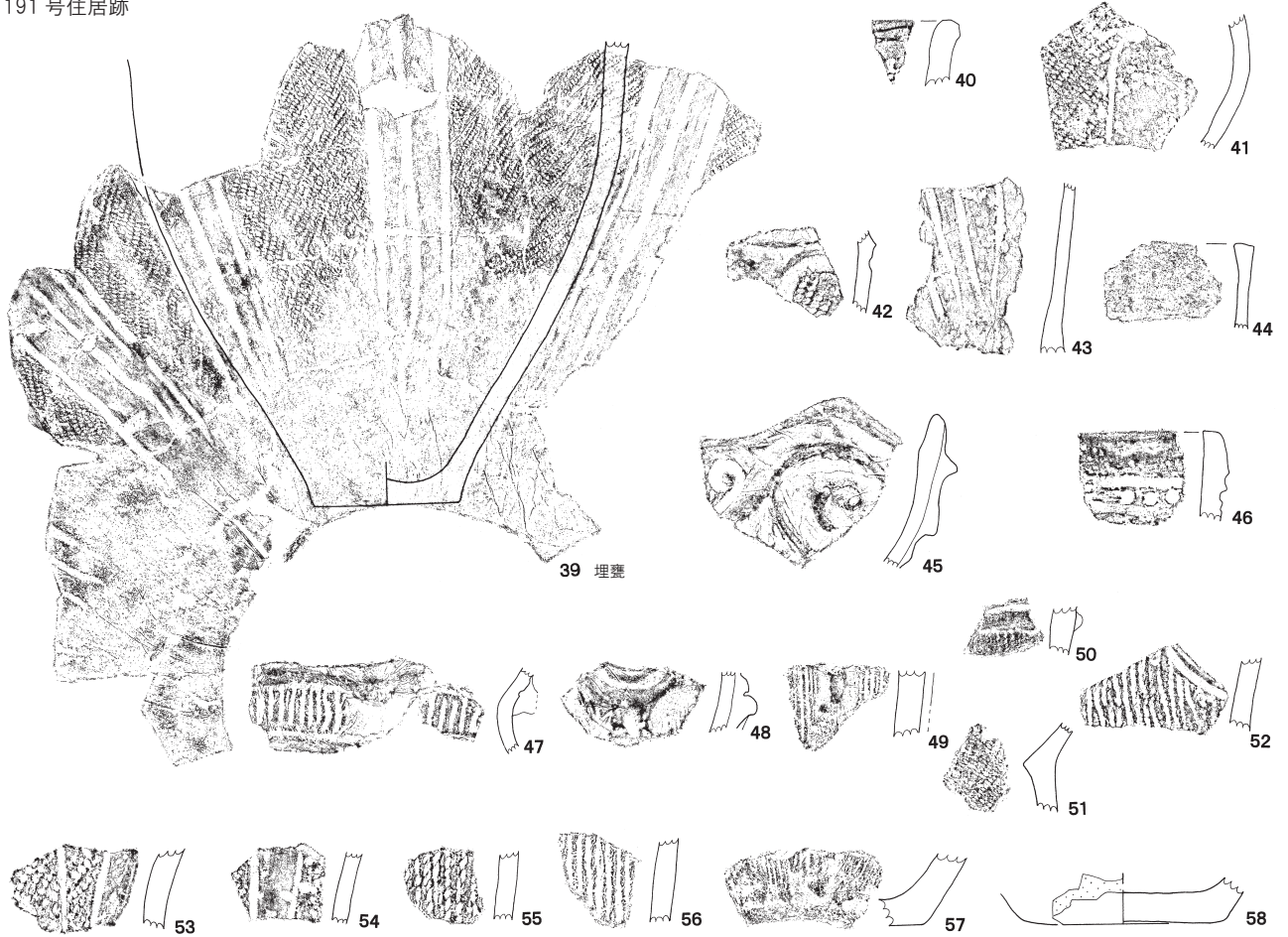
190号住居跡



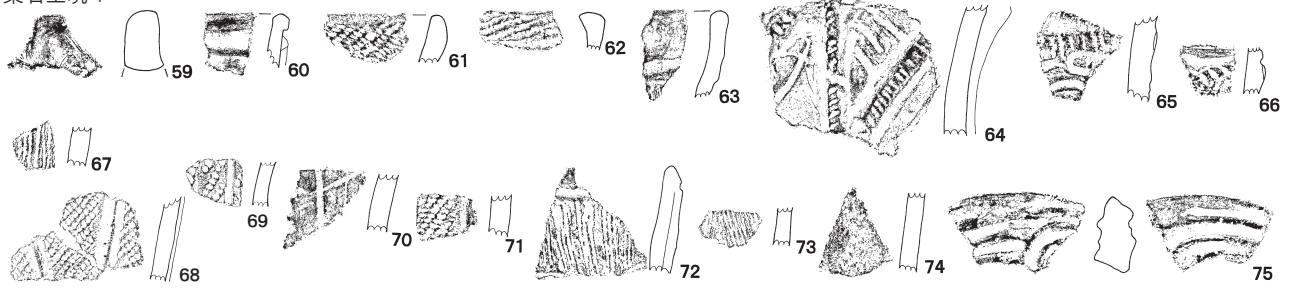
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第38図 西ノ原遺跡第150地点189・190号住居跡出土遺物① (1/4)

191 号住居跡



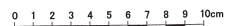
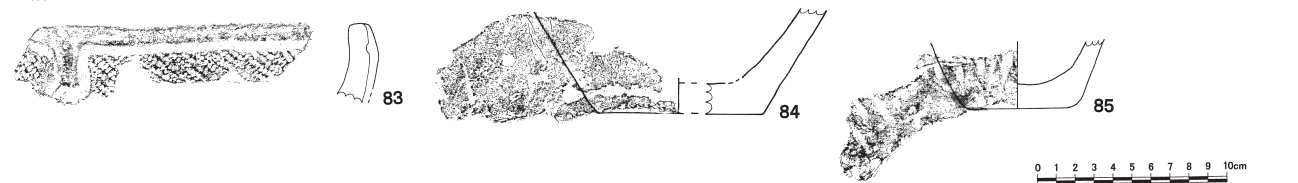
集石土坑 1



集石土坑 2



遺構外



第 39 図 西ノ原遺跡第 150 地点 191 号住居跡集石土坑・遺構外出土遺物② (1/4)

第6章 まとめ

2011(平成23)年度の埋蔵文化財調査は、63件の試掘調査のうち、15件の本発掘調査を実施した。本発掘調査の内訳は、個人住宅に伴うもの8件、公共工事1件、民間開発6件である。

民間開発に伴う本発掘調査のうち、4件の報告を本書に掲載した。開発種別の内訳は分譲住宅2件、共同住宅と宅地造成に伴うものが各1件である。

以下、本書に掲載した報告の内、時期別に主な遺構と遺物について概観する。

【縄文時代】長宮遺跡第34地点の調査で、縄文時代早期の炉穴15基を検出した。各遺構から、胎土に繊維を含む貝殻条痕文系土器が出土しており早期後半のものと思われる。特に注目されるのは、炉穴12としたものである。炉穴の周囲に、「コ」の字状に直径2～10cmで深さ2～7cmの小ピット73基を配する。祭祀的または調理・加工施設的な遺構の可能性が考えられる。西ノ原遺跡第150地点でも早期とみられる炉穴を1基検出したが遺物は出土していない。

縄文時代前期では、長宮遺跡第34地点で関山I式の住居跡1軒を確認し、全体の約60%を検出した。関山式土器は、昭和12年に山内清男先生が上福岡貝塚から発掘し、重要文化財に指定されている片口土器が有名で、現在も上野の国立博物館に展示されている。しかし近年では、長宮遺跡で関山式期の住居跡が相次いで検出されている。分布を見ると、長宮氷川神社の北側あたりに湧水源をもち、南東方向に流れ新河岸川に合流する小河川がかつては存在しており、その右岸沿いに広がる。小河川の作り出す微高地上に分布するものとする。滝遺跡の位置する左岸方向では現在の所は確認されていない。今後も新たな住居跡の発見に期待するとともに、関山I式、II式の時期的な分布による集落の広がり等も検討して行きたい。

今回のJ9号住居跡は消失堅穴建物の可能性も考えられる。また住居覆土層の白色・灰色の粘土層は、2013(平成25)年度に調査した第44地点J16号住居跡でも類似する粘土層がみられ、同時期における何らかの自然現象が、堅穴建物の覆土層の堆積に影響した可能性が考えられる。河川を原因とするものか、または縄文海進等の影響によるものか、堆積物の分

析を行うなど今後の課題としておきたい。

中期では、西ノ原遺跡第150地点で11軒の住居跡を確認し、3軒(189～191号住居跡)を本書に掲載した。2軒は加曾利EⅢ期でもう1軒は加曾利EⅡ～Ⅲ期とみられる。西ノ原遺跡ではこれまでに、200軒を越す中期の住居跡が確認されている。全体として双環状を呈する集落配置も、中期初頭から前葉は西側に分布しその後東側に移動する傾向がみられる。

【古代】松山遺跡第56地点では8世紀後半の土坑1基と掘立柱建物跡2棟を検出した。うち1棟は隣接地の第45地点で調査した3号掘立柱建物跡と同一である。土坑1からはまとまった須恵器が出土し、中でも獣脚(第31図16)は市内で初めての出土である。胎土に海綿状骨針を含むため南比企産と考えられる。松山遺跡第15次調査では9世紀初頭の須恵器の鉄鉢も出土しており、集落の性格を考える上でも興味深い。

【中近世】長宮遺跡第34地点では井戸9基を検出した。井戸9から出土した遺物は、18世紀以降の時期である。溝は17世紀以降の近世期である。

長宮遺跡第36地点で井戸16基、土坑4基、溝16本、ピット20基を検出した。井戸や土坑からは陶磁器の他に、板碑や石製品などが出土した。7基の井戸と土坑2から出土した陶磁器の年代は14世紀から16世紀後半までで、溝は14世紀から17世紀初頭までの時期である。井戸13から7点の板碑が重なるように出土した。年代の分かる板碑は1340年から1469年の間であるが、井戸の使用年代かどうか不明である。本調査区周辺で検出した井戸は、第30地点の井戸8から近世の軒丸瓦が出土する以外は、近世陶磁器が出土していない。第30地点は第36地点の北側約20mに位置し、井戸7基、溝2本等を検出し、井戸2からは板碑2点が出た。今回の調査成果とほぼ同様の傾向がみられ、板碑と井戸の埋没課程(廃棄)に何らかの意図が感じられる。第30・36地点の溝は土層の堆積状況などから近世期の遺構と考えていたが、井戸と近い時期の遺構である可能性が高い。

最後に、本書に掲載した遺跡の開発関係者の皆様、各地権者の皆様には発掘調査から整理作業、報告書刊行に至るまで、埋蔵文化財に対するご理解と費用負担にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。